

3 社会との連携、国際交流等に関する目標(大項目)

(1) 中項目 1 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目 1 「教育面では『社会人教育、産官学人事交流、学界活動等を通して、地域社会も含めて世界に情報発信・啓蒙活動の促進を行う。』」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 1－1 「【56】 本学における公開講座、オープンキャンパス等をはじめとする教育機会の積極的な広報を行うとともに、支援体制のスタッフ育成を図る。」に係る状況

一般を対象とした公開講座等については、世界文明センター(資料 56－1)で著名人を招致した講義・講演や、大田区と連携した区民大学での「東京工業大学提携講座」(資料 56－2)等を行った。そのほか、東工大・朝日カルチャーセンター・ジョイントコース(資料 56－3)、ものづくり教育研究支援センターの親子を対象とした「ものづくり体験」などの体験型教育(資料 56－4)、オープンキャンパスでの研究室公開(資料 56－5)など幅広い分野で年 50 回以上開催している(資料 56－6, 7)。

社会人を対象とした講座として、企業において概ね10年以上の実務経験を有し、企業の次世代を担う30～40歳代の現場技術者を対象とした、「製造中核人材(スーパーマイスター)」を育成する社会人向け講座を「ものづくり教育研究支援センター」に開設(資料56－8)し、大田区の関連組織である(財)大田区産業振興協会と協力して、「東京工業大学技術交流セミナー」を開催(平成20年3月現在40回開催)するなど地域産業との連携・交流による社会人教育の機会提供を積極的に進めている(資料56－9)。

また、平成20年度には、中小企業の次世代を担う中核人材のキャリアアップのため、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムによる「キャリアアップMOTプログラム」を開講することとした。

一方、講義情報のプラットフォーム(Tokyo Tech OpenCourseWare)(資料 28－8 P123)を構築し、講義資料をホームページ上で公開しており、大学の講義情報を社会に向け広く発信している(平成 20 年 3 月現在 293 科目)。

産官学の人材交流に関しては、特任教授、客員・連携教員の制度を制定し、産学連携推進本部、国際室、学生支援センター(キャリアアドバイザー)等に外部人材を採用している(資料 56－10)ほか、企業等からの受託研究員・共同研究員を積極的に受け入れている(資料 56－11)。また、教員採用は、公募性を採っており産官学機関からの採用者も多い(資料 29－4 P127)。学界活動については、教員の個人評価項目に学界活動を盛り込み、積極的な活動を評価する体制が整っている(資料 56－12)。

広報及び社会連携の支援体制充実については、学長直属のマネジメント組織である広報・社会連携センターを、平成 19 年度に広報センターと社会連携センターに独立させ、強化を図った。スタッフ育成については、本学の学生が高校生等の見学者を案内する「キャンパスガイド」制度(資料 56－13, 14)を導入し、職員・学生が融合した支援体制を推進した。

(資料 56-1) 世界文明センター講座・催し



講座・催しへようこそ



東京工業大学世界文明センターでは、学生・教職員の皆さんはもちろん、本学以外の学生、並びに一般の皆さんにも参加いただける講座・催しを多数開催いたします。

日程・詳細が決まり次第、随時こちらのページでお知らせいたしますので、ご注目下さい。

事前のお申し込みが必要な講座・催しに関しては、ホームページより専用のフォームを利用してお申し込み頂けます。

講座・催し

[吉本隆明（ビデオ出演）+ 瀬尾育生 + 田中理恵子 + 井口時男](#)

[シンポジウム 「吉本隆明の表現思想」](#) - [「芸術言語論」の意義](#)

2007年11月16日（金）

時間：18時00分～20時00分

場所：大岡山キャンパス西9号館2F デジタル多目的ホール

吉本隆明特任教授が本センターのために語り下ろした『芸術言語論』が完成した。『言語によって美とは何か』や『共同幻想論』以来の思索の成果を踏まえて、新たな概念を提示するとともに、神話・歌謡から小説や現...

研究会

[長谷川宏](#)

[「ヘーゲルと現代」](#)

2007年10月16日（火）

2007年10月23日（火）

2007年10月30日（火）

時間：18時40分～18時50分

場所：大岡山キャンパス 西9号館 W932 講義室

10/16(火)、23(火)、30(火)、全3回。

哲学者・ヘーゲル研究者として著名な、長谷川宏先生（哲学者）をお招きし、セミナー形式の研究会を開きます。

近代哲学の泰斗、ヘーゲルの著作を踏まえ、自由にその思想を読み...

2007レクチャーシリーズ秋・冬

[篠田正浩](#)

[「私が体験したデジタル映画」](#)

2007年11月15日（木）

(以下略)

平成19年度開催数 40件

出典：世界文明センターホームページ，評価・広報課作成資料

(資料 56-2) 2007 春季大田区民大学—東京工業大学提携講座

大田区民大学[2007 春期区民大学]

東京工業大学提携講座

～ 持続可能な循環型社会をめざして～

最先端の科学の知見・研究成果を、第一線の研究者の方々からわかりやすく紹介してもらうことで、「持続可能な循環型社会」の意義とその創造の必要性について理解を深めましょう。

※学習コーディネーター 東京工業大学 大学院理工学研究科
物質科学専攻 教授 市村 慎二郎

- 対象: 16 歳以上の方
- 定員: 100 名
- 会場: [大田南地区行政センター](#) 大会議室
- 詳細は大田区 HP ([区民大学のご案内](#)・[東工大提携講座](#))へ

回	日程	内容	学習支援者
1	5月23日 (水) 19 時～21 時	環境経済学から見たごみ問題解決へのアプローチ 環境型社会システムを構築し、ごみ排出量の削減、リサイクル、再利用を促進することが重要な政策課題となっている。このため、中央環境審議会廃棄物・リサイクル意見具申では、循環型社会に向けた取組として、経済的手法(有料化)の推進、一般廃棄物処理コスト分析や効率化の推進の必要性をあげ、十分な減量効果発揮のために必要な料金設定の必要性を述べている。この講義では、環境経済学の立場から、どのような廃棄物政策を実施するのが望ましいのか、その現状はどのようなものか、現在の政策のどこに問題があり、どのように修正すべきなのかについて解説・議論する。	日引 聡 先生 東京工業大学 大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻 国立環境研究所

~~~~~

〈以下省略〉

毎年度 6 講義

出典：大田区役所ホームページ，評価・広報課作成資料

(資料 56-3) 東工大・朝日カルチャーセンター・ジョイントコース (抜粋)

# Cafe VALDES

東京工業大学 社会理工学研究科 価値システム専攻ブログ

東工大・朝日カルチャーセンター・ジョイントコース

## 環境危機に立ち向かう ―グリーンジャパンをめぐる対話―(7月17日)

講師: 橋爪大三郎(東京工業大学教授) × 高橋世織(東京工業大学世界文明センター特任教授)

日時: 2007年 7月17日(火) 18時30分～20時30分

受講料: 3000円

会場: 東京工業大学 大岡山キャンパス西9号館3階 W935

概要: 地球温暖化を「このままほおっておくと、大変なことになりますよ」と、専門家は警告する。日本は立ち上がれ! 人類を救うグリーンジャパン構想を提案する、二人が熱く語ります。最近の異常気候は、どう考えても温暖化のせい。環境危機が迫っている。ゴア元副大統領の『不都合な真実』のその先で、私たちはどう行動すればよいのか。もともと資源効率が高い日本文明を、世界のモデルとしよう。Jフード、Jラーニング、Jカーなど、数々のアイデアを含むグリーンジャパン構想を提案する世界文明センターの二人が、熱い討論を繰り広げる。

略歴: 橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう)

東京工業大学教授・世界文明センター副所長、社会学者。

主な著書に、『科学技術は地球を救えるか』(富士通ブックス)、『アメリカの行動原理』(PHP新書)、『隣のチャイナ』(夏目書房)など多数。最近では環境危機について研究を進めている。

高橋世織(たかはし・せおり)

東京工業大学世界文明センター特任教授、文芸評論家。

20世紀表象文化、映像文化論、宮沢賢治研究などを専門とする。

著書に『感覚のモダン』(せりか書房)、編著に『映画と写真は都市をどう描いたか』(ウエッジ選書)ほか。

(以下略)

出典: 社会理工学研究科価値システム専攻ホームページ



(資料 56-4) ものづくり教育研究支援センター体験型教育



# 夏休み親子ものづくり

ものづくり教育研究支援センター

ものづくりセンターは一般の方々にも広く開放し、所在の認知を上げるとともに、「ものづくりは物をつくるが、人の心をもつくる」という「ものづくり」のあり方を見て触って学んでほしい場としている。



## ☆☆参加した子供たちからの感想☆☆

- 立派なバギーができました！！細かい部品を組み立てていくのが、ワクワクして楽しかったです。作ったバギーは、坂道やじゃり道でも走れて「すごいバギー！！」とびつりました。また、体験教室に参加したいです。(小6)
- 作るのは難しかったですがとっても楽しかったです。自分でももっといろいろつくれるようになりたいです。(小2)
- 簡単だと思って作ってみたい結構難しかった。作り終わってバギーが動いてよかったです。皆でバギーカーで遊んだことが楽しかった。ものづくりセンター内にあったフレームでつくったレースカーみたいのがすごいと思いました。僕も作れたらぜひ、つくってみたいです。(小6)
- バギーを一生懸命作って大変だったけれど、よく走って嬉しいです。速さを変えられるとは思っていませんでした。(小3)
- バギーカーを作る時に、最初は1人でも簡単にできたのだけれど、後の方で分からなくなってどうやるか悩んでいた先生が、「ここは、こうやるんだよ」と教えてくれて最後はちゃんと上手にできたからよかった。(小5)
- 楽しかった。先生といっぱいお話できてよかった。(年中)
- 楽しかったです。(年中)

## ☆☆参加した保護者からの感想☆☆

- 小さい頃から廃材を利用しての工作、レゴブロックなど作ること・組み立てることが好きで、今回子どもはワクワクしながら参加させていただきました。細かい部品の組立てできちんと出来上がるかどうか最初は心配そうでしたが、リラックスした雰囲気の中で、子どもの目線に合わせての御指導だったので殆ど親の手を借りる事もなく一人で作り上げて満足そうでした。

作る楽しさだけでなく実際に道で走らせたり、障害物を置いてみたりと随分と楽しんでいただけたようでした。また、機会があったら参加させてください。

- 上の子の工作教室に同席した下の子供の分まで御準備いただきありがとうございます。いつも「お兄ちゃんのお付き合い」で待っていることが多い下の子も、先生方の御配慮により本人にとりとても楽しい時間を過ごせたようです。帰宅後は、誇らしげに主人に作品を見せていました。今後も作る楽しさ、完成した嬉しさに触れる機会を与えていきたいと思います。

- 今回のように出来るまで集中した「工作だけに取り組む時間」は家庭ではなかなか取れないことを実感しました。出来上がった時の嬉しそうな顔を見て、これからは親も一緒にもの作りに挑戦して行きたいと思います。

- ものづくりの設備が整った環境の中で、短時間で作品を完成したことは子供達にとって充実した時間になりました。これからも、ものづくりの時間を増やしていきたいと思っております。子供達にとって(親もそうですが)「大学」は未知の世界でしたので先生方へ気軽に声をかけていただいたり、学生の姿を見たり、構内を歩いたり色々感じたことでしょう。

- 多人数で行ったのに、親切な準備から指導感激でした。息子達はバギーに飾り付けをし夏休み明け学校へ提出するそうです。年中の娘も作ったものを家族に見せながらいろいろ話していました。



| 学科・研究室名          | 研究室 公開 タイトル      | 場 所              | 開催 時 間 等                               | 参加人数・対象者 |
|------------------|------------------|------------------|----------------------------------------|----------|
| 数学科              | クイズパズル数学ビデオ      | 本館 3階 33号室       | 28日(日)13:00~16:30                      | 中学生・高校生  |
| 基礎物理学専攻<br>河合研究室 | 真・宇宙を解く          | 本館 1階 94A号室      | 27日(土)10:00~17:00<br>28日(日)10:00~17:00 | 中学生以上    |
| 基礎物理学専攻<br>柴田研究室 | 素粒子の世界を探る        | 本館 2階 46号室       | 27日(土)10:00~16:00<br>28日(日)10:00~16:00 |          |
| 化学科              | 魅せます！化学の最先端-2007 | 講義室、<br>化学科の各研究室 | 28日(日)13:00~16:00                      | 高校生以上    |
| 地球惑星科学科          | 地球 人の住む惑星の歴史     | 地球史資料館           | 27日(土)10:00~16:00<br>28日(日)10:00~16:00 |          |

(以下略)

出典：ものづくり教育研究支援センターホームページ

(資料 56-5) 平成 19 年度東京工業大学オープンキャンパス

## 平成 19 年度東京工業大学オープンキャンパス

平成 19 年 10 月 27 日 (土) 10:00~16:00, 28 日 (日) 9:30~16:00 に大岡山キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催します。

27 日には、70 年記念講堂で第一部 (工学部 10:00~11:55), 28 日には、百年記念館 3 階フェライト会議室で第二部 (理学部 9:30~10:55) と第三部 (生命理工学部 11:25~12:50) に分けて学部概要や入試に関する講演会が行われ、同館 1 階展示室では、27 日は 13:00~16:00, 28 日は 14:00~16:00 に第 1 類~第 7 類等の先生方や事務職員、本学学生によるブースを開き、個別に相談が出来るコーナーを用意しています。

また、その日は普段入ることのできない研究室を訪問し、下記のようなイベントに参加することができます。

なお、工大祭も同日開催され、今年も模擬授業が百年記念館 3 階フェライト会議室において行われます。詳細については下記工大祭実行委員会にお問い合わせ願います。



会場：70 年記念講堂



会場：百年記念館



個別相談風景

## 研究室等公開内容

| 学科・研究室名                      | 研究室公開タイトル                      | 場 所                                         | 開催時間等                                        | 参加人数・対象者 |
|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------|----------|
| 数学科                          | クイズパズル数学ビデオ                    | 本館 3 階 33 号室                                | 28 日 (日) 13:00~16:30                         | 中学生・高校生  |
| 基礎物理学専攻<br>河合研究室             | 真・宇宙を解く                        | 本館 1 階 94A 号室                               | 27 日 (土) 10:00~17:00<br>28 日 (日) 10:00~17:00 | 中学生以上    |
| 基礎物理学専攻<br>柴田研究室             | 素粒子の世界を探る                      | 本館地階 46 号室                                  | 27 日 (土) 10:00~16:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 化学科                          | 魅せます！化学の最先端ー2007               | 講義室 (未定),<br>化学科の各研究室                       | 28 日 (日) 13:00~16:00                         | 高校生以上    |
| 地球惑星科学科                      | 地球 人の住む惑星の歴史                   | 地球史資料館                                      | 27 日 (土) 10:00~16:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 地球惑星科学専攻<br>小宮研究室            | お好み焼き                          | 地球史資料館前                                     | 27 日 (土) 10:00~16:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 金属工学科・材料工学<br>専攻<br>水流・西方研究室 | チタン板キーホルダーの作製                  | 南地区廊下                                       | 27 日 (土) 10:00~17:00<br>28 日 (日) 10:00~17:00 |          |
| 材料工学専攻<br>岡田・中島研究室           | ECOIST 2007                    | 南 7 号館 7 階の研究室                              | 27 日 (土) 10:00~16:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 材料工学専攻<br>松尾・竹山研究室           | 合金探偵団                          | 南 2 号館南側駐輪所 (正<br>門から南 2 号館までのイ<br>チョウ並木通り) | 27 日 (土) 9:00~20:00<br>28 日 (日) 9:00~20:00   |          |
| 高分子工学科                       | ポリマーワールドへようこそ                  | 西 4 号館 3 階応用化学実<br>験室                       | 27 日 (土) 13:00~18:00<br>28 日 (日) 10:00~18:00 |          |
| 物質科学専攻<br>柴田・矢野研究室           | ガラスの魅力 熱・音・光そして...             | 南 7 号館 7 階 706,<br>707 号室                   | 27 日 (土) 10:00~17:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 物質科学専攻<br>永田・金澤研究室           | たたら場への招待 実演!! たたら製鉄            | 廃棄物処理場                                      | 27 日 (土) 9:00~20:00<br>28 日 (日) 9:00~20:00   |          |
| 有機・高分子物質専攻                   | 有機材料工学科ガイドツアー・G-COE ガイ<br>ドツアー | 南 8 号館                                      | 27 日 (土) 14:00~16:00<br>28 日 (日) 14:00~16:00 |          |
| 応用化学専攻                       | なるほど応用化学                       | 西 4 号館 2 階学生実験室                             | 27 日 (土) 11:00~17:00<br>28 日 (日) 11:00~17:00 |          |
| 化学工学専攻                       | OSChEー化学工学への招待ー                | 大岡山南実験棟 4・1 階                               | 27 日 (土) 10:00~17:00<br>28 日 (日) 10:00~16:00 |          |
| 機械科学科                        | メカの世界 2007                     | 石川台 3 号館 1 階ロビー,<br>各研究室                    | 27 日 (土) 10:00~17:00<br>28 日 (日) 10:00~17:00 | 中学生以上    |

ー以下省略ー

出典：入試課ホームページ

(資料 56－6) 平成 18 年度一般を対象として開催された公開講座等 (抜粋)

| イベントなど名称                   | 主 な 内 容                        | 開催日                                         | 参加者数     |
|----------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------|----------|
| (中略)                       |                                |                                             |          |
| 英語による日本事情「私の国、私の大学」発表会     | 留学生と日本人学生の混成チームによる協定校と国の紹介(英語) | 18.11.15<br>18.11.22<br>18.11.29<br>18.12.6 | 毎回約 80 名 |
| 日本伝統文化探検隊(その 12)干支の猪を折る    | 地域住民の協力を得た文化体験学習・交流プログラム       | 19.1.31                                     | 約 20 名   |
| 「先端ロボットの世界」展 連続講演会(全 11 回) | 一般向けのロボット講演会                   | 2006/7/23<br>-7/30                          | 800      |
| 工学地震学・地震工学談話会(No. 98)      | 「地震と脱線」他                       | 18.5.27                                     | 57 名     |

(以下省略)

出典：評価・広報課作成資料

(資料 56－7) 一般を対象とした公開講座開催数一覧

| 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
|----------|----------|----------|----------|
| 52       | 56       | 59       | 67       |

出典：評価・広報課作成資料



(資料 56－8) 製造中核人材育成講座

### 「製造中核人材育成講座」開講にあたって

東京工業大学長 相澤 益男

グローバル化された知識社会を迎え、大学に対する社会的要請は一段と高度化するとともにますます多様化しております。東京工業大学は、世界に通じる人材の育成、世界に誇る知の創造、および知の活用による社会貢献を目標に、知のフロンティアを拓き、“世界最高の理工系総合大学”に向かって進化しつづけております。

ところで、人材を有効に活用し、我が国経済の生産性や国際競争力向上を促すには、将来の産業構造の変化を踏まえた高度なものづくり技術や新産業を担う新しい労働需要等を視野に、我が国産業の未来を支える人材を育成していくことが必要不可欠であります。特に、我が国製造業を下支えしている中小企業を取り巻く環境は、経済のグローバル化に伴う競争環境の変化に加えて、

- (1) 高いレベルを有する製造技術者・生産管理技術者の高齢化
- (2) 要求される知識、技術およびスキルの高度化
- (3) 専門の細分化による擦り合せ人材の払底

といった諸問題を潜在的に抱えております。

そこで、東京工業大学では、社会貢献の一環として、「手づくり教育・人材育成の伝統」の下、ものづくりを支える現場の高度技能とボーダーレスな先端技術を統合して新技術・新製品を開発できる人材、すなわち製造中核人材（スーパーマイスター）を育成する社会人向け講座を「ものづくり教育研究支援センター」に開設すべく準備を進めてまいりました。

この度、その第1号として「機械加工業スーパーマイスタープログラム」を開講する運びとなりました。本プログラムは、機械加工業において概ね10年以上の実務経験を有し、企業の次世代を担う30～40歳の現場技術者に「ものの見方・考え方」、「知識」および「人脈」の幅を広げていただくことを念頭に開発されました。必ずや企業経営者の皆様にはご満足いただける内容と確信いたしております。

なお、引き続き平成20年度開講を目標に「金属熱処理スーパーマイスタープログラム（仮称）」の準備を進めておりますことを申し添えます。

出典：製造中核人材育成講座ホームページ



(資料 56－9) 東京工業大学技術交流セミナー (抜粋)



## 東京工業大学技術交流セミナー(第40回)参加者募集

2008/02/26

## 金型用途などでは注目の新材料“金属ガラス”が町工場で…？

金属ガラスなど新材料の実用化は、その材料の「製造」／「評価」／「加工」／「応用」の4つを行う必要があります。そこには、新しい機器や方法などのビジネスチャンスが期待され、いわば一粒で4度美味しいとも言えます。本講演では、従来、長期間、高リスクを必要とした材料開発を、短期間で効率的に行うことができるコンビナトリアル技術を駆使した「薄膜金属ガラス材料探索」や「金型用への応用」などの事例が詳しく紹介されます。皆様のこれまでの新製品開発の手法に大きな一石を投じる技術になるかもしれません。

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時    | 平成20年3月13日(木) 18:30～20:30                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 場所    | 大田区産業プラザ(PIO)5F 会議室<br>東京都大田区南蒲田1-20-20(京浜急行蒲田駅下車徒歩3分)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 参加費   | 無料                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 講演    | 東京工業大学フロンティア研究センター 秦 誠一 准教授<br><br>『コンビナトリアル技術による金属系新材料の探索とその実用化』<br><br>コンビナトリアル技術による材料探索が注目されています。コンビナトリアルとは、「組み合わせの」を意味し、多数のサンプルを効率的に製作しそれを評価することで、目的とする材料を見いだす手法です。既に製薬分野では、メジャーな手法となっています。近年では、顔料・機能材料への応用も広く行われ、透明半導体や透明磁石、青色発光ダイオードなどで成果が挙っています。本講演では、アモルファス合金を中心とした金属系材料で、一基板上に1ミリの角、厚さ数マイクロメートルの組成の異なるサンプルを、一度に最大1,089個成膜可能なコンビナトリアルアークプラズマ蒸着法と薄膜ライブラリ、およびその評価からなる方法を紹介し、シーズからでなく、ニーズからの短期間での材料開発についてお話しします。具体的には、マイクロプローブ用の低抵抗薄膜金属ガラスの探索事例、回折格子付きガラスレンズ成形金型用のアモルファス合金探索事例などについて紹介いたします。 |
| お申込方法 | 受講希望者は、下記の申し込みフォームにてお申込ください。折り返し、参加確認の返信をさせていただきます。<br><br>● (終了しました)<br>どなたでもご参加いただけます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 主催    | (財)大田区産業振興協会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 共催    | 東京工業大学産学連携推進本部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

(以下略)

出典：(財) 大田区産業振興協会ホームページ

(資料 56-10) キャリアアドバイザー採用

学生支援センター  
キャリア支援部門キャリアアドバイザー採用について

1) アドバイザーの採用予定について

- 「学生の就職やキャリア全般に対する支援・相談業務、就職に関する学生のカウンセラー業務、就職関係ガイダンス等の企画運営業務に関して意欲がある方」として応募。

(中略)

- バランスの取れた人材を確保(他大学でのキャリアアドバイザー経験者、女性のアドバイザー、就職困難な学生に対する新規企業開拓の可能性のあるアドバイザー)
- 対応時間: 3名が週2回、それぞれ大岡山キャンパスとすずかけ台キャンパスに各1日ずつ対応
- 場所: 大岡山キャンパス: 本館1階  
すずかけ台キャンパス: フロンティア創造共同研究センター2階

2) キャリアアドバイザーの役割

- 東京工業大学の就職・進路相談の柱は、今まで通り指導教員を中心とした学科・専攻にある。キャリアアドバイザーは、各学科・専攻の就職担当教員と連携を取りながら、全学的な就職支援サービスを行う。
- キャリアアドバイザーの存在は昨今の様な就職相談に対応することが可能となり、バランスの取れた学生生活を送ることに寄与すると考えられ、ひいては勉学・研究活動へ落ち着いて専念できるという点で教育上にも大いに貢献があると考えられる。
- 具体的業務
  1. 学生の就職やキャリア全般に関する相談業務
  2. 就職に関するガイダンス等の企画運営業務
  3. 留学生の就職相談、留学生センターとの連携・協力業務
  4. 他部局の就職担当教職員との連携・調整業務
  5. その他学生の就職に関する業務

(以下略)

出典：学生支援センター作成資料

(資料 56-11) 大学情報データベース資料

B2-2005, 2006, 2007 入力データ集：No.6-4 共同研究・受託研究・受託研究員

(資料 56-12) 学会役員活動等に関する資料

| 区 分              | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 備考 |
|------------------|----------|----------|----------|----------|----|
| 学会役員             | 51 件     | 65 件     | 67 件     | 70 件     |    |
| 国の審議会・委員会委員      | 459 件    | 437 件    | 486 件    | 499 件    |    |
| 地方公共団体の審議会・委員会委員 | 72 件     | 69 件     | 78 件     | 83 件     |    |
| 計                | 582 件    | 571 件    | 631 件    | 652 件    |    |

出典：人事課作成資料

(資料 56-13) キャンパスガイド実施要項（抜粋）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| ○東京工業大学キャンパスガイド実施要項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 平成17年3月31日<br>制定 |
| 改正平18. 3 . 31<br>(趣旨)<br>第1条この要項は、東京工業大学（以下「大学」という。）が実施する学外者の大学案内に参画する大学の学部及び大学院修士課程の学生（以下「キャンパスガイド」という。）の支援業務の実施に関し必要な事項を定めるものとする。<br>(目的)<br>第2条大学案内の実施は、見学に訪れる高校生及び中学生等（以下「見学者」という。）に対し、キャンパス内を案内することにより、見学者に大学をより身近に感じ、大学への関心及び理解を深めてもらうとともに、キャンパスガイド間の交流の場を持つことにより学生生活における豊かな交友関係の形成に資することを目的とする。<br>(活動業務)<br>第3条キャンパスガイドは、見学者にキャンパス内を案内するとともに、見学者が希望する見学内容に沿うよう事前に準備を行う。<br>2 前項の活動業務の細目に関し必要な事項は、別に定める。<br>(以下略) |                  |

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

(資料 56-14) 大学見学数とキャンパスガイド数

| 大学見学申し込み件数 |          |          | キャンパスガイド数<br>(平成19年度末登録数) |
|------------|----------|----------|---------------------------|
| 平成 17 年度   | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |                           |
| 115 件      | 127 件    | 152 件    | 47 人                      |

出典：評価・広報課作成資料

計画1-2「【57】（一部再掲）社会人の再教育を行う前記の MOT を修得させる「MOT 社会人大学院/専門職大学院」の設置の具体案，附属工業高等学校専攻科を廃止して学部レベルの講義を行う「社会人理工学コース（仮称）」の設置の具体案を策定し，実施する。」に係る状況

平成 17 年度に大学院イノベーションマネジメント研究科を開設し，専門職学位課程（修士）「技術経営専攻」及び博士後期課程「イノベーション専攻」の 2 専攻を設置し，社会人学生を受け入れた（資料 57-1）。学生から土曜日開講のニーズが強かったため，全学の合意を得た上で平成 17 年度から土曜日開講を導入し，その後開講科目を増やす等の方策により，社会人学生にとって履修しやすいよう改善している。

同研究科技術経営専攻においては，技術経営の中核部分の学習機会を提供する 60 時間程度のプログラム「企業内社会人のキャリアアップを支援するエッセンシャル MOT」を立ち上げた。これは，学習意欲はあるものの業務との調整ができずに入学や受講を躊躇断念している社会人が多く見受けられ，中小企業の中堅社員の経営力強化を狙った人材育成のニーズが高いことから，正規の学位課程に加えて新たな教育課程を整備したものである。なお，本事業は，平成 19 年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された（資料 57-2）。

附属科学技術高等学校（平成 17 年 4 月に附属工業高等学校より改組）専攻科については，多様なニーズに合致した教育を行うための方策を検討し（資料 57-3），平成 21 年度から学生募集を廃止し，「社会人教育院（仮称）」を設置して，新たな社会人教育のプログラムを実施することとした。「社会人教育院（仮称）」が統括するプログラムは，(A) 製造中核人材育成講座（開講済）（資料 56-8 P238），(B) キャリアアップ MOT プログラム（平成 20 年度開講），(C) 理工系一般プログラム（大学院相当レベル，一定時間数受講者に履修証明書を発行，本学大学院生も受講可），(D) 理工学基礎プログラム（学部レベル，附属科学技術高等学校専攻科の教育理念を継承する，具体的には 2 級建築士の資格が得られる「2 級建築士コース（仮称）」，「ICT 基礎コース（仮称）」等のコース開講を計画）等の現代のニーズにあった多様なプログラムを目指している（資料 57-4）。

（資料 57-1）専門職学位課程入学者の社会人学生数 （各年度 5 月 1 日現在）

| 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 計  |
|----------|----------|----------|----|
| 19       | 4        | 6        | 29 |

出典：大学機関別認証評価自己評価書

（資料 57-2）「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」選定事業概要（抜粋）

| 平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」選定事業概要 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学等名                                 | 東京工業大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 整理番号                                 | 1009                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 共同申請校                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事業名                                  | 企業内社会人のキャリアアップを支援する「エッセンシャルMOT」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 分野                                   | 人社系                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 地域                                   | 関東                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 受講対象                                 | 修士・博士課程相当                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事業担当者名                               | 比嘉 邦彦                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| （事業の概要）                              | <p>本学で開講している MOT 専門職大学院の応募状況からも社会人における MOT の学び直しニーズが大きく，ことが明らかである反面，学習の意欲はあるものの業務との時間調整ができずに受講を躊躇断念している社会人も多数見受けられる。特に，中小企業では中堅社員の経営力強化を狙った人材育成の必要性は認識しているものの，多忙な業務との関連で専門職大学院等への中堅社員派遣をためらうケースも多い。</p> <p>本企画では，上述したような状況にある関東圏の中堅企業／中小企業に勤務する 30 歳前後の社会人（20 歳代後半～40 歳代）が技術経営（MOT）を学び，自社における経営層へのキャリアアップを図るための学習機会を提供するプログラムを提案する。</p> <p>本カリキュラムでは，週 1 回（平日夜間）の授業と各種自主学習による 1 年間の履修で「イノベーション論」や「企業経営者論」といった MOT のエッセンスをマスターする。また，時間的制約を極力排除した学習機会の提供と学習効率の向上を目的として，教材の e ラーニング化と同期／非同期のインターネットベースネットワークコラボレーション環境構築も推進する。</p> |

出典：文部科学省ホームページ



(資料 57-3) 社会人教育協議会議事メモ

平成19年度(第2回)社会人教育協議会議事メモ

日時 : 平成20年2月28日(木) 10時45分～12時15分  
 場所 : 大岡山キャンパス事務局1号館2階会議室  
 出席者 : 齋藤委員長, 石井副委員長, 宮内総括補佐, 市村 井上(剛), 武田, 三平, 井上(裕)の各委員  
 学務部長, 教務課長, すずかけ台地区学務課長, 教務課長補佐  
 教育推進企画係長, 教育推進企画係員  
 オブザーバー : 主計課長, 主計課長補佐, 田町地区庶務係主任

会議資料 :

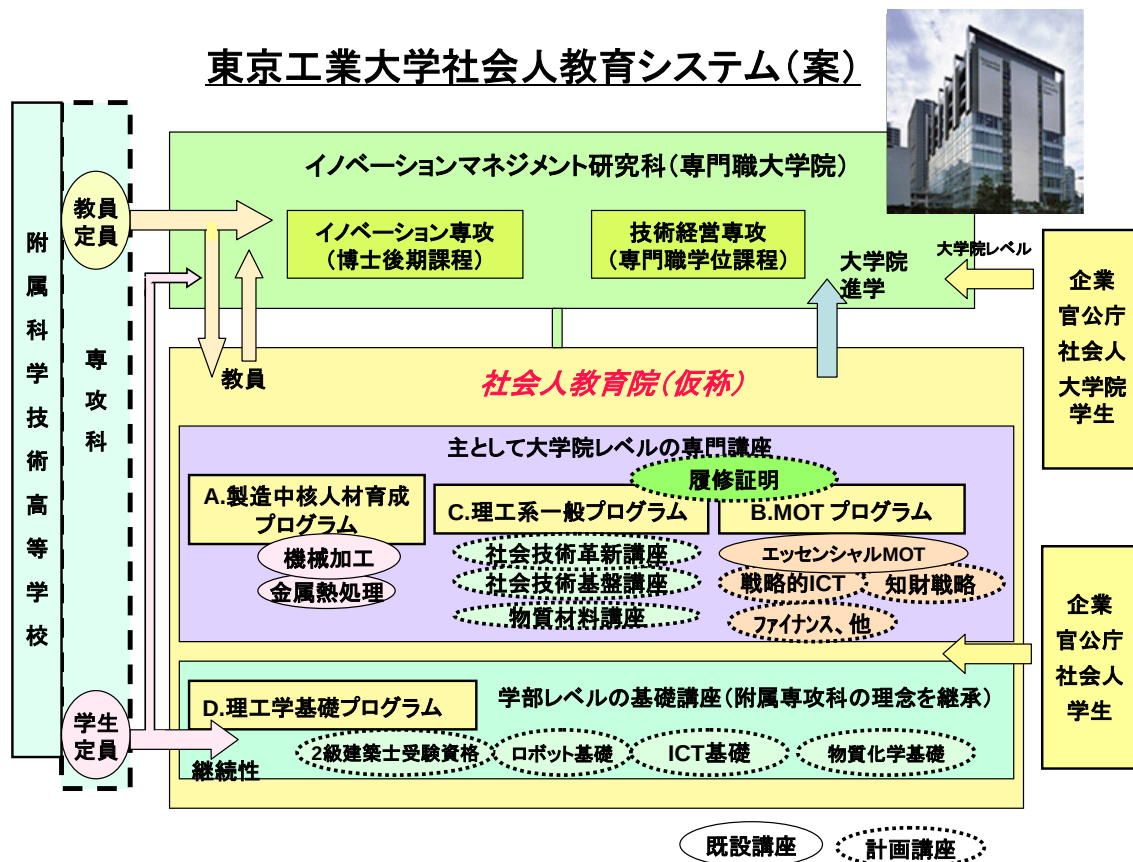
- |                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 1. 平成19年度第1回社会人教育協議会議事メモ(案)   | 資料1    |
| 2. 製造中核人材育成講座でのニーズ調査について      | 資料2    |
| 3. 附属科学技術高等学校専攻科改革検討スケジュール(案) | 資料3    |
| 4. 東京工業大学修了者就職状況              | 資料4    |
| 5. 附属科学技術高等学校国際科学技術分野について     | 席上配布資料 |

議事に先立ち, 前会議事メモの確認を行い, これを了承した。

略

出典 : 平成19年度(第2回)社会人教育協議会議事メモ

(資料 57-4) 東京工業大学社会人教育システム(案)



出典 : 教育推進室作成資料

b) 「小項目 1」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である。

(判断理由)

ものづくり教育研究センター，大学院イノベーションマネジメント研究科等において，社会人教育を積極的に行っており，また，産官学人事交流，教員による学界活動も活発である。

世界文明センター等における公開講座，Tokyo Tech OpenCourseWare による講義資料公開により情報提供等を行い，また，産業界や地元の自治体である大田区との連携によるセミナーなども開催して広く科学の知見，研究成果の情報発信を行っている。

○小項目2「研究面では『地域産業も含めて世界の産業界のニーズに適合した戦略的研究を促進するとともに、大学の有するシーズの社会還元を行うために産学連携を強力に促進し、専門知識の提供等を通して、国の政策策定、政策実施等の面で官学連携に積極的に努力する。』」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画2-1「【58】(一部再掲)研究面における社会との連携をより推進するために「産学連携推進本部」を中心として、TLOの機能の拡充、知財一元管理等の方策を検討し、実施する。」に係る状況

産学連携支援の全学の一元的窓口として、産学連携推進本部(資料45-1 P180)を設置し、本学の大学技術移転機関(TLO)である(財)理工学振興会と連携を取りながら、知的財産の一元的管理とその活用を進めてきた。体制整備、活動状況に関しては、大学知的財産整備事業の中間評価においてA評価を得るとともに、同事業「スーパー産学官連携本部」プログラムの採択6大学のうちの1校として選定された。また、同事業「国際的な産学官連携の推進体制」においても、採択12校のうち1校として選定されるなど、高い評価を得ている(資料58-1)。平成19年度には、(財)理工学振興会に設置されていたTLO機能を産学連携推進本部に統合し、名実ともに知財の一元管理を実現した(資料44-3 P179)。法人化以降、産学連携の件数・収入とも大幅に増加している(資料44-2 P179)。

戦略的研究の促進については、社会の抱える課題の解決、本学と社会との統合及び知識の統合化を図ることを目的とし、平成17年に統合研究院を設置した。統合研究院は、大学が持つ多様な知識を総動員・再構築して、設定した目的達成のための解答(ソリューション)を創出する研究拠点を目指すものであり、文部科学省戦略的研究拠点育成プログラムとして採択された(資料40-2 P168, 41-3 P172)。

地域産業との連携については、大田区と技術交流セミナーの実施等ニーズに適合した連携を推進しており、平成19年4月には、地域産業の振興等を目的とした連携・協力に関する協定を締結した(資料58-2)。

官学連携については、教員の官学連携に関する兼業実績を把握するとともに、教員個人評価を実施する際の評価項目に、国の政策策定、政策実施等を行う審議会、委員会活動に関する項目を規定することにより、積極的に実施する環境を構築した(資料58-3)。教員の審議会、委員会活動等の実績は増加した(資料56-12 P241)。

(資料 58－1)「大学知的財産本部整備事業」中間評価結果及び「スーパー産学官連携本部」選定結果について (抜粋)

**「大学知的財産本部整備事業」中間評価結果及び「スーパー産学官連携本部」選定結果について**

平成17年7月15日

**1. 「大学知的財産本部整備事業」中間評価結果について**

文部科学省では、大学等の研究成果を原則機関帰属とする政府の方針を踏まえ、平成15年度より、大学等における知的財産の戦略的な創出・管理・活用等の体制整備を推進するため「大学知的財産本部整備事業」を実施し、モデルとなる実施機関を中心に整備の普及を図っている。今回、本事業の効率的・効果的な実施のため、2力年経過時点における事業計画の達成度等について中間評価を行い、その結果を報告書にとりまとめ、公表するものである。

なお、今回の評価は、本事業による効果について評価したものであり、各大学における知的財産活動・産学連携活動そのものについて評価したものではない。

**(1)対象**

「大学知的財産本部整備事業」実施機関:34機関

「特色ある知的財産管理・活用機能支援プログラム」対象機関:9機関

**(2)評価方法の概要**

科学技術・学術審議会技術・研究基盤部会産学官連携推進委員会「大学知的財産本部審査・評価小委員会」において、書面審査及びヒアリング審査を実施。

**(3)中間評価結果の概要**

各大学では、知的財産の創出・管理・活用体制の構築や関係ルールの策定など、総じて、当初計画を踏まえて着実な体制整備が図られ、機関帰属の方針の浸透、特許出願数等の増大など、計画を上回るペースで実績を上げつつある。

他方、今後の体制整備を進める上で、改善すべき点も見受けられることから、各大学の取組について、別紙の通り評価できるポイント及び改善すべきポイントを指摘するとともに、取組状況を相対的に3段階で評価。今後、各大学において、改善のポイントを踏まえたよりよい体制の構築に向けた取組を期待。

**2. 「スーパー産学官連携本部」選定結果について**

文部科学省では、平成17年度より新たに、大学知的財産本部整備事業の一環として、知的財産本部を核として、大学内の研究リソースを結集し、組織的に産学官連携を推進するための総合的な体制である「スーパー産学官連携本部」をモデル事業として整備し、海外主要大学と伍した産学官連携体制の構築や組織的な共同研究の推進、積極的な民間資金の獲得等を目指すこととした。

本事業の対象となる「大学知的財産本部整備事業」実施機関から合計23件の申請が提出されたが、このたびは外部有識者からなる審査委員会の審査結果が取りまとめられたので公表するものである。

**(1)事業の概要**

**〈目的〉**

大学知的財産本部を核として大学内の研究リソースを結集し、組織的に産学官連携を推進するための体制である「スーパー産学官連携本部」を整備し、海外主要大学と伍した産学官連携体制の構築や組織的な共同研究の推進、積極的な民間資金の獲得等を図ることを通じ、我が国経済・社会の発展の一層の貢献ができる体制を構築する。

**〈対象〉**

「大学知的財産本部整備事業」実施機関:34機関

うち申請機関:23機関

**〈事業内容〉**

5大学程度を採択。事業Iは、原則として3年間継続予定とする。

**(2)審査方法**

科学技術・学術審議会技術・研究基盤部会産学官連携推進委員会「大学知的財産本部審査・評価小委員会」において、書面審査及びヒアリング審査を経て採択。

**(3)選定結果の概要**

本事業の趣旨である海外主要大学と伍した産学官連携体制の構築や組織的な共同研究の推進、積極的な民間資金の獲得等の観点から、以下の6大学の構想を選定。

| 機関名           |
|---------------|
| 東京大学          |
| 東京農工大学        |
| 東京工業大学        |
| 京都大学          |
| 大阪大学          |
| 奈良先端科学技術大学院大学 |



## 第1章 「大学知的財産本部整備事業」中間評価結果について

(略)

## 2各大学ごとの評価結果

個々の大学等の取組に対する評価は、以下の通りである。

## 【「大学知的財産本部整備事業」実施機関:34件】

| 機関名 | 評価 | コメント |
|-----|----|------|
|-----|----|------|

(略)

|        |   |                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東京工業大学 | A | 所期の計画通りに体制が構築されており、発明件数、共同研究等の実績に加え、リエゾン活動やライセンス活動のアクティビティも高い。また、学内における知財マインドの醸成も進んでおり、バランスのとれた工学系大学のモデルといえる。なお、ライセンス件数がまだ少ないことから、組織の持続的発展という観点からも、「市場性を加味した出願」に意を配ることが必要と考える。今後は、内部人材の育成の面においても、他大学のモデルを目指してもらいたい。 |
|--------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(略)

〈参考〉評価の考え方は以下のとおり。

- A: 優れた体制が構築され、計画以上に効果的な取組が行われている。  
 B: 概ね適切な体制が構築され、計画を踏まえて順調な取組が行われている。  
 C: 体制が構築され、計画を踏まえた取組が始まっているが、不十分な点もある。

出典：文部科学省ホームページ

## (資料 58-2) 大田区との連携・協力に関する基本協定書

## 国立大学法人東京工業大学と大田区との連携・協力に関する基本協定書

知の共同体である国立大学法人東京工業大学（以下「大学」という。）と区民の生活・文化を支える大田区（以下「区」という。）は、これまでに培ってきた近隣の友誼を一層深め、相互に啓発・協し合いつつ新しい事業を積極的に展開し、もってそれぞれに課された社会的使命を全うして、よりよき未来社会を招来するため、ここに基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

## （目的）

第1条 本協定は、教育、産業、文化・国際交流等の各分野等において、大学と区の両者がそれぞれの特性を活かして連携・協力することで、地域産業の振興と地域文化の興隆に貢献し、かつ、次代を担う創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

## （連携・協力事項）

第2条 大学と区は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携・協力する。

- (1) 理科教育をはじめとする教育に関する事項
- (2) 文化・国際交流に関する事項
- (3) 情報化の推進に関する事項
- (4) 産業振興に関する事項
- (5) 大規模災害発生時における連携協力に関する事項
- (6) その他大学と区が必要と認める事項

## （個別協定等）

第3条 前条の連携・協力事項を実施するため、必要に応じ本協定に基づく個別協定等を締結することができるものとする。

## （協力方法等）

第4条 第2条に掲げる連携・協力事項の具体的実施に当たっては、大学と区の担当部署との協議の上、協力方法、成果の利用及び費用負担等について定めるものとする。

## （協定書の有効期間）

第5条 本協定の有効期間は、協定締結日から5年間とする。ただし、大学と区が必要と認めるときは、協議により、その期間を更新することができるものとする。

## （その他）

第6条 本協定に定めのない事項又は疑義が生じたときは、その都度、大学と区との間で協議するものとする。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、各々1通を保管する。

平成19年 4 月18日

国立大学法人  
東京工業大学長

相澤 益男



大田区長

西野 善雄



出典：基本協定書

(資料 58－3) 教員個人評価項目 (社会・国際貢献関連評価項目抜粋)

- C) 社会・国際貢献関連評価項目
- C－1) 教育の間接的な社会効果:C1
- ・卒業・修了者の活躍状況 (就職先、資格取得、研究機関・学位授与組織への就職、ベンチャー設立、受賞等):C11
- C－2) 学術・研究の間接的な社会効果:C2
- ・共同研究者や博士研究員等を通して、新技術・製品の創出、技術・製品の改善、知的財産の形成、生活基盤の強化、地域との連携・協力の推進、政策形成、国際社会等への間接的寄与:C21
- C－3) 学外審議会、委員会等、その他公的社会活動:C3
- ・国、地方団体等における審議会、委員会委員:C31
  - ・競争的資金に関する審査員、委員:C32
  - ・大学評価学位授与機構、JABEE 等の審査員:C33
  - ・国内外の大学、公的、準公的機関の外部評価委員C34
  - ・国内外の権威ある団体の会員、委員C35
- C－4) 学会・学術団体等:C4
- ・学会等における会長、理事、代議員、各種委員等:C41
  - ・学術誌の編集委員:C42
  - ・学術誌の論文査読:C43
- C－5) 社会人教育等:C5
- ・一般市民・社会人を対象とした教育活動:C51
  - ・高校等における出張講義:C52
  - ・啓蒙書の出版C53
- C－6) 外部団体の学術集会・研究会・講演会等:C6
- ・国際、国内会議の主催、委員、座長C61
  - ・公開講座、オープンキャンパスの開催:C62
  - ・国際協力 (JICA、JSPS 等):C63
  - ・新聞その他メディアへの発表、発言:C64

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

計画 2－2 「【59】 (一部再掲)ベンチャー起業への支援を強化する方策を策定し、実施する。」に係る状況

産学連携推進本部が戦略的にベンチャー起業を支援する体制を構築しており (資料 45－1 P180) , 本部特任教員をベンチャー担当とし、起業やその後のフォローを専任で行っている。本学発ベンチャー企業への称号授与 (46 社) (資料 45－3 P182) を行っているほか、(独)中小企業基盤整備機構、神奈川県、横浜市と連携による、東京工業大学連携型起業家育成施設 (東工大横浜ベンチャープラザ) のキャンパス内設置などベンチャー支援も充実させた (資料 45－4 P183)。

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ (VBL) においては、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的研究を推進するため、本学の若手研究者に対するベンチャービジネス推進研究の公募助成 (平成19年度募集: 1 件につき、50万円～200万円で、総額は1,500万円) を行っている (資料45－5, 6 P184) ほか、VBL研究プロジェクトを公募し、採択者には、研究費、研究開発スペースの提供など行っている (資料45－7 P185)。

インキュベーションセンターにおいては、設立後間もないベンチャー企業のうち、本学の研究成果又は人的資源等を活用する者が行う事業に対して、施設の貸与を行っている (資料 45－8 P185)。平成19年度には、これらの2施設を含む既存の共同利用施設4組織を統合した「フロンティア研究センター」を整備し、運営体制を強化した (資料 45－9 P186)。

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

統合研究院を設置し、産業界のニーズに合った戦略的研究を推進した。大田区と協定を締結し、地域産業のニーズに適合した研究を推進する体制を整備した。(財)理工学振興会に設置されていた大学技術移転機関(TLO)機能を産学連携推進本部に統合し、名実ともに知財の一元管理を実施した。産学連携活動を一元的・戦略的に行った結果、東工大発ベンチャー、共同研究、受託研究等の実績が増加している。

教員個人評価に公的社会活動に関する項目を規定しており、教員の審議会、委員会活動は増加している。

## ○小項目3「教育面、研究面での国際化及びグローバル化の戦略的展開体制を整備する。」の分析

## a) 関連する中期計画の分析

計画3-1「【60】国際室に教育面、研究面での国際化及びグローバル化の戦略的企画・立案機能を一元化する。」に係る状況

国際活動の企画・立案機能を持つ国際室は、教員と事務職員を融合させた学長のスタッフ組織である。国際化をさらに推進するため、平成17年度には、国際室を、教育面、研究面において国際活動の戦略的企画・立案を行う企画部門と国際活動支援を行う国際支援部門からなる一元化組織として整備した。これらの体制整備の取り組みについて、文部科学省の委託事業「大学国際戦略本部強化事業」に採択されたことと併せて（資料60-1）、国際連携プランナー1名、国際連携コーディネーター2名を採用し、企画・立案機能を強化した（資料60-2～5）。

また、国際室に国際アドバイザー委員会を設置し、国内外から著名なアドバイザーを招聘して、国際戦略の点検・評価等に活用した（過去3回開催）。第3回アドバイザーパネルの指摘を受け（資料60-6, 7）、留学生の受入及び学生の派遣数を増加させるため、入学時の留学関係のパンフレットの配布や、時期折々にオリエンテーションを開催するとともに、年間を通して留学相談を受付ける等の改善を行った。

国際室の戦略的企画・立案機能が強化されたことにより、海外の連携大学との関係を精査、大学間交流協定を見直して協力相手を重点化する等、国際戦略の具体的な成果が挙げられている。

これらの点については、「大学国際戦略本部強化事業」の中間評価において、「評価できる」点として挙げられ、事業全体についても、順調に推移しているという評価を受けた。

（資料60-1）「大学国際戦略本部強化事業」審査結果（抜粋）

# 「大学国際戦略本部強化事業」の審査結果

## 「大学国際戦略本部強化事業」採択機関 20件

申請のあった68件の中から、以下の20件が採択となった。

### ○国立大学法人 15件

|       |      |       |         |        |
|-------|------|-------|---------|--------|
| 北海道大学 | 東北大学 | 東京大学  | 東京外国語大学 | 東京工業大学 |
| 一橋大学  | 新潟大学 | 名古屋大学 | 京都大学    | 大阪大学   |
| 神戸大学  | 鳥取大学 | 広島大学  | 九州大学    | 長崎大学   |

### ○公立大学 1件

|      |
|------|
| 会津大学 |
|------|

### ○私立大学 3件

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 慶應義塾大学 | 東海大学、九州東海大学、北海道東海大学（共同提案） |
| 早稲田大学  |                           |

### ○大学共同利用機関法人 1件

|          |
|----------|
| 自然科学研究機構 |
|----------|

出典：文部科学省ホームページ

（資料60-2）国際室設置要項（抜粋）

|                      |
|----------------------|
| ○国立大学法人東京工業大学国際室設置要項 |
| 平成16年4月1日            |
| 学長裁定                 |



改正平17. 3 . 31, 平17. 4. 15, 平17. 10. 14, 平17. 11. 11, 平19. 1 . 12

(設置)

第1条国立大学法人東京工業大学（以下「大学」という。）に、国立大学法人東京工業大学組織運営規則（平成16年規則第2号）第21条第1項の規定に基づき、国際室を置く。

(目的)

第2条国際室は、国際連携、国際教育（留学生及び日本人学生）に関わる戦略の策定及び推進、国際水準の教育研究環境の整備並びに国際連携、国際教育に係る諸問題に対処することにより、世界最高の理工系総合大学の実現に資することを目的とする。

(室長)

第3条国際室に室長を置き、理事・副学長のうち学長が指名する者をもって充てる。

2 室長は、国際室の業務を総括する。

(室長補佐)

第4条国際室に室長補佐を置き、室長の指名する者、学務部長及び研究協力部長をもって充てる。

2 室長補佐は、室長の命を受けて、国際室の業務を処理する。

(国際企画員)

第5条国際室に国際企画員を置き、大学専任の教授、准教授又は講師のうちから学長が任命する。

2 国際企画員は、室長の命を受けて、研究及び教育における国際戦略の推進に係る高度な専門的知識を要する業務を処理する。

(国際連携プランナー)

第6条国際室に、国際連携プランナー（以下「プランナー」という。）を置く。

2 プランナーは、国際戦略に係る企画、実行及び評価に関する業務を行う。

3 プランナーは、第15条第1項第2号により雇用する非常勤教員をもって充てる。

(国際室付)

第7条国際室に、国際室付を置き、総務部評価・広報課長、財務部主計課長、学務部留学生課長、施設運営部施設総合企画課長、研究協力部国際事業課長、学術情報部情報基盤課長その他室長が必要と認める者をもって充てる。

2 国際室付は、第2条に定める目的に関し参画するとともに、当該所属部課等との連絡調整を図るものとする。

(専門員)

第8条国際室に専門員を置き、学務部留学生課課長補佐及び研究協力部国際事業課課長補佐をもって充てる。

2 専門員は、室長の命を受けて、国際室の事務のうち、特に高度の専門的知識及び経験等を必要とする事務を処理する。

(部門)

第9条国際室に、次の部門を置き、当該各号の業務を行う。

一企画部門国際戦略に関する企画及び立案等に係る具体的施策の検討

二国際支援部門国際連携活動等に係る支援

(企画部門)

第10条企画部門は、第4条から第8条までに掲げる者で構成する。

2 企画部門に部門長を置き、室長補佐のうちから室長が指名する。

(班)

第11条企画部門に、次の班を置き、当該各号の業務を行う。

一国際連携班国際連携に係る戦略の策定及び推進に関すること。

二国際教育・研究班教育及び研究に係る国際戦略の策定及び推進に関すること。

2 各班に主査を置き、国際企画員のうちから室長が指名する。

3 主査は、企画部門長の命を受けて、当該班の業務を処理する。

4 各班に必要な応じて実務的処理を担当する専門委員会を置くことができるものとし、専門委員会の組織及び運営等については、室長が別に定める。

(国際支援部門)

第12条国際支援部門は、学務部長及び研究協力部長並びに学務部留学生課及び研究協力部国際事業課の職員（非常勤職員を含む。）で構成するものとし、第10条の企画部門の構成員を兼ねることができるものとする。

2 国際支援部門に部門長を置き、前項の構成員のうちから室長が指名する。

(グループ)

第13条 国際支援部門に、次のグループを置く。

一 学外連携グループ

二 学内支援グループ

2 各グループに、グループマネージャー及びグループマネージャー補佐を置き、学務部留学生課長及び課長補佐並びに研究協力部国際事業課長及び課長補佐をもって充てる。

(コーディネーター)

第14条 前条の各グループに、国際連携コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）を置く。

2 コーディネーターは、国際連携活動の支援に係る企画、実行及び評価に関する業務を行う。

3 コーディネーターは、国際連携に関する専門的知識を有する非常勤職員をもって充てる。

(以下略)

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

(資料 60-3) 国立大学法人東京工業大学国際支援部門組織及び業務分担取扱要領（抜粋）

○ 国立大学法人東京工業大学国際支援部門組織及び業務分担取扱要領

国際室長裁定

(平成 17 年 11 月 1 日)

(趣旨)

第1条 この取扱要領は、国立大学法人東京工業大学国際室設置要項(以下「設置要項」という。)を一部改正し、国際室に設置する国際支援部門の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 設置要項第13条第3項に基づき、各グループに次のチームを置く。

一 学外連携グループ 総務・企画チーム、戦略支援チーム及び海外拠点チーム

二 学内支援グループ 学生交流チーム及び教員支援チーム

2 各チームに、チームリーダーを置き、学務部留学生課及び研究協力部国際事業課の係長をもって充てる。

(各グループの業務分担)

第3条 学外連携グループにおいては、次の業務を行う。

- 一 国際連携事業に関する総括及び連絡調整に関すること。
- 二 国際室の運営に係ること。
- 三 国際戦略の推進に係る総括及び各部局等との連絡調整に関すること。
- 四 その他国際戦略の推進に係る必要な事項に関すること。
- 五 国際連携のための資金調達に関すること。
- 六 海外拠点及び海外オフィスの設置及び運営等に関すること。
- 七 留学生のリクルート対策及び卒業後のネットワーク構築等に関すること。
- 八 所掌事務の調査及び統計その他諸報告に関すること。
- 九 その他国際戦略及び国際連携の推進に関すること。

～ 略 ～

3 海外拠点チームにおいては、次の業務を行う。

- 一 海外拠点運営室会議に関すること。
  - 二 海外オフィスの管理運営(予算要求及び執行)に関すること。
  - 三 中国赴日予備教育に関すること。
  - 四 日本留学フェアに関すること。
  - 五 日本留学試験海外試行選抜に関すること。
  - 六 所掌事務の調査及び統計その他諸報告に関すること。
- 4 学生交流チームにおいては、次の業務を行う。

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

(資料 60-4) 国際連携プランナー、国際連携コーディネーター募集案内 (抜粋)

#### 東京工業大学国際室国際連携プランナーの募集

##### 1. 職種

国際室・国際連携プランナー (特任教授) 1名

##### 2. 職務分野

国際戦略関係の企画・実行・評価業務に従事。

##### 3. 募集概要

東京工業大学では、すでに、学長のもとに国際室を設置し、国際戦略ポリシーペーパーを作成し、海外拠点の展開などを積極的に進めています。文部科学省事業「大学国際戦略本部強化事業」の採択を契機に、現在「大学国際戦略本部」設置に向け準備を行ない、さらにグローバルな国際戦略を策定し、国際展開活動を戦略的に推進・支援することを目指しています。

この事業を推進するため、国際機関、現地法人、海外駐在などを経験された方で、本学の国際連携活動に積極的に関わって頂ける意欲のある方を、国際連携プランナー (特任教授) として採用します。

(詳細参照 ; <http://www.ipo.titech.ac.jp/> [http://www.u-kokusen.jp/univ\\_pdf/05.pdf](http://www.u-kokusen.jp/univ_pdf/05.pdf) )

##### 4. 主要業務と応募資格

###### (1) 主要業務

- ・ 国際戦略の企画立案 (海外機関との折衝を含む)
- ・ 国際戦略プランの実施計画の策定及び実施状況の評価
- ・ 国際室の関連組織 (企画部門と支援部門) との連携・調整

(中略)

\*\*\*\*\*

#### 東京工業大学国際室国際連携コーディネーターの募集

##### 1. 職種

国際室・国際連携コーディネーター 2名

##### 2. 職務分野

国際連携活動に関する業務の企画・実行・評価及び支援

##### 3. 募集概要

東京工業大学では、すでに、学長のもとに国際室を設置し、国際戦略ポリシーペーパーを作成し、海外拠点の展開などを積極的に進めています。文部科学省事業「大学国際戦略本部強化事業」の採択を契機に、現在「大学国際戦略本部」設置に向け準備を行ない、さらにグローバルな国際戦略を策定し、国際展開活動を戦略的に推進・支援することを目指しています。

この事業を推進するため、国際機関、現地法人、海外駐在などを経験された方で、本学の国際連携活動に積極的に関わって頂ける意欲のある方を、コーディネーターとして若干名を採用します。

(詳細参照 ;

<http://www.ipo.titech.ac.jp/> [http://www.u-kokusen.jp/univ\\_pdf/05.pdf](http://www.u-kokusen.jp/univ_pdf/05.pdf) )

##### 4. 主要業務と応募資格

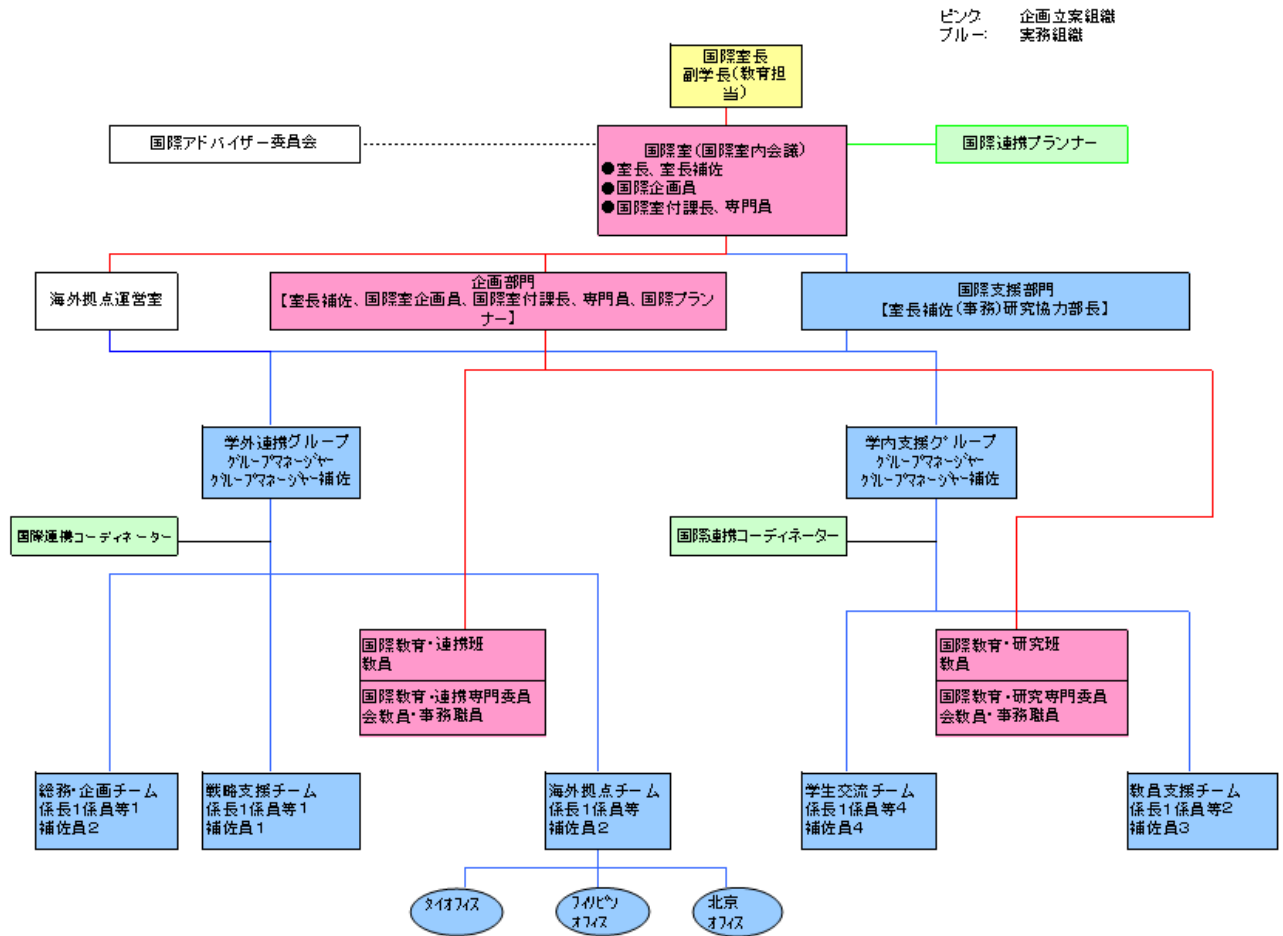
###### (1) 主要業務

- ・ 国際連携に係る支援業務全般
- ・ 国際戦略本部業務のワーク・フローの分析, 改善
- ・ 海外協定校・機関との交渉・連携支援
- ・ 国際会議, シンポジウム等の準備, 運営, 支援
- ・ 海外拠点における活動のアドバイス及び運営補助
- ・ 外国人研究者や留学生への支援業務企画・実行及び評価

(以下略)

出典 : 国際室作成資料

(資料 60－5) 国際室組織図



出典：平成 17 年度第 21 回役員会参考資料（一部追記）

(資料 60-6) 第3回インターナショナルアドバイザーパネル報告書 (抜粋)

Internationalization  
at  
Tokyo Institute of Technology  
  
Observations and Recommendations  
by  
Internationalization Panel of Advisors

**Preamble**

1. On Mar 22 and 23, 2006, the International Panel of Advisors visited the Tokyo Institute of Technology and engaged in intensive, frank, open and fruitful discussions with the leading members of the Institute who are responsible for the policies and tasks of internationalization.

**Observations**

2. We have observed that Tokyo Tech is a leading institution of science and

activities. The immediate tasks of internationalization are indeed basically about students and for students.

**Recommendations**

8. Running the risk of over-simplification and mis-interpretation, we venture to make the following suggestions and recommendations:

9. A possible vision statement

“To enhance global quality of human life, Tokyo Institute of Technology aims to develop and provide human centered research, education programmes and services through state-of-art as well as appropriate technologies, thus becoming a distinguished, credible, knowledge sharing, and learning hub/facilities in Asia (and the world)”

10. Internationalization should be seen as part of a comprehensive reform. In other words, internationalization should be considered in conjunction with other reforms such as university governance, administrative organization, curriculum reform, resource allocation and fund-raising.

11. There should be an articulation of the needs of internationalization, for example in a case statement. We have gathered the following convincing needs for internationalization:

- Changes in the global scene of higher education
- Changes in higher education in the Japanese system
- Changing expectations on scientists and engineers in the workplace
- Changing student aspirations and

12. There should be carefully designed strategy in order to guarantee effective achievement of the goals of internationalization. The more obvious ones are:

- Strategic increase of foreign students
- Strategic increase of Japanese student for exchange abroad
- Strategic increase of visiting students
- Strategic introduction of English as a working and medium of instruction
- Increase and enhancement of collaboration in joint programmes

13. Among others, the following are identified as priorities at this moment:

- Training Tokyo Tech students as best global researchers, and hence graduates should also engage their further study in other world renowned institutions abroad.

出典：国際室会議資料

(資料 60-7) 2006 年・国際アドバイザー招聘について

2006 年・国際アドバイザー招聘について (素案)

## 1. 招聘者

- Prof. Cheng Kai-ming (香港大学前副学長)：香港大学において、国際競争力強化担当（特に、ファンド・レイジング）の要職にあり、高等教育の国際化に関する専門家であり、香港、中国の有名大学における国際化政策の計画、実施の経験者。平成 14 年度、同 15 年度に続き、国際アドバイザーとして三度目の来校。
- Prof. Carol Ann Spreen (米国メリーランド大学教育政策学部助教授)：平成 11（1999）年より米国の高等教育機関の国際化プロジェクトのディレクター。現在、教育のグローバル化と教育政策改革に関する国際比較研究、教育政策、国際教育、比較教育の教科担当、及び修士・博士課程の指導に当たっている。

## 2. 招聘理由

平成 13 年の国際化ポリシーペーパーの提示、昨年の文部科学省「大学国際戦略本部強化事業」への採択及び国際室の組織拡充と、本学の国際化は大きく進展している。これに伴い、一貫性のある外部の異なる視点からのアドバイスをもとに客観的評価を得ることが今後の発展には不可欠となっている。その際には、世界の主要な高等教育機関で大学の国際化に携わってきた実務者や研究者から恒常的にアドバイスを受けることは非常に有意義である点を強調したい。

## 3. 招聘事業内容

平成 15 年度に引き続き、2 名の国際アドバイザー（米国、アジアの主要大学における国際連携の実務経験者）を国際室に席を設け、国際室と留学生センターなどの関係機関において、前回の分析とアドバイスの再検討、及び国際化推進のための分析と具体的なアドバイスを受ける。

- Prof. Cheng Kai-ming
  - ・ 前回のアドバイスをもとにした本学の現状に関するレビュー（特に、国際化に必要なファンド・レイジングに関して）
  - ・ アジアにおける大学の国際化を踏まえた、本学における国際化の進展に関する評価
  - ・ 「東京工業大学の国際戦略」に対するインプット
- Prof. Carol Ann Spreen
  - ・ 前回のアドバイスをもとにした本学の現状に関するレビュー（特に、国際教育部門及び衛星配信などの国際情報インフラ整備に関して）
  - ・ 米国における大学の国際化を踏まえた、本学における国際化の進展に関する評価
  - ・ 「東京工業大学の国際戦略」に提示された、国際室の組織拡充に関するアドバイス

以 上

[Revised 03.07/01]

## Tentative Schedule of Advisory Panel

2006.03.22-23

## Tokyo Institute of Technology

| Date             | Activities                                           | Participants |
|------------------|------------------------------------------------------|--------------|
| March 20, Monday | Arrival: Prof. Carol Ann Spreen<br>Check-in at Hotel |              |

(以下省略)

出典：国際室作成資料



計画3-2「【61】国際関連の実務組織として、国際室に国際オフィス（仮称）を設置することを検討し、実施する。」に係る状況

国際関連の実務組織の在り方を検討し、国際室に、既存の事務局組織である留学生課と国際事業課の機能を統合した国際支援部門を設置した（資料60-2 P251, 60-5 P255）。これにより整備された実施体制のもと、従来は、学務部と研究協力部の組織として別々に実務を行っていた両課が、企画部門が立案した施策を相互に連携して実施することとなった。その際に、情報基盤課が担当していた海外拠点の運営等に関する国際関連の業務を取り込むとともに、留学生課、国際事業課の事務室を学長裁量スペース使用により一箇所に集中させ、より緊密に効率的な業務運営を行えるようにした（資料61-1～2）。

（資料61-1） JSPS 提出用国際戦略本部事業報告書

（JSPS 国際戦略本部事業報告書）

### 東京工業大学の国際戦略

本学は、「世界最高の理工系総合大学の実現」を目指している。この目標を達成するためには、教育、研究、社会貢献のあらゆる面で国際化の戦略的推進が必須である。本学では、教員と事務職員を一元化した国際室（平成13年4月設置）が国際展開を強力に推進する。

この「東京工業大学の国際戦略」は、平成15年に提示した「国際化ポリシーペーパー」をもとに、常に変化する現状を分析し、現在のニーズに基づいて策定された実施案である。

#### 1. 本学が目指す国際化

【背景】 世界的な人口増加と経済発展は、アジア地域を中心に高等教育を求める潜在的な需要の増大を産み出している。21世紀に入り、情報通信技術（IT）を梃子に高等教育のグローバル化が一層促進し、情報・ひと・モノの移動が速やかになった。学生は、質の高い高等教育と雇用可能性を求めて移動し、研究者（英知）は研究環境と待遇の優れた機関に移動する時代となっている。このように、大学が選別される時代に突入し、不可避免的に大学間の国際的競争環境を産み出しているのが現実である。

本学は、「世界の主要大学は、まず国際的な教育・研究インフラとしての社会的存在として位置づけられる必要がある」との認識に立ち、世界各国の主要大学と連携を取りつつ、リーダーシップを発揮することが必須と考える。また、本学としては、世界に向けての最先端の情報発信源となりながら、より質の高い大学運営を目指していく必要がある。

【方針】 国際戦略の大きな柱は、次の二つである。一つは、次世代が必要とする世界的規模の教育・研究インフラの整備へ向けての連携形成の中核になりつつ、自らも世界に向かって大学を開き、地球規模の競争（メガ・コンペティション）の中でも優秀な学生がその出身国に関わらず常に入学を希望するような知の中心地となるべく大学をつくり変える。もう一つは、世界を舞台に各国の優れた大学・研究機関と、相互啓発し、協力・支援しあうネットワークの確立を目指す。

今後、教員や学生の国際移動が今より級数的に拡大する中、本学により多くの留学生や外国人研究者が滞在し、活発な交流が行われることによって、本学が世界有数の質の高い研究重点型大学院大学となることを想起している。それゆえ、世界の大学と連携し、競争し、世界に向けて情報を発信していかなければ、本学が標榜する「世界最高の」大学をめざすことはできない。本学を、先進的で、効率的で、国際的な研究教育を行なう「高い競争力を持った組織」に強化再編する必要がある。その手段が、本学における国際化戦略強化事業である。

【重点】 従来の国際化施策は、受入れた留学生や外国人研究者を中心とした学内教育研究環境を国際的な標準に照らして逸早く整備することに重点を置いてきた。これから数年における施策では、多くの人材の移動と滞在を前提として、理工系総合大学として先端的な情報通信技術を駆使し、世界各国の大学・研究機関と教育、研究で戦略的に連携することに重点を置く。同時に、従来から有する本学特有の国際的な資源（国際共同研究、海外拠点、遠隔教育、帰国留学生など）をさらに有機的・機能的に活用し、情報発信基地としての機能の向上を目指す。こうした知的貢献を通じて本学の世界的な認知度を高め、まずアジアにおける理工系総合大学として確固たる基盤を築くことが新たな国際化施策である。

## 2. 新たな国際展開のための方策

### 2. 1 基本原則

東工大の国際化ポリシーペーパーに述べられているように、以下の7つの原則に沿って国際化を進めていく。

- 〔1〕 量から質へ：留学生や研究交流など交流実績を数量的な増加ではなく、「最高の質」をめざして交流を進める。
- 〔2〕 個人ベースから組織としての戦略へ：個人単位での交流に終わることなく、大学レベルの国際化に向けた目標達成に全学で取り組む。
- 〔3〕 分散化から一元化へ：限られた資源で最大限の効果をあげるため、国際室の統括のもとに国際化の一元的な実務体制をつくる。
- 〔4〕 横並びから重点化へ：資源の均等配分を見直し、戦略的に重要と思われるところに、重点的に配分する。
- 〔5〕 ローカルな規準からグローバルな規準へ：大学の制度や運営のしくみを、国際標準的なものと互換性があるように組み直し、交流が容易となるように改める。
- 〔6〕 受け入れのみから相互交流へ：学生の国際性を養うため、海外に留学しやすい環境を整えて、留学する学生の数を増やす。
- 〔7〕 最初にやることに意味がある：東工大は、「世界最高の理工系総合大学」を目指すため、他の大学がまだ試みていないことや、前例がないことを、必要なら果敢に実行する。

### 2. 2 基盤的変革

本学が新たな戦略的国際展開を図るためには、国際展開の重要性についての認識を革新し、かつ国際展開を実施するためにふさわしい組織構築が必要となる。

#### （1）国際交流から国際連携へ

従来、本学では国際展開を「国際交流」に代表させていたが、学生、教員、研究者個人の相互交流を深めるだけでは大学レベルでの真の国際化は達成することができない。真の国際化を図るためには、相手国と、教育、研究、さらには国際社会貢献で協働する「国際連携」の姿勢を強く打ち出すことが必要である。また、我が国が位置するアジア地域の国々との連携と、先進諸国の多い欧米地域をも含めた世界の国々との連携とは明確に区別して、それぞれの目的に最も適した連携活動を推し進めるべきである。本学では国際展開を「国際交流」から「国際連携」へと発展させ、世界の大学のリーダーとしての新たな国際展開の局面を切り拓いて行く強い意志と、そのための強力な支援組織をもつことを目指している。

#### （2）国際化へ対応する組織体制

組織活動が継続的・螺旋的に改善するためにはPlan-Do-Check-Actionの改善サイクルが要求される。そのため、国際室はPlan及びCheckを担当する企画部門、Do及びActionを担当する国際支援部門で構成する。

- 企画部門はPlan及びCheckを担当し、国際戦略に関する企画及び立案等に係る具体的な施策の検討と施策の実施について評価を行う。
- 国際支援部門はDo及びActionを担当する実行部隊として、「学外連携グループ」と「学内支援グループ」の2グループからなり、企画部門の立案した施策を具体的に実施することにより、国際連携活動に係る支援を行う。

学外連携グループは国内外の教育・研究機関や、国際機関と連携し、国際連携活動を支援・推進する。

- ・ 総務企画チーム：国際室の運営・中期計画に関すること、キャンパスの国際化に関すること
- ・ 戦略支援チーム：学術・学生交流協定に関すること、国際連携のための資金調達
- ・ 海外拠点チーム：海外拠点に関すること、赴日予備教育、留学フェアに関すること

学内支援グループは留学生や外国人研究者の教育・研究活動、日本人学生や研究者の海外派遣、国際関係の教育・研究プログラムの実施について支援をする。

- ・ 学生交流チーム：外国人留学生の受け入れ、海外との学生交流プログラム、清華大

学大学院合同プログラム

・ 教員支援チーム：日本学術振興会学術国際交流事業、国際交流会館、JICA 関係

出典：JSPS 提出用国際戦略本部事業報告書

(資料 61-2) 学長裁量スペース使用必要理由書

平成 18 年 2 月日

東京工業大学長 殿

申 請 者 国 際 室 長  
三 木 千 壽  
使用責任者 国際室国際支援部門長  
尾 熊 克 巳

### 学長裁量スペース使用必要理由書

国際室は、文部科学省の国際戦略本部事業に採択され、本学の国際的活動を全学的観点から戦略的に遂行するため、体制を整備するとともに、国際機関等の在職経験を有する外部人材として、国際連携プランナー（特任教授）1 名を平成 17 年 1 月 16 日に、また、国際連携コーディネーター（専門員相当）2 名を、平成 17 年 12 月 1 日にそれぞれ雇用しました。

本来であれば、国際戦略関係の企画立案・戦略プランの実施計画の策定及び実施状況の評価、関連組織との連携・調整を効率的かつ集中的に行うため、外部人材 3 名とともに企画等を行う事務職員数名（国際事業課、留学生課）を同じスペースに配置し、実行ある活動を推進すべきところではありますが、おのおの分散し連携活動を阻害しているのが実態あります。このような分散体制では、連携のとれた効率の良い業務が行えず、組織を再編し、外部人材を導入した意味が問われる状況であります。

以上の状況を斟酌していただき、国際戦略本部を実行ある組織として機能させるために、2 単位続きの部屋を、外部人材（3 人）、事務職員（3）の執務室として、配分をお願いする次第であります。

出典：学長裁量スペース使用必要理由書

計画 3-3 「【62】国際大学院コースの抜本的改革案を、国際室を中心に教育推進室と連携して策定し、実施する。」に係る状況

従来の国際大学院コースを廃止し、平成 19 年度より、修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを開始した。これは全ての講義を英語で行うプログラムであり、英語のコミュニケーション能力を培う目的から、日本人学生も科目を履修できるものである。これに基づく 8 プログラムが文部科学省の「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」に採択された（国費枠 69 名）（資料 4-8 P18, 20-1 P104）。国際大学院プログラム運営協議会を設置し、プログラムの運営に係る事項を同協議会において一括して行うことを定めた。それを受けて、従来はコースごとに定めていた国費留学生の採用方針、可否判定等について、同協議会において全学の統一的な基準を定め、運用した（資料 62-1）。

また、候補者を選考するにあたっては、合格者の質を担保するために、交流協定校を主たる対象として現地面接等の選抜試験を実施した（資料 19-1 P103）。

## (資料 62－1) 国費留学生採用方針、合否判定について

平成19年11月12日  
国際大学院プログラム運営協議会

## 1.【国費留学生採用方針について】

- (1)国費留学生として採用する者は、原則として協定大学※からの学生を中心とする。
- (2)協定大学以外の者を採用する場合には、協定校と同等レベル又はそれ以上の大学に限る。その場合には、大学のレベルを判断できる説明資料を添付し、国際大学院プログラム運営協議会で承認を得る必要がある。  
※協定大学の学生～協定大学の学部または大学院を卒業・修了見込みの者及び既卒業・修了している者をいう。
- (3)国費留学生として採用する場合には、原則面接を行うこととする。ただし、インターネット・インタビューにて採用する旨記載しているプログラムにおいては、この限りではない。なお、この場合は、口頭面接に準ずるインターネット・インタビューをできる限り複数で実施することとする。特任教授及びOB教員に協力頂く場合は、あくまで副としてご協力頂くこととする。
- (4)公平性に欠けない選抜を行うためのひとつの方法として、事前に「評価シート」を作成する。
- (5)本学には、マニラ、バンコク、北京の各オフィスが整備されており、遠隔通信を使った面接を実施することも可能である。その場合には、受入教員の面接結果を優先することとする。現地へ派遣されている教員の評価は、副とする。
- (6)各プログラム内での面接実施日程及び相手先大学について、国際大学院プログラム協議会に報告いただき、他のプログラムと合同で実施する可能性等を模索する。
- (7)面接の有効期限は、当該年度とする。
- (8)面接に要する経費等については、各部局単位で負担する。

## 2.【合否判定について】

留学生の入学試験に係る合否判定については各専攻で行い、国費奨学金の採否決定は留学生課でとりまとめ、国際大学院プログラム運営協議会で了承を得ることとする。

なお、清華大学とのツィニングプログラム及び理研国際スクールへの出願及び奨学金受給の採否に関しては、各運営協議会等で決定する。

出典：留学生課作成資料

計画3－4「【63】(再掲)本学主催・共催の国際会議・集会等の開催及び著名外国人研究者の招聘を積極的に推進する方策を策定し、実施する。」に係る状況

国際戦略本部強化事業の下で、国際会議を担当する戦略支援チーム及び研究者の受入・派遣を担当する教員支援チームを新設し、外部経験者を公募により国際連携コーディネーターとして採用するなど強化を図った。

この体制の下、(独)日本学術振興会の国際会議開催助成事業(二国間交流事業、国際研究集会、アジア学術セミナーなど)の公募情報を学内ホームページに掲載するとともに、メールマガジンで情報発信し、応募の促進を図っているほか、来学外国人研究者のための情報を整理して活用するなど、外国人研究者の招聘を積極的に推進している(資料8－1, 2 P48)。また、21世紀COEプログラムをはじめ外部資金等により開催した国際会議等は119件から156件(3年間で1.3倍)に増え、招聘外国人研究者の数も555から706(3年間で1.27倍)に増加している(資料8－3, 4 P49)。

外国人研究者生活支援として、外国人研究者用宿舎(国際交流会館)の利用促進のため、今まで課していた過去の日本滞在歴による入居期間の制限を廃止するとともに、夫婦室においての最長入居期間を1年から2年間へと延長し、平成20年度から利用料金を引き下げることを決定した。

b) 「小項目 3」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

「国際室」に、国際関連の企画、立案、実務の機能を集約するとともに、国際アドバイザー委員会設置等により、より効率的な業務運営の実施及び戦略的企画立案機能を強化した。これらの取り組みについて、文部科学省委託事業「国際戦略本部強化事業」に採択された。

国際交流推進のための組織を、国際室に新設し、情報の収集及び提供を行った結果、国際会議・集会の開催及び外国人研究者の招聘が増加している。

国際大学院コースを廃止し、修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを新たに設置し、文部科学省の「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」に採択された。

## ○小項目 4 「世界一流の諸大学との研究交流及び学生を含めた人的交流促進を図る。」の分析

## a) 関連する中期計画の分析

計画 4-1 「【64】(再掲)一定数の学部学生を、国際交流協定校を中心として短期間留学させるとともに、本学における海外派遣学生総数を全学生の一定パーセント以上の規模にする方策を策定し、実施する。」に係る状況

国際室に関連する事務部門を改組して学内支援グループとして一体的に運用することにより、留学生、外国人研究者を一元的にサポートする体制とした(資料 60-5 P255)。学生の留学を促進するため、学則を改定し在学期間及び休学期間の上限を延長し、留学を阻害している要因を取り除いた。

新入生の入学時に留学に関するパンフレットを配布し、入学後の留学準備に対応できるようにしている。また、毎年、留学フェアを実施し、「フランス留学フェア」、「ドイツの夕べ」などの催しも随時開催している。そして、ホームページにより留学情報を発信するとともに、留学生センターから「海外プログラム・留学交流メールニュース」を登録学生に定期的に配信し、留学に関する情報提供を行っている(資料 9-5, 6 P55~56)。

留学に際しての経済的支援策として独自の奨学金制度を導入し(資料 9-8 P58)、またシドニー工科大学との ECTS/UCTS (国際標準単位互換スキーム)を用いた単位互換制度や(資料 4-4 P15)、モナッシュ大学(オーストラリア)英語研修プログラムを活用して、留学に対するインセンティブを高めている(資料 9-10 P59)。また、国際交流協定締結数は毎年増え続けている(資料 64-1, 2)。取り組みの結果、海外派遣等実績は4年間で約1.5倍に増加している(資料 9-11 P59)。

## (資料 64-1) 国際交流協定締結数(H16-19)

(単位:機関)

|           |     | 16.5.1 | 17.5.1 | 18.5.1 | 19.5.1 |
|-----------|-----|--------|--------|--------|--------|
| アジア(中東含む) | 大学間 | 39     | 41     | 40     | 46     |
|           | 部局間 | 14     | 16     | 23     | 30     |
| オセアニア     | 大学間 | 1      | 2      | 2      | 2      |
|           | 部局間 | 2      | 1      | 3      | 4      |
| ヨーロッパ     | 大学間 | 28     | 26     | 27     | 29     |
|           | 部局間 | 15     | 16     | 17     | 23     |
| アメリカ      | 大学間 | 12     | 10     | 10     | 11     |
|           | 部局間 | 6      | 8      | 9      | 11     |
| アフリカ      | 大学間 | 0      | 1      | 1      | 1      |
|           | 部局間 | 0      | 0      | 1      | 2      |
| 大学間計      |     | 80     | 80     | 80     | 89     |
| 部局間計      |     | 37     | 41     | 53     | 70     |
| 合計        |     | 117    | 121    | 133    | 159    |

出典：国際事業課作成資料



(資料 64-2) 国際交流協定校一覧

| (2007 年 5 月 1 日現在) |                      |         |             |                          |         |
|--------------------|----------------------|---------|-------------|--------------------------|---------|
| 国・地域名              | 協定締結相手大学等名           | 開始年月    | 国・地域名       | 協定締結相手大学等名               | 開始年月    |
| 中華人民共和国            | ハルビン工業大学             | 1980.1  | アメリカ合衆国     | ワシントン大学                  | 1974.5  |
|                    | 清華大学                 | 1985.4  |             | カリフォルニア大学                | 1988.4  |
|                    | 上海交通大学               | 1991.8  |             | オレゴン州立大学                 | 1992.7  |
|                    | 北京大学                 | 1991.8  |             | ウィスコンシン大学マディソン校          | 1992.8  |
|                    | 西安交通大学               | 1991.8  |             | メリーランド大学ボルティモア校・カレッジパーク校 | 1992.11 |
|                    | 浙江大学                 | 1993.9  |             | ジョージア工科大学                | 2001.1  |
|                    | 北京理工大学               | 1993.12 |             | ペンシルバニア州立大学              | 2002.5  |
|                    | 中国科学技術大学             | 1997.9  |             | ウィスコンシン大学ミルウォーキー校        | 2004.4  |
|                    | 大連理工大學               | 2006.11 |             | サンパウロ大学                  | 1991.5  |
|                    | 同済大学                 | 2007.4  |             | ブラジル航空工科大学               | 1992.1  |
| インド                | インド工科大学デリー校          | 1994.7  | ベルギー王国      | ゲント大学                    | 1992.9  |
| インドネシア共和国          | バンドン工科大学             | 1988.6  | デンマーク王国     | ブラッセル自由大学                | 1994.5  |
|                    | インドネシア大学             | 1992.12 |             | デンマーク工科大学                | 1992.9  |
| 大韓民国               | ガジャマダ大学              | 2000.2  | フィンランド共和国   | ヘルシンキ工科大学                | 1995.1  |
|                    | 韓国科学技術院              | 1986.5  | フランス共和国     | ラッペンランタ工科大学              | 1998.4  |
|                    | 韓国科学技術研究院            | 1991.12 |             | 国立ボンゼ・ショセ大学              | 1992.9  |
|                    | 韓国海洋大学               | 1992.7  |             | 国立芸術工科大学                 | 2002.4  |
|                    | 高麗大学                 | 1992.9  |             | レンヌ大学                    | 2002.5  |
|                    | 慶北大学                 | 1993.7  |             | ストラスブール大学                | 2004.4  |
|                    | 全北国立大学               | 1995.4  |             | エコール・ポリテクニク              | 2006.2  |
|                    | 漢陽大学                 | 1996.4  |             | パリ・テック                   | 2007.4  |
|                    | 延世大学                 | 2002.4  |             | エコール・デ・ミンヌ               | 2007.4  |
|                    | ポーハン科学技術大学           | 2003.3  | ドイツ連邦共和国    | ミュンヘン工科大学                | 1982.7  |
|                    | ソウル国立大学              | 2007.3  |             | シュツツガルト大学                | 1992.4  |
| モンゴル国              | モンゴル科学技術大学           | 2003.6  |             | ヨハネス・グーテンベルク大学           | 2001.8  |
|                    | モンゴル国立大学             | 2007.4  |             | ハノーバー大学                  | 2004.2  |
| フィリピン共和国           | デラサル大学               | 1992.5  | イタリア共和国     | ボローニャ大学                  | 1997.3  |
|                    | フィリピン大学              | 1992.8  |             | ローマ大学                    | 1998.9  |
| シンガポール共和国          | シンガポール大学             | 1991.2  |             | ミラノ工科大学                  | 2002.5  |
| タイ王国               | チュロンコン大学             | 1985.1  | ノルウェー王国     | ノルウェー工科・自然科学大学           | 1993.2  |
|                    | キングモンクット工科大学ラカバン校    | 1992.11 | ロシア連邦       | モスクワ物理工科大学               | 1993.6  |
|                    | タマサート大学              | 1996.3  |             | ノボシビルスク国立大学              | 1999.11 |
|                    | カセサート大学              | 1996.12 | スウェーデン王国    | スウェーデン王立工科大学             | 1991.9  |
|                    | 国家科学技術開発庁            | 2001.9  |             | シャルマーズ工科大学               | 1992.1  |
|                    | キングモンクット工科大学ノースバンコク校 | 2005.1  | スイス連邦       | スイス連邦工科大学                | 1978.9  |
|                    | アジア工科大学              | 2005.12 |             | マンチェスター工科大学              | 1979.5  |
|                    | 国立成功大学               | 1997.11 | 英国          | ストラスクライド大学               | 1993.2  |
| 台湾                 | 国立清華大学               | 1998.11 |             | サレイ大学                    | 1993.9  |
|                    | 国立台湾大学               | 1999.1  |             | ケンブリッジ大学チャーチルカレッジ        | 2001.3  |
|                    | 国立交通大学               | 2004.11 |             | メルボルン大学                  | 1994.8  |
| ベトナム社会主義共和国        | ハノイ工科大学              | 1995.8  | オーストラリア連邦   | シドニー工科大学                 | 2005.1  |
|                    | ハノイ大学                | 1995.8  | イスラエル国      | イスラエル工科大学                | 1991.12 |
|                    |                      |         | イラン・イスラム共和国 | シャリフ工科大学                 | 2000.11 |
|                    |                      |         | トルコ共和国      | 中東工科大学                   | 1992.12 |
|                    |                      |         |             | ボアージュチ大学                 | 1998.3  |
|                    |                      |         | タンザニア連合共和国  | タンザニア水産学研究所              | 2005.2  |

出典：本学ホームページ

計画4-2「【65】優秀な留学生や、国内外の研究機関との共同研究や研究交流に関わる海外研究者の受入数を増加させる方策を検討し、実施する。また、国際交流協定校のうちの選別された特定大学との、教育研究に関する国際連携プログラムを推進するための組織を構築する方策を検討し、実施する。」に係る状況

国際室に関連する事務部門を改組し、学内支援グループとして一体的に運用することにより、留学生、外国人研究者を一元的にサポートする組織とした(資料60-5 P255)。新たに国際連携プランナー(1名)、国際連携コーディネーター(2名)を公募・採用し、企画・立案機能を強化した(資料60-4 P254)。海外の連携大学との関係を精査、大学間交流協定を見直して協力相手を重点化する等、国際戦略における具体的な成果を挙げている。

国際大学院コースを廃止し、新たに修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを開始した(資料4-8 P18)。同プログラムは、文部科学省の「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、国費奨学金枠を確保した(69名)(資料20-1 P104)。

また、清華大学大学院合同プログラム運営委員会及びTAIST設置準備会を組織し、合同大学院プログラムの企画・運営を行った(資料65-1, 2, 4-14 P21)。

海外の大学と締結している学生交流協定について、現行協定にECTS/UCTS(国際標準単位互換スキーム)を用いた単位互換の適用に関する付加条項を織り込んだ(資料4-4 P15)。

留学生や外国人研究者の生活面における支援体制の充実にも取り組み、(財)東京工業大学後援会からの奨学寄附金により奨学金を支給し、新たに女子寮を借り上げるなど、居住環境の改善を図った。また、国際室に外国人研究者生活支援等検討のための作業部会を立ち上げ、外国人研究者用宿舎(国際交流会館)の利用促進のため、今まで課していた過去の日本滞在歴による入居期間の制限を廃止するとともに、夫婦室においての最長入居期間を1年から2年間へと延長した。

以上のような取り組みの結果、留学生数は毎年増加し、平成19年度には1,000人を超えた(資料65-3)。全学生に占める留学生の割合は高く、10%を超えている。

また、客員研究員の受け入れも法人化以降高い水準で推移している(資料65-4)。

(資料65-1) 東京工業大学と清華大学における大学院合同プログラム規則(抜粋)

○東京工業大学と清華大学における大学院合同プログラム規則

平成16年6月25日

規則第163号

改正 平16規177, 平17規7, 平19規8, 平20規8

(趣旨)

第1条この規則は、東京工業大学(以下「本学」という。)と清華大学との間で締結した「東京工業大学清華大学大学院合同プログラム協定書」(以下「協定書」という。)に基づき、本学と清華大学が共同して実施する大学院の合同プログラム教育(以下「合同プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条合同プログラムは、本学と清華大学が共同で大学院の学生教育を行い、日本語、中国語及び英語の素養を持った、優れた理工系の人材を養成し、両国の科学技術及び産業経済の発展に資することを目的とする。

(運営委員会)

第3条合同プログラムの円滑かつ適正な運営を図るため、大学院合同プログラム運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第4条委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一合同プログラムの実施に関し、清華大学と協議すべき事項

二各コースの連絡調整に関する事項

三合同プログラムの実施に係る運営資金の募集と配分に関する事項

四合同プログラムの実施に係る非常勤職員等の雇用等に関する事項

五その他合同プログラムの実施に関し必要な事項

(以下略)

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

(資料 65-2) TAIST 合同学位に関する検討委員会提案 (第3版)

【67-4-1】

### TAIST 合同学位に関する検討委員会 提案 (第3版)

平成 18 年 10 月 17 日  
国際連携プランナー  
森田明彦

12 日の第 86 回国際室会議での議論に基づき、同日午後 3 時より TAIST 合同学位に関する検討委員会（大即、高田、森泉、森田、長池）を開催し、さらに高田国際室長補佐、土屋留学生課補佐および教務課（土屋補佐、松村係長）と協議を行った結果は以下の通りです。なお、ここでは TAIST 修士プログラムの学位に的を絞って議論を行いました。

#### 1. 課題と問題点

課題：TAIST 修士課程において発給する修士号学位を SIIT(or KMITL) & NSTDA & 東工大の連名による学位記に出来ないか？

上記課題に関する問題点

- (1) どの組織が学位記を出すのか？→SIIT ないし KMITL
- (2) 東工大がこの修士号学位記に正式に署名するには何が必要か？
  - ①当該学生が東工大の修士課程修了の基準を満たしていること
  - ②東工大の学則上、SIIT ないし KMITL の学位記に東工大学長が署名することが可能であること→学則上の縛りはない

#### 2. 東工大による修士号授与の基準とは何か？

- (1) 東工大が提供する講義と研究指導を受けていること
- (2) 東工大の修士課程に在学している正規学生であること

↓

##### (1) について

TAIST 在学学生を対象に東工大教員がタイにおいて集中講義を行い、同時に東工大の希望者（in 日本）には遠隔講義システムを通じてこの講義を配信する（希望する東工大生がいれば、タイに出掛けて、東工大教員による集中講義を受講することも可能）

→この形態の講義が東工大の正規科目として認定され得るか？

##### (2) について

東工大の修士課程に正規学生として在学するためには、東工大の入試に合格し、入学金および授業料を払い込むことが必要

→入学金および授業料免除は可能（清華大学合同大学院プログラムと同じ形態）

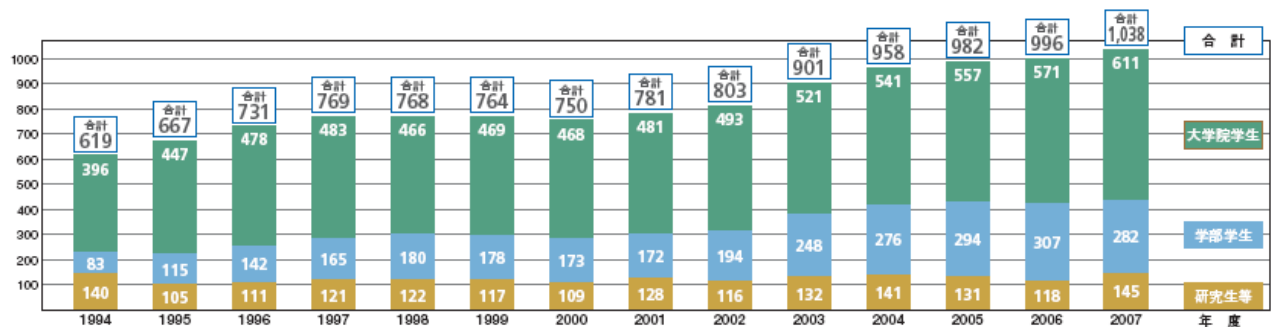
以下略

出典：国際室作成資料

(資料 65－3) 留学生数の変遷

## 留学生数の変遷

各年度5月1日現在



出典：TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY PROFILE2007

(資料 65－4) 客員研究員数

(延人数)

|       | 15 年度 | 16 年度 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| アジア   | 113   | 134   | 136   | 105   | 121   |
| アメリカ  | 17    | 21    | 18    | 16    | 22    |
| ヨーロッパ | 50    | 55    | 65    | 50    | 62    |
| オセアニア | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     |
| 中東    | 12    | 4     | 4     | 3     | 13    |
| アフリカ  | 8     | 2     | 1     | 2     | 0     |
| 合計    | 200   | 216   | 224   | 177   | 219   |

出典：TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY PROFILE, 学務部調査資料

計画 4－3 「【66】国際交流に関する十分な情報の配信信を行うために国際広報体制を拡充整備する。」に係る状況

世界に向けて情報発信（資料 66－1）するために、国際広報体制を拡充整備した。外国人研究者、交流協定校、国際機関及び大使館向けの英文広報誌（資料 66－2）の取り扱いを国際室から広報・社会連携センターに移管し、体制を強化した。平成 16 年度から、従来の大学要覧に代わり本学の取り組みを紹介する「Tokyo Institute of Technology」と基本的なデータを掲載する「TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY PROFILE」の 2 分冊を、毎年度発行し、ホームページにも掲載した。また、英文広報誌を充実させることを目的に、広報誌の海外モニターによるアンケートを実施した（資料 66－3）。

広報誌「Tokyo Tech International」の編集委員を、外国人教員を中心とした体制に強化し、（資料 66－4）内容の刷新を行った。平成 19 年 3 月からは 3 ヶ月ごとに「Nature」誌に研究成果等の記事広告を掲載するとともに、あらかじめ登録している読者に対し、メールマガジンを送信した。また、BBCWeb 及び The Wall Street Journal ASIA にも情報を掲載するなど海外向けの広報を積極的に行った。

(資料 66－1) 英文ホームページ掲載ニュース数推移  
(件)

|          |     |
|----------|-----|
| 平成 14 年度 | 36  |
| 平成 15 年度 | 50  |
| 平成 16 年度 | 79  |
| 平成 17 年度 | 133 |
| 平成 18 年度 | 135 |

出典：評価・広報課作成資料

(資料 66-2) 広報誌『Tokyo Institute of Technology Bulletin』

## ADVERTISEMENT FEATURE

## Making History

## The Birth of an Industry

The discovery of ferrites at Tokyo Tech in the early 1930s proved a seminal event in the history of electronics and information technology. Ferrites are iron oxides that sustain a stronger magnetic field than iron alone. Ferrite cores soon demonstrated their worth in inductors, transformers, and electromagnets. The developers of early computers used arrays of ferrite cores for data storage.

Technology developed by the Tokyo Tech faculty members who discovered ferrites became the foundation for a hugely successful manufacturing enterprise. The founder of TDK Corporation, a global leader in electronic components and information storage media, secured the rights to their technology and established TDK in 1935 to develop commercial applications for ferrites.

Ferrites continue to yield new possibilities. A Tokyo Tech professor has developed ferrite-coated plastic film for suppressing electromagnetic noise in cell phones. Synthesized ferrite nanoparticles, meanwhile, that bond to bioactive molecules could serve as magnetic carriers for bio-screening, for improving contrast in magnetic resonance imaging (MRI), and even for delivering drugs to tumors.



A replica of the first soft-ferrite core and a sample of ferrite-coated film for suppressing electromagnetic noise.

## Artistic Alumni

Although Tokyo Tech is best known for science, the school has spawned important artists. Two graduates who left especially distinctive artistic legacies were the potters Kanjiro Kawai (1890-1966) and Shoji Hamada (1894-1978). Both were leaders in Japan's folk-art movement, which exalted the simple beauty of utilitarian works by anonymous artisans. Both studied ceramics at Tokyo Tech and became friends there. Exports of porcelain ware were long a valuable source of foreign exchange for Japan, and ceramics technology was an important part of the curriculum in Tokyo Tech's early years.

Hamada befriended the British potter Bernard Leach, who lived in Japan and who participated in the folk-art movement. The two traveled together to the United Kingdom in 1920 and established a pottery studio in St. Ives, which continues to operate as the Leach Pottery. Kawai, meanwhile, produced a prodigious volume of work that was of consistently remarkable quality. He earned international acclaim, capturing grand prix recognition at the Paris International Exposition of 1937 and at the Milan Triennale of 1967.



A jar by Kawai and a plate by Hamada.

## Tokyo Tech in a Nutshell

Research and education at Tokyo Tech have been pivotal in Japan's scientific and technological progress, and the university is a platform for fertile interchange among a global cast of researchers and educators. The Japanese government established Tokyo Tech in 1881 as the nation's first educational institution devoted exclusively to science and technology. Tokyo Tech fulfilled its founding purpose famously in supporting Japan's rapid modernization.

The university built world-class strengths in every principal field of science and technology. And it was the site of repeated and important scientific advances in the 20th century, such as the discovery of ferrites, pioneering work in holography, and research that laid the foundation for the Nobel Prize-winning development of conductive polymers. In the 21st century, Tokyo Tech continues to explore exciting new possibilities for Japan and for the world.



Tokyo Institute of Technology  
2-12-1, Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8552, Japan  
Inquiries: Center for Public Relations and Coordination  
E-mail: kouhou@yml.titech.ac.jp URL: www.titech.ac.jp  
Tel: +81-3-5734-2976 Fax: +81-3-5734-3687  
July 2007

## IAST

IAST is a leading institution of higher learning, a graduate school in the field of science and technology administered with the cooperation of NSTDA and some Thai universities as well as Tokyo Tech. It will produce excellent scientists and engineers who will contribute to the development of Thailand. For information: [www.ipst.titech.ac.jp/index-e.html](http://www.ipst.titech.ac.jp/index-e.html)

Advertiser retains sole responsibility for content

出典: Tokyo Institute of Technology Bulletin

## (資料 66-3) 海外モニターアンケート

**Questionnaire about the Tokyo Tech International newsletter****Your current position**

1. ☐ Professor
2. ☐ Postdoctoral Researcher
3. ☐ Doctoral student/researcher
4. ☐ Student (PhD, MS, BS, other: circle one)
5. ☐ Other

**Overall impression**Content – please, rank from 0 (poor) to 5 (excellent)

1. ☐ Selection of topics
2. ☐ Titles of articles:
  - (a) ☐ Clarity
  - (b) ☐ Appealing
3. ☐ Informative
4. ☐ Entertaining
5. ☐ Degree of success as a means of publicizing the activities of Tokyo Tech
6. ☐ Balance between space used for text and images

Appearance – please, rank from 0 (poor) to 5 (excellent)

1. ☐ Layout
2. ☐ Backgrounds, framing, line and icon graphics
3. ☐ Font style and size coordination
4. ☐ Size of illustrations
5. ☐ Quality of graphic illustrations:
  - (a) ☐ Technical
  - (b) ☐ Artistic
  - (c) ☐ Relevance to content
6. Quality of photography:
  - (a) ☐ Technical
  - (b) ☐ Artistic
  - (c) ☐ Relevance to content
7. ☐ Color coordination of the newsletter as a whole

**Individual contents**Rank individual articles from 0 (poor) to 5 (excellent)

1. ☐ Front page: "New Institute Links Japan and Thailand"
2. ☐ Front page: "Tokyo Tech Names New President"
3. ☐ Front page: "Five Tokyo Tech Programs to be Global Centers of Excellence"
4. ☐ Special feature: "Global Edge Institute"
5. ☐ Research review: "Papers and Topics"
6. ☐ Research Focus: "Doing Something about the Weather"
7. ☐ Partner Universities: "Letter from Sao Paulo"
8. ☐ Through Student Eyes: "Discovering New Possibilities"
9. ☐ Extracurricular: "Tokyo Tech Ahoy!"
10. ☐ Archives: "Conductive Polymers"

Select articles or sections from the previous list (1-10) satisfying the following descriptions

1. ☐ Most interesting
2. ☐ Least interesting
3. ☐ Type of section that should be eliminated
4. ☐ Type of section that should be expanded
5. ☐ Type of section that should be shortened

General comments

出典：評価・広報課作成資料

(資料 66-4) 平成 19 年度 Tokyo Tech International 編集グループ名簿

| 平成 19 年 7 月 1 日現在      |     |                    |                         |     |
|------------------------|-----|--------------------|-------------------------|-----|
| 部 局                    | 職 名 | 氏 名                | 任 期                     | 備 考 |
| 理工学研究科<br>有機・高分子物質専攻   | 准教授 | Martin Vacha       | 19.4. 1~<br>21.3.31     |     |
| 理工学研究科<br>材料工学専攻       | 准教授 | 史 蹟                | 19.7. 1~<br>21.6.3<br>0 |     |
| 総合理工学研究科<br>物質科学創造専攻   | 准教授 | 北本仁孝               | 19.4. 1~<br>21.3.31     |     |
| 留学生センター                | 教 授 | 仁科喜久子              | 18.4. 1~<br>20.3.31     |     |
| 量子ナノエレクトロニク<br>ス研究センター | 准教授 | ◎<br>Adarsh Sandhu | 18.4. 1~<br>20.3.31     |     |

◎ 編集長

出典：評価・広報課作成資料

## b) 「小項目 4」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である。

(判断理由)

国際室に関連する事務部門を改組して留学生、外国人研究者を一元的にサポートする組織とした。学則の改定、独自の奨学金、留学フェアの開催、ECTS/ UCTS（国際標準単位互換スキーム）を用いた単位互換制度等により学生の留学を促進している。また、新たな国際大学院プログラム開始による、国費奨学金枠の確保や、居住環境の改善等により留学生の受け入れを促進した。

研究者の交流を促進するため、広報誌の海外モニター制度を実施し、英文による情報発信の充実を図った。

以上の取り組みの結果、留学生の受入、派遣の増加及び客員研究員数の高水準での推移が見られる。



## ○小項目 5 「アジア地域との国際交流を強化拡大する。」の分析

## a) 関連する中期計画の分析

計画 5-1 「【67】 本学の海外オフィス、特にアジア地域のオフィスの数を増加する方策を検討し、実施する。」に係る状況

国際室に、国際交流・連携を戦略的に推進するため、海外オフィスの組織及び運営等に関する業務を指揮監督する海外拠点運営室を設置し（資料 67-1）、これらの組織の活動をサポートする事務組織として、海外拠点チームを設置した（資料 60-2 P251, 資料 60-5 P255）。平成 14 年度に設置されたタイオフィスに続き、フィリピンオフィス、北京オフィスを開設し（資料 67-3）、タイとフィリピンの両オフィスには、現地での業務を推進する拠点長を採用した。

タイオフィスでは、東工大-NASTDA 連携大学院コース（TAIST）の実施（資料 4-14 P21）、タイ国内に向けての衛星及びインターネット講義配信（資料 67-2）、フィリピンオフィスでは、学部生対象のサマープログラムの実施、中国清華大学内に設置した北京オフィスにおいては、大学院合同プログラムに係る業務などを行っており、各オフィスは留学生の獲得戦略を進め、タイ・フィリピンの両オフィスでは、遠隔講義システムを利用した国費留学生の面接（資料 19-1 P103）を行った。

平成 19 年度には、文部科学省・経済産業省協同プログラムである「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業に採択され、アジアの優秀な人材を発掘・教育そして日本企業への就職支援を実施すると同時に、アジアとのネットワークがより一層強化された。また、東アジアを中心とした諸外国から博士号取得を目指す才能豊かな学生を受け入れ、（独）理化学研究所と連携・協力して、教育・研究の機会を提供し、本学が学位を授与する「東工大・理研連携国際スクール」を設置した（資料 4-13 P20）。

以上の取り組みの結果、アジアからの留学生（資料 67-4）及び客員研究員の受入（資料 65-4 P267）は高い水準で推移している。

(資料 67－1) 国立大学法人東京工業大学国際室海外拠点運営室設置要項

○国立大学法人東京工業大学国際室海外拠点運営室設置要項

平成17年4月15日制定

改正平17.10.14, 平17.11.11

(趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人東京工業大学国際室設置要項（平成16年4月1日学長裁定。以下「国際室設置要項」という。）第17条第2項の規定に基づき、国立大学法人東京工業大学国際室海外拠点運営室の組織及び運営等について、必要な事項を定めるものとする。

(中略)

(任務)

第3条 海外拠点運営室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 次条に規定する海外オフィスの運営に関すること。
- 二 海外オフィスを拠点とした教育研究活動の支援に関すること。
- 三 海外への講義配信及びその評価に関すること。
- 四 講義配信に伴う教材開発等の体制の構築に関すること。
- 五 海外オフィスにおけるイベントの企画及び立案に関すること。
- 六 海外オフィスを中心とした東京工業大学（以下「大学」という。）の広報活動等に関すること。
- 七 その他国際室長が必要と認める業務に関すること。

2 前項に規定する業務は、必要に応じ学術国際情報センター、教育工学開発センター及び留学生センター並びに東京工業大学と清華大学における大学院合同プログラム規則（平成16年規則第163号。以下「合同プログラム規則」という。）第3条に規定する大学院合同プログラム運営委員会と連携協力し、遂行するものとする。

(海外オフィス)

第4条 海外拠点運営室に、大学の諸外国との学術交流及び国際連携を戦略的に推進するための活動拠点として、次の各号に掲げる海外オフィスを置く。

- 一 TOKYO TECH OFFICE (THAILAND)（次条において「タイオフィス」という。）
- 二 TOKYO TECH OFFICE (BEIJING)（次条において「北京オフィス」という。）
- 三 TOKYO TECH OFFICE (PHILIPPINES)（次条において「フィリピンオフィス」という。）

(以下略)

出典：国立大学法人東京工業大学規則集

(資料 67-2) 遠隔講義配信状況



東京工業大学  
教育工学開発センター  
大学院社会理工学研究科  
人間行動システム専攻  
協力講座(教育工学講座)

- [English version](#)
- [教育工学開発センターのホームページ](#)
- [センター長挨拶](#)
- [教育工学開発センター紹介](#)
- [衛星通信遠隔教育システム](#)
- [CRADLEニュース](#)

現在のプロジェクト

- [大学改善のための評価活動](#)
- [衛星通信による高大連携](#)
- [国際遠隔教育](#)
- [リフレッシュ教育衛星公開講座](#)
- [OECD-PISA](#)
- [高大連携における教育と評価](#)
- [一橋大学との交流講義](#)
- [理数プロジェクト](#)

学内向けお知らせ

- [衛星通信遠隔教育システムの利用について](#)

[センター内研究室](#)

## 国際衛星通信による遠隔教育プロジェクト



[\[English\]](#)

東京工業大学 教育工学開発センターでは、2002年5月より、国際衛星通信システム([ANDES International](#))およびインターネットを利用した遠隔教育プロジェクトを、海外拠点運営室や [東工大タイオフィス](#)、[東工大フィリピンオフィス](#)と連携して実施しています。

配信講義はタイの[アジア工科大学\(AIT\)](#)および[タイ王国国家科学技術開発庁、KMITL\(キングモンクット工科大学ラカバン校\)](#)が受信しています。

いずれも数年前から東工大の大学院で開講されている、英語による講義です。タイ側の受講学生にとっては、アジア工科大学のマイクロエレクトロニクス専攻あるいはキングモンクット工科大学ラカバン校通信工学専攻の授業科目の単位として認定されます。

本プロジェクトは、東京工業大学、アジア工科大学、タイ王国国家科学技術庁の3者協定により実現したものです。

東京工業大学では複数の組織間の協力により、本プロジェクトが実現されています。

- [学術国際情報センター](#)(理工学に関する国際交流)
- [教育工学開発センター](#)(遠隔講義、衛星通信の豊富な経験と実績)
- 大学院理工学研究科 [国際開発工学専攻](#)(国際的な視野を持ったエンジニアの育成を目指す大学院専攻)

出典：教育工学開発センターホームページ

(資料 67-3) 広報誌『東工大クロニクル-No. 405』(抜粋)

**東工大フィリピンオフィス:9月29日に開所式を挙****新山 浩雄**

(中略)

東工大は今までの東南アジアとのつながりを維持強化するために、また将来ともこの地域は日本の大学にとって重視すべき一つの地域であるとの認識の下で、タイオフィスを設置(2002年)した。このたびフィリピンに同じようなオフィスを開設したのも、国際化に向けての中期計画に沿った動きの一つである。しかしながら拠点が独自に出来ることは限られている。その役割はその国の事情を的確につかみ、帰国留学生を含む(そしてそれだけに限らない)人脈を作っていくことであり、それにより東工大のある部局・グループが何らかのプロジェクトを行おうというときに的確な助言、支援が出来るようになることに尽きる。いろいろな部局に拠点を使得ってプロジェクトを考えていただきたいと思っている。拠点の担当者としてはそれらに最大限の支援をさせていただく。

何が出来るかを考えていくよすがとして、オフィスを設置した DLSU の概要およびいままですがフィリピンとの協力で行ってきた事のいくつかについて紹介しよう。

**デラサール大学の概要:**DLSU は4つのキャンパスを持つがそれぞれのキャンパスはかなり高度の自立性を有している。それらを統合して DLSU System が構成されている。その中心となるのが学部生 9717 名、大学院生 1913 名が学ぶ DLSU-Manila で、工学部、理学部ほか人文／社会系学部も持つフィリピン最高の私立大学である。工学部には Chemical Eng., Civil Eng., Electronics & Communication Eng., Industrial Eng., Manufacturing Eng. & Management, Mechanical Eng. の6つの学科がある。理学部には Biology, Human Biology, Chemistry, Mathematics, Physics がある。

**フィリピンにおける東工大の活動:**フィリピンにおいては今までも多くのプロジェクトが行われてきた。学術振興会事業“東南アジア諸国との拠点大学方式による学術交流事業”は20年の歴史を持ち、現在の環境工学・土木工学分野の共同研究に引き継がれている。現在この事業を基盤に学生交流も行われている。実際、この9月には20日の日程で東工大の開発システム工学科の学生16名が DLSU-Manila を訪問し、語学研修・野外調査活動に参加した。

また、国際開発援助の分野では、AUN SEED Net (ASEAN University Network - Southeast-Asia Engineering Education Development Network) プロジェクトが ASEAN 10ヶ国の19大学を束ねて行われており、化学工学分野では DLSU-Manila が、環境工学分野では UP Diliman (フィリピン大学ディリマン校) がホスト校に選ばれ、東工大がその分野における日本側支援大学幹事校となっている。このプログラムにより現在20名程度の他の ASEAN 諸国からの学生が DLSU-Manila で学んでおり、東工大の化工・開発化工の教員が副指導教員として指導している。

このようにすでに交流活動自体はかなり活発に展開されている。オフィスはそのような活動をより円滑に行うための支援、帰国留学生との繋がり維持と強化、共同研究課題の開発と展開のための前衛としての役割を果たしていきたいと思っている。特にフィリピンは英語国であり、語学研修と組み合わせた学生交流は一つの重点活動になろうと思う。

なお、フィリピンオフィスには、Ronaldo Gallardo 氏(土木工学科)が Manager として、また、Lan さんが秘書として常駐している。また、拠点長新山はフィリピンと日本との間を行き来することになるが、日本にいる間の連絡先は東工大国際室海外連携チームである。

(以下省略)

出典：広報誌『東工大クロニクル-No. 405』

(資料 67-4) 留学生数の推移(地域別・課程別)

(単位:人)

|               |        | 16.5.1 | 17.5.1 | 18.5.1 | 19.5.1 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| アジア<br>(中東含む) | 学部     | 269    | 288    | 299    | 277    |
|               | 修士課程   | 167    | 189    | 210    | 249    |
|               | 博士後期課程 | 294    | 282    | 274    | 280    |
|               | 研究生等   | 91     | 88     | 77     | 86     |
|               | 小計     | 821    | 847    | 860    | 892    |
| アメリカ          | 学部     | 2      | 1      | 3      | 3      |
|               | 修士課程   | 11     | 15     | 15     | 12     |
|               | 博士後期課程 | 17     | 11     | 13     | 13     |
|               | 研究生等   | 12     | 9      | 5      | 17     |
|               | 小計     | 42     | 36     | 36     | 45     |
| ヨーロッパ         | 学部     | 1      | 2      | 2      | 2      |
|               | 修士課程   | 19     | 22     | 20     | 15     |
|               | 博士後期課程 | 23     | 27     | 27     | 28     |
|               | 研究生等   | 28     | 27     | 30     | 32     |
|               | 小計     | 71     | 78     | 79     | 77     |

|       |         |     |     |     |      |
|-------|---------|-----|-----|-----|------|
| オセアニア | 学部      | 1   | 0   | 0   | 0    |
|       | 修士課程    | 0   | 0   | 2   | 2    |
|       | 博士後期課程  | 0   | 0   | 0   | 2    |
|       | 研究生等    | 5   | 5   | 5   | 8    |
|       | 小計      | 6   | 5   | 7   | 12   |
| アフリカ  | 学部      | 3   | 3   | 3   | 0    |
|       | 修士課程    | 3   | 3   | 2   | 1    |
|       | 博士後期課程  | 7   | 8   | 8   | 9    |
|       | 研究生等    | 5   | 2   | 1   | 2    |
|       | 小計      | 18  | 16  | 14  | 12   |
|       | 学部計     | 276 | 294 | 307 | 282  |
|       | 修士課程計   | 200 | 229 | 249 | 279  |
|       | 博士後期課程計 | 341 | 328 | 322 | 332  |
|       | 研究生等計   | 141 | 131 | 118 | 145  |
| 合計    |         | 958 | 982 | 996 | 1038 |

出典：TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY PROFILE

## b) 「小項目 5」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

海外拠点運営室の統括のもと、3カ国に海外オフィスを設置し、留学生のリクルートや、講義配信などの活動に力をいれているほか、NSTDA との連携大学院 (TAIST) や清華大学との大学院合同プログラムに係る業務を連携して行うなど、海外オフィスを利用したアジア地域との国際交流を戦略的に行っている。

「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業の実施、「東工大・理研連携国際スクール」の設置等により、アジアからの留学生及び客員研究員の受け入れが増加、あるいは高い水準で推移している。

## ②中項目 1 の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

教育面における社会との連携については、世界文明センターを中心とした公開講義・講演の実施、大田区と連携した本学教員の区民大学での講義開催等の一般向け講座や、現場技術者を対象とした、ものづくり教育研究支援センター「製造中核人材（スーパーマイスター）」講座、大学院イノベーションマネジメント研究科における中小企業向け MOT プログラム等教育機会の積極的な提供を行うとともに、Tokyo Tech OpenCourseWare では、講義資料をホームページ上で広く公開している。また、特任教授、客員・連携教員の制度を活用した産官学の人事交流を行っている。

研究面では、統合研究院を設置し、産業界のニーズに合った戦略的研究を推進する一方、地元の自治体と連携協力に関する協定を締結し、地域のニーズに合った研究を推進する体制を整備した。また、TLO 機能を産学連携推進本部に統合、知財の一元化とその活用を図り技術移転を推進するとともに、戦略的にベンチャー起業の支援を行っており、産学官連携実績は大幅に増加している。

国際交流については、国際室に国際関連の企画、立案、実務の機能を集約するとともに、国際連携プランナー等を採用し、体制を強化した。国際大学院コースの抜本的改革にも取り組み、同コースを発展させ、修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを新たに設置した。研究者及び学生の交流を促進するため、独自の奨学金、留学フェアの開催、居住環境の改善、英文広報誌の充実等を行っており、留学生の受入、学生の海外派遣及び客員研究員の受入件数が増加、あるいは高い水準で推移している。

以上のように、産業界や国際社会のニーズを踏まえて、体制を整備し、取り組みを推進した結果、産学連携及び国際交流の活動が活発に行われ、件数が増加していることから、目標の達成状況が非常に優れていると判断される。

### ③優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 本学の理工系教育を世界の共有財産とすべく、講義情報のプラットフォーム（Tokyo Tech OpenCourseWare）を構築し、293 講義ノートに掲載しており、講義資料を広く公開している。（計画 1－1）
2. 企業等との組織的連携を積極的に進め、13 機関と協定を締結するなど産学連携を戦略的に推進した結果、受託・共同研究、特許料収入等の実績が増加した。（計画 2－1）
3. 学長直属の産学連携推進本部を設け、全学的な立場で産学連携ビジョン、知的財産ポリシー等の策定を行い、それに基づいた各種施策を実施した。その結果、「大学知的財産本部整備事業」中間評価において A 評価を受けるとともに、「スーパー産学官連携本部」の 1 校として選定された。（計画 2－1）
4. タイ、フィリピン、北京に海外オフィスを設け、TAIST（東工大－NSTDA 連携大学院）や清華大学との大学院合同プログラムに係る業務を連携して行うなど、海外拠点を活用した国際交流を戦略的にを行っている。（計画 4－2）
5. 修士・博士一貫課程を中心とした国際大学院プログラムを新たに設置するとともに、独自の奨学金を支給するなど留学生受入体制を整備した結果、留学生数が一貫して増加している。同プログラムは、文部科学省「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」に採択された。（計画 4－2）

(改善を要する点)

該当なし。

(特色ある点)

1. 世界文明センターを中心とした公開講義・講演の実施や、大田区と連携した本学教員の区民大学での講義開催等、教育機会の積極的な提供を行った。また、啓発的活動の一環として、親子を対象とした「ものづくり体験」などの本学の特色を活かした体験型教育も実施した。（計画 1－1）
2. ものづくり教育研究支援センターを中心に現場技術者を対象とした「製造中核人材（スーパーマイスター）」講座を、また、(財)大田区産業振興協会と協力した「東京工業大学技術交流セミナー」を開催するなど地域社会および産業界との連携を深めている。大学院イノベーションマネジメント研究科においては、平成20年度から中小企業の次世代を担う中核人材のキャリアアップのための「キャリアアップMOTプログラム」開講を決定するなど社会人教育、産官学連携を積極的に行っている。（計画 1－1、1－2）
3. 全国に先駆け、学外 TLO を学内に統合し、知財の一元管理を確立するとともに、産学連携会員制度の発足、NEDO マッチングファンド事業の開始など新たな事業を展開した。（計画 2－1）
4. 国際アドバイザー委員会を設置し、国内外から著名なアドバイザーを招聘し、国際化の進捗状況についてアドバイスを受け、国際戦略の点検・評価等に活用している。（計画 3－1）



## 4 附属図書館に関する目標(大項目)

### (1) 中項目 1 「附属図書館に関する目標」の達成状況分析

#### ①小項目の分析

○小項目 1 「先導的電子図書館システムを充実させ、学内及び国内外に対する双方向の情報流通サービスの拡大及び効率化を図る。」の分析

##### a) 関連する中期計画の分析

計画 1－1 「【71】研究成果のデジタル化と体系的情報発信を可能とするポータル機能の充実等、学内外の学術情報流通基盤機能の整備・充実・強化を図る。」に係る状況

平成 17 年度に策定した学術機関リポジトリ構築のための全体構想「Tokyo Tech STAR」に基づき（資料 48－2－2 P203）、OpenCourseWare (OCW) の推進のほか（資料 28－8 P123）、Research Repository 構築のため、学内の学術研究論文等の一元的な蓄積・管理・発信を目的とした「T2R2 システム」を整備した。本システムは、登録を容易にする PDF 解析、CSV による一括入力等の多彩な入力サポート機能を備え、著書・論文ごとに研究者と関連付けて管理する等、学内の研究業績情報をより効率的・体系的に蓄積している（資料 71－1，2）。また、研究者自身の論文・業績管理に利用できるよう登録内容の多用な出力機能を有しているほか、ホームページにポータルサイトを設けて、統合的に検索可能なサービスを開始し、英文ホームページも設け、本学の学術研究論文等の研究成果情報を広く世界に発信している（資料 71－3）。

本学独自のデータベースとして、「文献データベース」においては、掲載論文情報が入手しにくい国際会議録・テクニカルペーパーの目次情報を収集しており、「学位論文データベース」においては、索引情報のみならず全文データの収集も進めている。また、本学教員の著書の目次情報及び表紙画像データを「学術図書目次データベース（Tokyo Tech Book Review データベース）」として公開しており、これらのデータベースは、蔵書検索システム（OPAC）において、図書・雑誌及び電子ジャーナル・電子ブックとともに、横断的な検索ができ、広く提供できるように整備されている（資料 71－4，5）。

電子図書館システムにおいては、本学の各種情報システムへのアクセスに関する一元的なアカウント管理をおこなっている「東京工業大学キャンパス共通認証・認可システム」と連携を図っており、個人情報保護法に基づく適切な個人情報の管理、情報セキュリティポリシーの遵守及び学内資源の効率的利用を行い、各種のオンラインサービスにおいて、個人認証の安全性と利用者にとっての合理性・効率性の確保を図っている。

これらの学術情報基盤の整備については、学長の戦略的マネジメント組織の一つである「情報基盤統括室」が、室長（理事・副学長（研究担当））のもと、附属図書館長を副室長として、戦略的に検討・実施する体制となっている。

## (資料 71-1) T2R2 システムの目的等

**目的**

T2R2(Tokyo Tech Research Repository)システム は、東京工業大学における教育・研究活動の産物である多様な知識資源の体系的な蓄積と発信をめざす [Tokyo Tech STAR](#) の柱の 1 つである Research Repository 構築のため、学内の学術研究論文等の一元的な蓄積・管理・発信を目的としたシステムです。

**特長**

T2R2 システムは、本学所属の全ての研究者が執筆された学術研究論文等のメタデータ(書誌情報等)および PDF ファイル形式の論文本文を登録・保存・公開するための機能を備えます。

T2R2 システムに登録された論文・著書は、T2R2 システムの検索サイトを通して、広く学内外の利用者による検索・閲覧が可能になります。また、研究者情報システムの研究業績データとしても活用されます。

T2R2 システムへのコンテンツ登録は研究者自身により行っていただきますが、論文登録のための労力をできるだけ少なくする入力サポート機能を備えるとともに、論文・著書の管理システムとしてご利用いただくために、登録済コンテンツの多目的な利用を可能とする多様な出力機能を備えています。

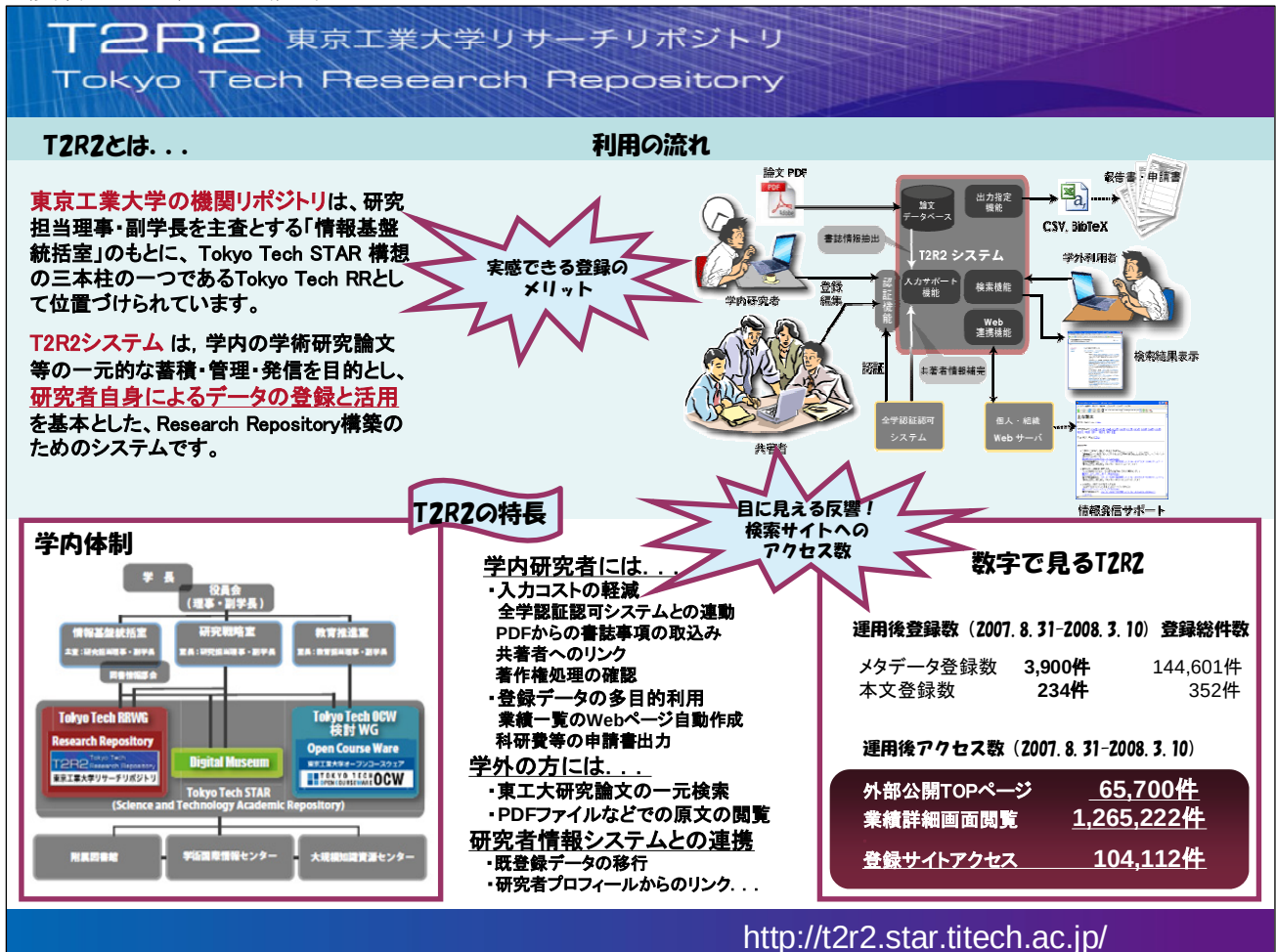
- ・ 論文登録のための労力をできるだけ少なくする[入力サポート機能](#)
- ・ 登録のメリットを実感できる多目的利用可能な[多様な出力形態](#)
- ・ 既存の他のシステムとの連携
  - 東工大業績一覧、研究者総覧(冊子版/Web 版)の原稿作成
  - [研究開発支援総合ディレクトリ\(ReaD\)](#)へのデータ提供
- ・ 大学管理のサーバによるデータの永続的な保存

**登録データの多目的利用による入力サポート機能**

- ・ [全学認証認可システム](#)の情報を有効活用  
東京工業大学キャンパス認証・認可システムと連動していますので、東工大 IC カードによる個人認証で利用いただけます。
- ・ 論文・著書の単位でコンテンツの管理を行っていますので、共著の場合にも、お一人が論文・著書を登録されれば、共著者全員で共有可能になります。
- ・ 各論文・著書の更新権限は、著者(共著者)のみに与えられますが、「入力代行者」を登録いただくことも可能になります。(平成 18 年度内)
- ・ 論文・著書の PDF ファイル登録後に、解析処理プログラムによりタイトル・著者名等の自動抽出を行うことができます。
- ・ 論文本文の蓄積・保存・公開には、全ての著作権者(著者・出版者)の許諾が必要になります。主な出版者の許諾状況については現在確認中です。
- ・ 共著の機会が多い研究者等のリストを作成いただくことができます。それにより、共著者入力の手間が軽減されます。
- ・ 所属される、COE、科学研究費補助金等の研究プロジェクトのリストを作成いただくことができます。それにより、個々の論文・著書登録時に、研究プロジェクトと結びつけることが可能になります。
- ・ PDF 解析による書誌情報の自動抽出
- ・ CSV ファイルによる一括入力機能を提供します。(平成 18 年度内)。

出典：T2R2 ホームページ

(資料 71-2) T2R2 概要


<http://t2r2.star.titech.ac.jp/>

出典：附属図書館作成 NII 交流会用資料

## (資料 71-3) T2R2 公開検索ページ

出典：T2R2 ホームページ

## (資料 71-4) 東京工業大学電子図書館サービスの主な特徴

## ○東工大 OPAC(蔵書検索)

- 東京工業大学附属図書館が所蔵する図書・雑誌・学位論文・科研費報告書・会議録等と東京工業大学で利用できる電子ジャーナル・電子ブックとの検索が同時に行えます。検索結果詳細画面に表示された URL をクリックすることで、OPAC から直接電子ジャーナル・電子ブックを利用することが可能です(学内のみ)。  
また、検索結果から電子ジャーナル本文や TDL オリジナルデータベースの目次情報へのアクセスができるようになりました。
- 雑誌の検索結果から、SwetsWise online contents(約 17,000 タイトルの外国雑誌の目次情報)による目次情報の確認が行えます(学内のみ)。
- 当該図書が貸出中か否かの確認ができ、貸出中の図書に対しては貸出予約を行えます。また、国立情報学研究所提供の「Webcat Plus」を検索することが可能です。
- さらに、「東京工業大学教員情報検索」システムとの相互リンクを実現しています。
- 検索結果を TDL オンラインリンクエラストの文献複写・貸借依頼サービス(e-DDS)に利用することが可能です(学内のみ)。
- 携帯電話対応版の OPAC をご利用いただけます。

## ○OTDL オリジナルデータベース

## ■文献データベース

NASA Technical Report をはじめ、東京工業大学が所蔵する国際会議録・テクニカルペーパーの最新目次情報データベースを作成・提供しています。収録件数: 国際会議録 356,911 件(2006 年 6 月現在)、テクニカルペーパー 148,083 件(2007 年 11 月現在)

また、SwetsWise online contents(約 17,000 タイトルの外国雑誌の目次情報)、SDOS(ScienceDirectOnSite, 62 タイトルの電子ジャーナル本文)の検索が行えます(学内のみ)。

## ■学位論文データベース

東京工業大学で授与された全ての学位論文(東京工業大学附属図書館所蔵)の索引情報を収録したデータベースを作成・提供しています。著者の許諾が得られた論文については、その全文を閲覧可能です。収録件数: 11,184 件(うち本文を公開

している論文:1,847 件)(2007 年 11 月現在)

- ・ **学術図書目次データベース(Tokyo Tech Book Review データベース)**  
「東工大先生の本文庫」を中心に学習用図書の書名・著者名に加え、目次情報が検索できます。許諾が得られた図書については表紙画像もあわせて閲覧できます。
- ・ TDL オリジナルデータベースのうち、文献データベース(国際会議録・テクニカルペーパー・SDOS)及び学位論文データベースを対象にした横断的な検索が可能です。

出典：附属図書館ホームページ

(資料 71-5) 本学オリジナルデータベースの利用状況

| データベース名                                  | H16 年度 | H17 年度 | H18 年度 | H19 年度 |
|------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 文献データベース                                 |        |        |        |        |
| 国際会議録                                    | 30,312 | 25,153 | 22,038 | 20,253 |
| テクニカルペーパー                                | 8,815  | 6,802  | 6,490  | 8,661  |
| 学位論文データベース                               | 20,360 | 19,084 | 18,420 | 21,546 |
| 学術図書目次データベース<br>(Tokyo Tech Book Review) | 1,487  | 3,315  | 3,597  | 3,864  |

出典：附属図書館作成資料

b) 「小項目 1」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

T2R2 (Tokyo Tech Research Repository) システムを整備し、本学研究者が執筆した学術研究論文等の書誌情報等を効率的に蓄積するとともに、登録内容を統合的に検索可能なポータルサイトを設け、広く情報発信している。

また、学術図書目次データベースの公開等、本学独自のデータベースの整備・拡充を図るとともに、蔵書検索システム(OPAC)との連携による横断的な検索機能を強化しており、情報流通サービスの拡大及び効率化を十分に行っている。

学術情報基盤の整備については、学長の戦略的マネジメント組織の一つである「情報基盤統括室」が戦略的に実施している。



○小項目2「全国学術情報流通の拠点として、外国雑誌センター館機能の整備充実を図る。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画2-1「【72】国内未収集の理工系外国雑誌を網羅的に収集するとともに、全国の研究者への情報サービスを実施する。」に係る状況

昭和52年度に理工学系外国雑誌センター館として指定を受け、現在では年間1,500タイトルを超える外国雑誌や国際会議録等を収集し、学内はもとより全国の研究者の利用に供している(資料72-1)。

コアジャーナル(国内所蔵館数の多い雑誌)については、国内所蔵館数調査や理工学分野の主要データベースの調査に基づき、また他の外国雑誌センター館と調整のうえ、可能なものから購入中止を進め、本学の特色であるレアジャーナル(特に国内未収集誌)を新規購入することにより、全大学において網羅的に収集できるようセンター館機能の充実を図っている(資料72-2)。

また、外国雑誌センター館として新規購入予定雑誌については、発注段階の情報提供を行うとともに(資料72-3)、国際会議録・テクニカルペーパーの巻号等の受入情報については、本学文献データベースの即時更新・提供に努め、年間約30,000件が参照されている(資料71-5 P282)。また、所蔵資料は、大学図書館間の文献複写物提供サービスを通じて全国の研究者へ年間約25,000件提供しており(資料72-4)、本サービス提供実績数は全国の大学で2位となっている(資料72-5)。

(資料72-1) 本学で受入れた外国雑誌タイトル数(外国雑誌センター館含む)

| H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 3,180 | 3,086 | 2,997 | 2,563 |

出典：附属図書館作成資料

(資料72-2) レアジャーナルへの切り替え件数

|                 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|
| コアジャーナル購入中止決定件数 | 113   | 162   | 81    | 73    |
| レアジャーナル新規購入決定件数 | 113   | 112   | 86    | 59    |

出典：附属図書館作成資料

(資料72-3) 外国雑誌センター館新規購入雑誌リスト

| 平成18年度外国雑誌センター館新規購入雑誌リスト(2006年8月23日現在)                               |                                                                                       |          |     |     |     |      |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----|-----|-----|------|
| (注)下記の雑誌は、予約時点で国立情報学研究所(NII)のデータベースに仮登録されます。雑誌の到着後は、直ちに書誌・所蔵が更新されます。 |                                                                                       |          |     |     |     |      |
| 項番                                                                   | 誌名                                                                                    | ISSN     | 医学系 | 理工系 | 農学系 | 人社会系 |
| 1                                                                    | AAll Journal                                                                          | 01923315 |     |     |     | 一橋大  |
| 2                                                                    | ABA Bank Marketing                                                                    | 15397890 |     |     |     | 一橋大  |
| 3                                                                    | ACS chemical biology                                                                  | 15548929 |     | 東工大 |     |      |
| 4                                                                    | Acta Geotechnica                                                                      | 18611125 |     | 京大  |     |      |
| 5                                                                    | Acta Geotechnica slovenica                                                            | 18540171 |     | 京大  |     |      |
| 6                                                                    | Actas Dermo-Sifiliograficas                                                           | 00017310 | 九大医 |     |     |      |
| 7                                                                    | Active Control of Sound and Vibration, International Symposium [proceedings]          |          |     | 東工大 |     |      |
| 8                                                                    | Actualités Pharmaceutiques Hospitalières                                              | 17697344 | 九大医 |     |     |      |
| 9                                                                    | Adhesion Society, Annual Meeting [proceedings]                                        |          |     | 東工大 |     |      |
| 10                                                                   | Administrer                                                                           | 07679939 |     |     |     | 一橋大  |
| 11                                                                   | Advanced emergency nursing journal                                                    | 19314485 | 阪大  |     |     |      |
| 12                                                                   | Advanced Materials Research                                                           | 10226680 |     | 東工大 |     |      |
| 13                                                                   | Advances in Contemporary Nursing                                                      | 18329861 | 九大医 |     |     |      |
| 14                                                                   | Advances in Difference Equations                                                      | 16871839 |     | 東工大 |     |      |
| 15                                                                   | Advances in Mathematics of Communications                                             | 19305346 |     | 京大  |     |      |
| 16                                                                   | Advances in organic synthesis                                                         | 15740870 |     | 京大  |     |      |
| 17                                                                   | AFP Exchange                                                                          | 15284077 |     |     |     | 一橋大  |
| 18                                                                   | Afro-hispanic review                                                                  | 02788969 |     |     |     | 一橋大  |
| 19                                                                   | Agraruaia Rossiia                                                                     |          |     |     | 東大農 |      |
| 20                                                                   | Agrbiological Research: Zeitschrift fuer Agrarbiologie - Agrikulturchemie - Oekologie | 09380337 |     |     | 東大農 |      |
| 21                                                                   | Agro food industry hi-tech                                                            | 11206012 |     |     | 東大農 |      |
| 22                                                                   | Agrokhimicheskij vestnik                                                              | 02352516 |     |     | 東大農 |      |
| 23                                                                   | Albeitar.                                                                             |          |     |     | 東大農 |      |
| 24                                                                   | American Drug Discovery                                                               | 15584461 | 九大医 |     |     |      |
| 25                                                                   | American Journal of Disaster Medicine                                                 | 1932149X | 九大医 |     |     |      |
| 26                                                                   | American Journal of Lifestyle Medicine                                                | 15598276 | 九大医 |     |     |      |
| 27                                                                   | American Journal of Neurodegeneration & Regeneration                                  | 19321481 | 九大医 |     |     |      |
| 28                                                                   | American review of politics                                                           | 10515054 |     |     |     | 一橋大  |
| 29                                                                   | Angewandte Festkoerperphysik                                                          | 16163427 |     | 京大  |     |      |
| 30                                                                   | Annals of plant protection sciences                                                   | 09713573 |     |     | 東大農 |      |
| 31                                                                   | Annals of Thoracic Medicine                                                           | 18171737 | 九大医 |     |     |      |
| 32                                                                   | Annual reports in computational chemistry                                             | 15741400 |     | 東工大 |     |      |
| 33                                                                   | Anuario Hortofruticola.                                                               | 0210637X |     |     | 東大農 |      |
| 34                                                                   | Applied Electrochemistry, International Forum [proceedings]                           |          |     | 東工大 |     |      |
| 35                                                                   | Applied Geophysics                                                                    | 16727975 |     | 東工大 |     |      |
| 36                                                                   | Applied Mechanics and Materials                                                       | 16609336 |     | 東工大 |     |      |

(以下省略)

出典：外国雑誌センター館ホームページ

(資料 72-4) 大学図書館間の文献複写提供サービス数

|              |                       | H16 年度  | H17 年度  | H18 年度  | H19 年度  |
|--------------|-----------------------|---------|---------|---------|---------|
| 文献複写<br>(学外) | 学外への依頼                | 4,591   | 4,210   | 3,728   | 2,685   |
|              | 学外からの依頼               | 27,058  | 25,435  | 26,376  | 23,241  |
| 文献複写<br>(学内) | 括弧(下段)は<br>e-DDS サービス | 3,941   | 3,483   | 2,933   | 2,378   |
|              |                       | (2,803) | (2,489) | (2,003) | (1,468) |

\* 申し込み受付数を集計 (実際に成立しなかったものも含む) 出典: 附属図書館作成資料

(資料 72-5) NACSIS-ILL 統計情報 複写受付件数順一覧 (平成 19 年度)

| NACSIS-ILL統計情報    |       |         |           |      |
|-------------------|-------|---------|-----------|------|
| 複写受付件数順一覧(平成19年度) |       |         |           |      |
| 処理途中の謝絶件数は含みません   |       |         |           |      |
|                   | 件数    | 機関名     | 参加組織ID    | 機関種別 |
| 1                 | 25335 | 阪大生     | FA002859  | N    |
| 2                 | 17864 | 東工大岡    | FA000106  | N    |
| 3                 | 16373 | 東北大医    | FA001404  | N    |
| 4                 | 14726 | 横浜市大医   | FA003782  | M    |
| 5                 | 13222 | 九大医     | FA003465  | N    |
| 6                 | 8098  | 京大      | FA002611  | N    |
| 7                 | 7831  | 東医大     | FA005915  | P    |
| 8                 | 7827  | 一橋      | FA002010  | N    |
| 9                 | 7482  | 慶大医     | FA005212  | P    |
| 10                | 7359  | 千大亥     | FA001765  | N    |
| 略                 |       |         |           |      |
| 61                | 3515  | 東工大すずかけ | FA000117  | N    |
| 62                | 3447  | 岡大鹿     | FA0003181 | N    |
| 以下略               |       |         |           |      |

出典: 国立情報学研究所目録所在情報サービスホームページ

b) 「小項目 2」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

理工学系外国雑誌センター館として、全国の外国雑誌の収蔵情報収集を行い、国内未収集の外国雑誌を集散的に購入して、全国の理工学系外国雑誌の網羅的な収集を図っている。

また、新規購入予定雑誌の発注段階での情報提供や本学文献データベースでの国際会議録・テクニカルペーパーの巻号等の受入情報の即時更新・提供に努めており、文献データベースは年間約 30,000 件が参照され、文献複写サービスは年間約 25,000 件を全国の研究者に提供し、拠点図書館としての役割を果たしている。



○小項目3「最先端科学技術分野における電子的資料を研究情報基盤として整備し、学術研究を支援する。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画3-1「【73】主要な理工系電子ジャーナル及び文献データベースを整備し、併せて人文・社会科学系分野の強化を図る。」に係る状況

平成16年度に継続的に整備する電子ジャーナル・学術文献データベースを策定し、それに基づき、自然科学系及び社会科学系分野の両面において整備を進めている（資料73-1, 2）。研究室等における外国雑誌購読希望調査の際には、新たに電子ジャーナル購読希望調査を行い、その結果も反映して整備している。

また、広く無料で公開されている、電子ジャーナル・学術文献データベース等についての情報を収集し、タイトル及びURL等をホームページ上で提供している。平成19年度には、新電子図書館サービスを開始し、有料・無料双方の電子ジャーナルを同一の画面で検索できるようにするとともに、蔵書検索システム（OPAC）及びオリジナルデータベースの検索結果から、電子ジャーナル本文や目次情報へのアクセス及び本学で資料を所蔵・購読していない場合の文献複写・貸借依頼までの一連をホームページ上で可能としている（資料73-3, 4）。さらに全学認証・認可システムと連動したネットワークアクセス機能により、本学が契約している電子ジャーナル等を学外からも利用可能となり、利便性が向上している。

このように利用環境も含めて整備を進めた結果、約27,000タイトル（うち、人文・社会科学系約8,600タイトル）がホームページ上から利用可能となり、活用されている（資料73-5）。

（資料73-1）電子ジャーナルサービス

東京工業大学・電子ジャーナルリスト / Tokyo Tech Electronic Journals list

Find it 東京工業大学

お問合せはAskサービスまで  
Any question, Ask here.

Attention / 利用上の注意

お知らせ

電子ジャーナルリスト

購読しているサービス

Citation Linker

Library top

Help

利用の前にお読みください

利用はこちらから

主なサービスの紹介

Articleへのリンクツール

図書館のHPです

使い方の手引きです

Subscribed Services / 購読しているサービス

|                     |                    |             |                       |
|---------------------|--------------------|-------------|-----------------------|
| ■ AAAS              | Science Online     | ■ ACM       | ACM Digital Library   |
| ■ ACS               | ACS Web Editions   | ■ AIP       | AIP Journals          |
| ■ APS               | APS Journals       | ■ ASCE      | ASCE Research Library |
| ■ Elsevier Science  | ScienceDirect      | ■ IEEE, IEE | IEL Online            |
| ■ John Wiley & Sons | Wiley InterScience | ■ NPG       | Nature. Com           |
| ■ RSC               | RSC Journals       |             |                       |
| ■ Springer          | SpringerLINK       |             |                       |

※旧Kluwer Online提供タイトルを含む

出典：附属図書館ホームページ

（資料73-2）学術文献データベース

| 東京工業大学が契約している学術文献データベース                                                              |                                                    |      |                                                                                        |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------|--|
| データベース名                                                                              | 利用できる環境                                            | 分野   | 概要                                                                                     |  |
| <a href="#">CiNii</a>                                                                | <a href="#">詳細</a><br>学内外<br>(機関購読サービス<br>部分は学内のみ) | 全般   | 日本の学協会誌に掲載されている論文を検索                                                                   |  |
| <a href="#">EBSCOhost</a>                                                            | <a href="#">詳細</a><br>学内                           | 全般   | 2000誌以上の雑誌論文本文と3400誌以上の抄録とインデックスを収録                                                    |  |
| <a href="#">Engineering Village</a>                                                  | <a href="#">詳細</a><br>学内                           | 工学   | 世界の工学系の論文情報や特許情報などを検索                                                                  |  |
| <a href="#">INIS</a>                                                                 | <a href="#">詳細</a><br>学内                           | 原子力  | 国際原子力情報システム (INIS: International Nuclear Information System) 参加国内で公刊された原子力関連文献の書誌情報を収録 |  |
| <a href="#">JSTPatM</a> <平日9:00-17:00>                                               | <a href="#">詳細</a><br>学内                           | 自然科学 | 国内特許情報と科学技術文献情報 (JST提供) を統合した「特許・文献統合データベース」。                                          |  |
| <a href="#">MathSciNet</a>                                                           | 学内                                                 | 数学   | 世界の数学文献に記載されている論文情報を1940年から収録                                                          |  |
| <a href="#">SciFinder Scholar</a><br><同時利用8名まで><br><専用のクライアントソフトウェアをインストールしてご利用ください> | <a href="#">詳細</a><br>学内                           | 化学   | CAS: Chemical Abstracts Serviceが提供する、化学分野を中心とした世界最大級のデータベース                            |  |

|                                                                       |                                     |    |      |                                            |
|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----|------|--------------------------------------------|
| <a href="#">ISI Web of knowledge<br/>Essential Science Indicators</a> | <a href="#">詳細</a>                  | 学内 | 全般   | 研究成果の評価、科学の研究動向をランキングや論評で提供                |
| <a href="#">ISI Web of knowledge<br/>Journal Citations Reports</a>    | <a href="#">詳細</a>                  | 学内 | 自然科学 | 学术界における雑誌の重要度、影響度を測るための指標(インパクトファクターなど)を提供 |
| <a href="#">ISI Web of knowledge<br/>Web of Science</a>               | <a href="#">詳細</a>                  | 学内 | 自然科学 | 約8,700誌を収録する学術文献・引用索引データベース                |
| <a href="#">First Search<br/>Article First</a>                        | <a href="#">First Search<br/>詳細</a> | 学内 | 全般   | OCLC製作による、ジャーナルの目次情報および記事情報                |
| <a href="#">First Search<br/>Econlit</a>                              | <a href="#">First Search<br/>詳細</a> | 学内 | 経済学  | 経済分野の雑誌、図書およびワーキングペーパー                     |
| <a href="#">First Search<br/>Geobase</a>                              | <a href="#">First Search<br/>詳細</a> | 学内 | 地理学  | 地理学、地質学およびエコロジーに関する世界の文献                   |
| <a href="#">First Search<br/>PsycFirst</a>                            | <a href="#">First Search<br/>詳細</a> | 学内 | 心理学  | 心理学および関連分野における最新3年間の文献                     |
| First Searchが収録するその他のデータベースは <a href="#">こちら</a>                      |                                     |    |      |                                            |
| ※ISI Web of knowledgeとFirst Searchは、複数のデータベースを取りまとめているサービスの名称です。      |                                     |    |      |                                            |

出典：附属図書館ホームページ

## (資料 73-3) 新電子図書館サービス

## 新電子図書館サービスについて(ご案内)

平成 20 年 2 月 12 日  
附属図書館

新電子図書館サービスの開始に伴い、新しくなりました機能をご案内申し上げます。なお、新電子図書館で提供する TDL オンラインリクエスト・サービスの一覧につきましては、「TDL オンラインリクエスト・サービス」概要を御覧ください。

## I. 文献入手支援機能の強化

- 東工大 OPAC(所蔵目録)の検索対象に、本学で購読している電子ブックおよび無料で公開されている電子ジャーナルが追加されました。これにより、図書・雑誌の所蔵、および、利用可能な電子ジャーナル・電子ブックを一括して検索できるようになりました。また、冊子体の所蔵の有無とあわせ、電子ジャーナル本文の利用可否も確認できます。
- リンクサービスを導入することにより、東工大 OPAC やオリジナルデータベースの検索結果から以下の操作が続けて行えるようになりました。
  - 検索結果や目次情報からの電子ジャーナルサイトで提供される論文本文へのアクセス
  - 本学で資料を所蔵・購読していない場合の文献複写・貸借依頼
- 電子ジャーナル管理サービスを導入することにより、電子ジャーナルサイトへのリンク切れを回避できるようになりました。
- 下記データベースの検索結果から東工大 OPAC を検索できるようになりました。  
Web of Science, Engineering Village, SciFinder Scholar, EBSCO host, CiNii, PubMed, First Search, MathSciNet, Google Scholar
- 従来は書類で受け付けていた下記サービスを Web から依頼できるようになりました。
  - 学内他キャンパス附属図書館からの図書の取寄せ
  - 私費による文献複写取寄せ

## II. 施設予約機能の追加

附属図書館大岡山本館グループ研究室、すずかけ台分館ゼミプレゼンテーション室、および、百年記念館会議室の利用予約を Web 上から行えるようになります。

なお、本機能による予約は、2008 年 4 月より受付を開始いたします。

## III. 図書館サービスに関する個人ポータルページの提供

新電子図書館サービスでは、ログイン後に、ログイン利用者が利用可能なサービスのみを掲載したポータルページを提供しております。ポータルページでは、各サービスの申込みや処理状況も御確認いただけます。また、ログイン利用者宛の図書館からのお知らせも御確認いただけます。

## IV. 代理人登録

下記サービスについて、予算管理者である教員の代理として依頼を行う方を登録できるようになりました。

- 図書館を通じた研究室備付雑誌の購読手続き
- 図書館を通して購入した雑誌の経費、および公費による文献複写・貸借依頼に要した経費の確認
- 百年記念館会議室の予約

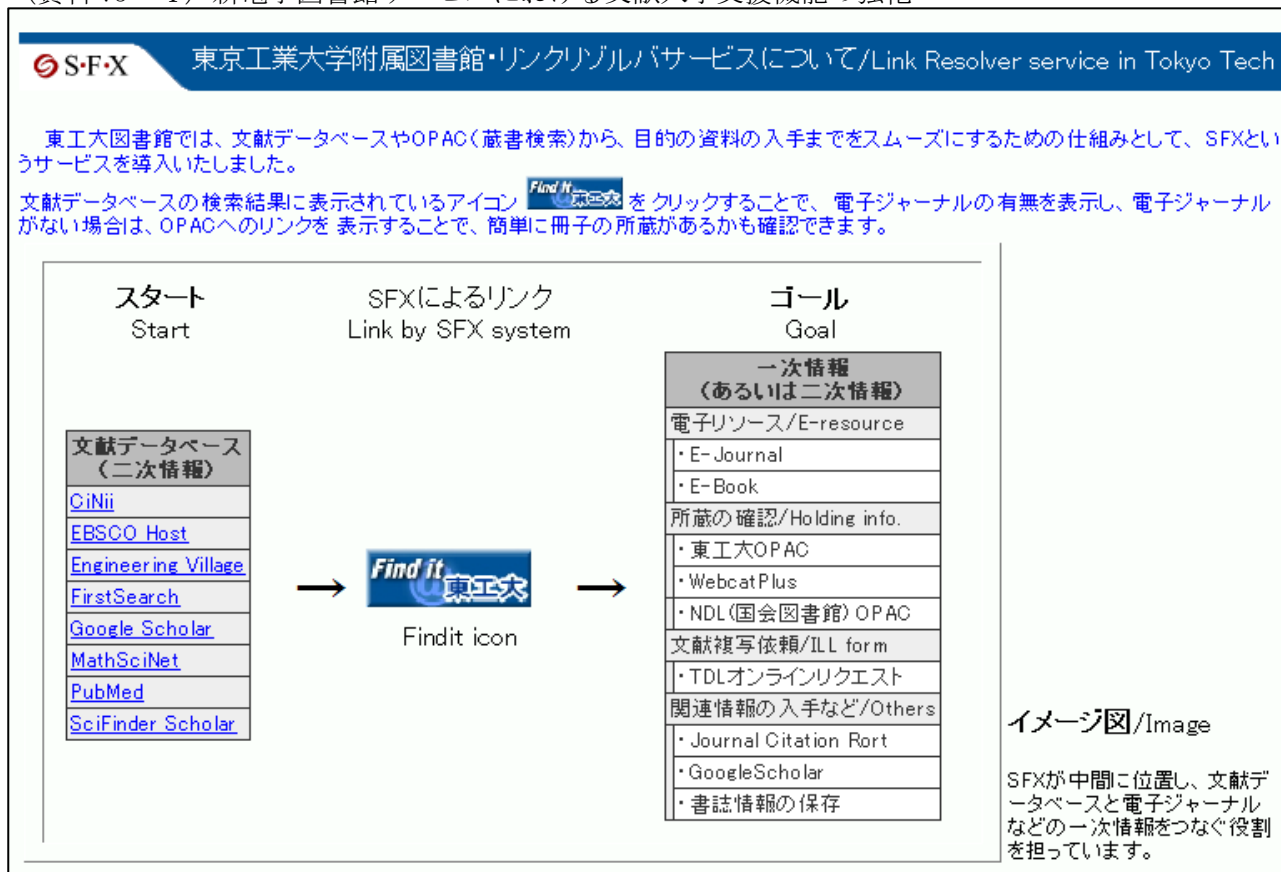
## V. ログイン ID、パスワードについて

旧サービスでは図書館独自のパスワードおよび認証によりサービスを御利用いただいておりましたが、新電子図書館サービスでは、TDL オンラインリクエストを御利用になる際のログイン ID、パスワードを東工大ポータルと統一いたしました。また、認証につきましては東工大ポータルと連携して行うように変更いたしました。

(以下省略)

出典：附属図書館ホームページ

## (資料 73-4) 新電子図書館サービスにおける文献入手支援機能の強化



出典：附属図書館ホームページ

## (資料 73-5) 電子ジャーナル主題別タイトル数及び利用実績等

| SFXによる主題別タイトル数                   |              | 2007.11 |
|----------------------------------|--------------|---------|
| <b>人文社会科学系</b>                   |              |         |
| Arts and Humanities              | 2986         |         |
| Business,Economy and Managem     | 1609         |         |
| Law                              | 716          |         |
| Library and Information Sciences | 415          |         |
| Social Sciences                  | 2910         |         |
|                                  | <b>8636</b>  |         |
| <b>自然科学系</b>                     |              |         |
| Agricultural Science             | 972          |         |
| Chemistry                        | 1648         |         |
| Earth Sciences                   | 673          |         |
| Engineering                      | 2051         |         |
| Environmental Sciences           | 864          |         |
| Health Sciences                  | 5272         |         |
| Information Technology           | 1730         |         |
| Life Sciences                    | 2461         |         |
| Material Science and Metallurgy  | 432          |         |
| Mathematical Sciences            | 1146         |         |
| Physics                          | 993          |         |
| Telecommunications Technology    | 387          |         |
|                                  | <b>18629</b> |         |

| 1. 契約電子ジャーナルタイトル数 |          |          |          |
|-------------------|----------|----------|----------|
| 平成 16 年度          | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
| 6,295             | 6,915    | 6,926    | 7,591    |

| 2. 契約電子ジャーナル利用実績(論文ダウンロード数) |           |           |           |
|-----------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 平成 16 年度                    | 平成 17 年度  | 平成 18 年度  | 平成 19 年度  |
| 1,121,569                   | 1,283,546 | 1,346,382 | 1,307,828 |

※ 主要 10 出版社・学協会提供分についての実績

| 3. 学術文献データベース利用実績(利用回数) |          |          |          |
|-------------------------|----------|----------|----------|
| 平成 16 年度                | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
| 106,124                 | 124,800  | 139,333  | 135,672  |

※ 主要3データベースの実績

出典：附属図書館作成資料

※主題別タイトル数には無料公開分を含む

b) 「小項目 3」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

主要な理工系電子ジャーナル及び学術文献データベースを整備するとともに、広く無料で公開されている電子ジャーナルについても、人文・社会科学系分野を含め提供を行っている。さらに新電子図書館システムの導入により、電子ジャーナルサービス等と本学 OPAC（蔵書検索）との連携をさらに強化し、電子媒体と紙媒体資料を組み合わせた情報を効果的に発信しており、学術研究支援を充実させている。

○小項目4「自学自習効果を高めるために、図書・資料等の充実を図るとともに、情報アクセス環境の整備および図書館サービスの拡大強化を実現する。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画4-1「【74】図書館の利用方法や情報探索の方法等、情報リテラシー教育の支援を行う。」に係る状況

図書館サービス利用支援のため、利用案内や各種マニュアル等を整備し、全てホームページ上で公開している(資料74-1)。同時に「Ask サービス」と題した利用者からの質問の受付及び回答メニューを用意し、その中から作成した「よくある質問とその回答(FAQ)」を併せて公開しており、19年度は170件利用されている。(資料74-2)。

また、新入生に対する「図書館オリエンテーション」、日本語と英語による「ライブラリツアー」、短期留学生(YSEP)のための英語による講習会等を実施しているほか、ウェブ版ライブラリツアーを掲載している。論文作成等の支援として、研究室に対する個別講習会、出張講習会、オーダーメイド講習会、学内者向けの学術文献データベース利用講習会を開催している(資料74-3)。

さらに学部1年次全員が対象の授業「コンピュータリテラシ」において、「図書館で情報検索」と題する講義を図書館職員が行い、アンケート結果により有用性を確認しているほか、一部の学科・専攻の授業において行っている電子ジャーナルの利用方法を中心とした講義は、当初の年間2講義から平成19年度には4講義となり、平成20年度からは7講義となる予定である(資料74-4)。

平成20年2月に自己点検評価を実施し(資料74-5)、翌月外部評価委員会を開催した(資料74-6)。評価の指標とした図書館利用者アンケート(資料74-7)は、図書館サービスに対する高い満足度が示されており、アンケート結果は図書館サービスの強化方策の参考としている。

(資料74-1) 図書館利用マニュアル一覧

| 利用マニュアル PDFファイルを見るには <a href="#">Acrobat Reader</a> が必要です |                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 論: 論文検索、記: 記事検索、所: 図書、雑誌などの所蔵検索                           |                                                                                                                                                                                                                             |
| ・初めて東工大図書館を利用する方                                          |                                                                                                                                                                                                                             |
| <a href="#">ライブラリツアー on the web</a>                       | ウェブ版ライブラリツアーです。                                                                                                                                                                                                             |
| <a href="#">OPACでの検索方法</a> (PDF)                          | 東工大が所蔵する資料を検索します。                                                                                                                                                                                                           |
| <a href="#">OPAC 検索結果の見方[図書]</a> (PDF)                    | 目的の本を、入手するまでの流れを紹介します。                                                                                                                                                                                                      |
| <a href="#">OPAC 利用ガイド検索結果の見方[雑誌]</a> (PDF)               | 目的の雑誌を、閲覧するまでの流れを紹介します。                                                                                                                                                                                                     |
| ・電子ジャーナルの利用方法                                             |                                                                                                                                                                                                                             |
| <a href="#">電子ジャーナル利用法</a> (PDF)                          | 電子ジャーナルの特色、および個々の電子ジャーナルタイトルページを表示する手順を解説                                                                                                                                                                                   |
| <a href="#">主要な電子ジャーナルサービスの利用方法</a> (PDF)                 | 電子ジャーナルタイトルページ内で論文を表示する手順を解説                                                                                                                                                                                                |
| ・日本語データベース(日本語で検索/日本の論文・記事を検索)                            |                                                                                                                                                                                                                             |
| <a href="#">ぶんそく</a> (PDF) 論                              | <a href="#">科学技術文献速報(CD-ROM)</a> です。日本語で海外論文が検索可能。                                                                                                                                                                          |
| ・欧文データベース                                                 |                                                                                                                                                                                                                             |
| <a href="#">EBSCOhost</a> (PDF) 論                         | 外国雑誌掲載論文を検索するデータベース。場合によっては全文入手も可能。                                                                                                                                                                                         |
| <a href="#">Engineering Village</a> (PDF) 論               | Compendex 等、工学系データベースを同一の検索画面から利用できる。 <a href="#">解説</a>                                                                                                                                                                    |
| <a href="#">FirstSearch</a> (PDF) 所 論                     | 米国 OCLC 提供のデータベースです。全分野対象。 <a href="#">解説</a>                                                                                                                                                                               |
| <a href="#">Web of Science</a> (PDF) 論                    | インターネットブラウザを介して、SCI が検索できるサービスです。 <a href="#">解説</a><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">機能別資料(1)</a> : ある論文がどれだけ引用されているか調べるには?</li> <li>・ <a href="#">機能別資料(2)</a> : ある雑誌のインパクトファクターを調べるには?</li> </ul> |

出典: 附属図書館ホームページ

(資料 74-2) 「Ask サービス」 及び 「よくある質問とその回答 (FAQ)」

Askサービス (質問・要望等 受付)

利用の手引き

図書館で調査・回答できる範囲での各種質問および図書館への要望等を受け付けています。  
回答が必要な方は「氏名」「E-mailアドレス」「連絡先」を必ずご記入ください。  
E-mailでの回答を原則としています。メールアドレスをお持ちの方は必ずご記入ください。  
質問内容を入力して「送信」をクリックしてください。

依頼館 大岡山

利用者ID  持っている方は入力して下さい。(半角12文字まで)

氏 名  匿名も可能です。(全角50文字まで)

所 属

E-mailアドレス  (半角90文字まで)

連絡先(電話番号等)  (半角120文字まで)

タイトル  (入力必須) (全角256文字まで)

質問・要望等の内容 

(全角1024文字まで)

調査済の資料等がありましたらお書きください。  
調査済資料等 

(全角1024文字まで)

回答を希望する ☐ 図書館からの回答を希望する方はチェックをつけてください。

送信

クリア

よくある質問(FAQ)

◆キーワード検索 事例からキーワードによる検索を行う場合はこちらをご利用ください。  
キーワード: 

検索

◆事例分類別 事例として登録されているジャンルから参照する場合はこちらをご利用ください。  
  
利用資格・登録: 職員・学生 卒業生 一般利用者 学生証・職員証 オンラインリクエスト(含 e-DDS)  
施設・環境: 開館時間 各種施設 コピー機 空調 駐輪・駐車施設 その他  
資料: 資料配置 図書 雑誌 新聞 会議録 学位論文 視聴覚資料 電子ジャーナル データベース 寄贈・推薦 その他資料  
図書貸出: 貸出 返却 予約 その他  
検索: 資料の所在の検索 論文の検索  
複写: 著作権  
資料入手: 学外からの入手 他キャンパスからの入手  
Q&A 事例集:

◆事例一覧表示 登録してある事例をすべて参照したい場合は、こちらをクリックしてください。  
⇒ [登録レファレンス事例一覧](#)

出典: 附属図書館ホームページ

(資料 74-3) 平成 19 年度講習会等

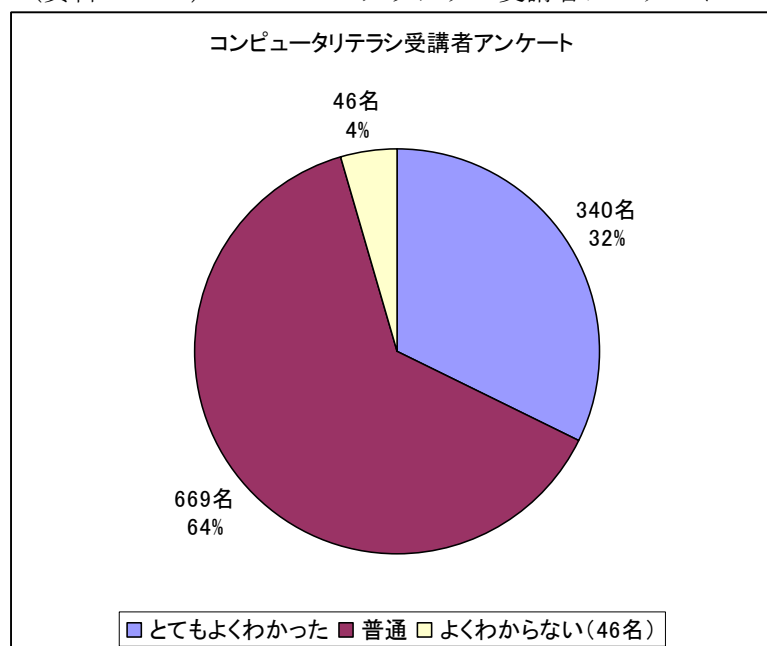
| 開催日      | 講習会名称                             | 内 容                                                                                                     |                                |         |
|----------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|---------|
|          |                                   | 場 所                                                                                                     | 対 象                            | 参加人数    |
| 3/8-4/2  | プレ・ライブラリーツアー(英語)                  | 館内の配置と利用方法の案内<br>すずかけ台分館                                                                                | 東工大の学生                         | 5 名     |
| 3/8-4/2  | プレ・ライブラリーツアー(日本語)                 | 館内の配置と利用方法の案内<br>すずかけ台分館                                                                                | 東工大の学生                         | 7 名     |
| 4/4      | 研究室向け講習会<br>(理工学研究科[工系])          | OPAC/電子ジャーナル/データベース/オンラインリクエスト<br>研究棟内パソコン室                                                             | 学部 4 年生～博士, 助手                 | 13 名    |
| 4/4-4/19 | ライブラリーツアー(日本語)                    | 館内の配置と利用方法の案内<br>図書館(大岡山本館)                                                                             | 東工大の学生                         | 77 名    |
| 4/4-4/19 | ライブラリーツアー(英語)                     | 館内の配置と利用方法の案内<br>図書館(大岡山本館)                                                                             | 東工大の学生                         | 5 名     |
| 4/4-4/19 | ライブラリーツアー(日本語)                    | 館内の配置と利用方法の案内<br>図書館(すずかけ台分館)                                                                           | 東工大の学生                         | 24 名    |
| 4/4-4/19 | ライブラリーツアー(英語)                     | 館内の配置と利用方法の案内<br>図書館(すずかけ台分館)                                                                           | 東工大の学生                         | 2 名     |
| 4/11     | オーダーメイド講習会                        | OPAC/電子ジャーナル/データベース/オンラインリクエスト/館内案内<br>図書館(大岡山本館)カウンター                                                  | 学部 4 年生～博士(情報理工学)              | 3 名     |
| 4/23     | 研究室出張講習会                          | OPAC/電子ジャーナル/データベース<br>図書館(大岡山本館)カウンター                                                                  | 学部 4 年生(理工学研究科[工系])            | 4 名     |
| 4/24     | 授業(「セラミックス実験第一」)                  | OPAC/図書と雑誌の特性<br>講義室                                                                                    | 学部 4 年生 (材料工学専攻)               | 35 名    |
| 5/9      | 文献探索スキルアップ講座                      | 電子ジャーナル/データベース/オンラインリクエスト<br>すずかけホール                                                                    | 修士 1 年～博士 3 年, 教員(生命理工学研究科)    | 98 名    |
| 5 月 15 日 | 研究室向け講習会                          | データベース(Web of Science, PubMed)<br>ゼミ・プレゼンテーションルーム                                                       | 学部 4 年生～博士 3 年, 教員(生命理工学研究科)   | 13 名    |
| 5 月 25 日 | 研究室向け講習会                          | 電子ジャーナル, データベース(Ginii, Engineering Village, SciFinder Scholar, Web of Science), 電子ブック(化学資料館)<br>研究棟内会議室 | 学部 4 年生～博士 3 年, 教員(理工学研究科[理系]) | 22 名    |
| 5/8-5/30 | コンピュータリテラシ(学部全学科目[情報ネットワーク科目])    | OPAC 検索/図書の探し方/オンラインサービス<br>情報ネットワーク演習室(大岡山/すずかけ台)                                                      | 学部 1 年生                        | 1,025 名 |
| 6 月 13 日 | 研究室向け講習会                          | データベース(Web of Science, PubMed)<br>ゼミ・プレゼンテーションルーム                                                       | 学部 4 年生～博士課程                   | 16 名    |
| 8 月 1 日  | 外部講師「電子ジャーナルと引用分析」講習会             | Web of Science と電子ジャーナルの活用法の説明<br>演習棟第一演習室                                                              | 修士～博士課程の学生, 教職員                | 46 名    |
| 9 月 25 日 | Library Guidance for YSEPstudents | 図書館サービス/図書・雑誌の探し方/電子ジャーナル利用方法<br>図書館会議室                                                                 | YSEP 生                         | 28 名    |



|           |                                             |                                                         |              |     |
|-----------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------|-----|
| 9月27日     | オーダーメイド講習会                                  | 図書・雑誌の探し方/文献の探し方                                        |              |     |
|           |                                             | 図書館(大岡山本館)カウンター                                         | 職員(研究室図書室担当) | 1名  |
| 10月4日     | 授業「応用化学文献講読」                                | 学術論文とは/電子ジャーナル/電子ブック/学術文献データベース                         |              |     |
|           |                                             | 情報ネットワーク演習室2(大岡山)                                       | 応用化学科3年生     | 46名 |
| 9/26-10/5 | ライブラリーツアー(日本語)                              | 館内の配置と利用方法の案内                                           |              |     |
|           |                                             | 図書館(大岡山本館)                                              | 東工大の学生       | 7名  |
| 9/26-10/5 | ライブラリーツアー(英語)                               | 館内の配置と利用方法の案内                                           |              |     |
|           |                                             | 図書館(大岡山本館)                                              | 東工大の学生       | 15名 |
| 9/26-10/5 | ライブラリーツアー(日本語)                              | 館内の配置と利用方法の案内                                           |              |     |
|           |                                             | 図書館(すすかけ台分館)                                            | 東工大の学生       | 3名  |
| 9/26-10/5 | ライブラリーツアー(英語)                               | 館内の配置と利用方法の案内                                           |              |     |
|           |                                             | 図書館(すすかけ台分館)                                            | 東工大の学生       | 4名  |
| 10月16日    | 授業「化学情報検索演習」                                | 学術論文とは/電子ジャーナル/学術文献データベース                               |              |     |
|           |                                             | 学術国際情報センター 第一実習室                                        | 化学科3年生       | 41名 |
| 10月24日    | SciFinder Scholar 2007 講習会                  | SciFinder Scholar の基本的説明 / SciFinder Scholar 2007 新機能   |              |     |
|           |                                             | 図書館(大岡山本館)会議室                                           | 東工科大学内者      | 23名 |
| 10月26日    | SciFinder Scholar 2007 講習会                  | SciFinder Scholar の基本的説明 / SciFinder Scholar 2007 新機能   |              |     |
|           |                                             | 図書館(すすかけ台分館)3階ゼミプレ<br>ゼンテーションルーム                        | 東工科大学内者      | 18名 |
| 10月31日    | オーダーメイド講習会                                  | CiNii / 電子ジャーナルサービスの検索機能                                |              |     |
|           |                                             | 図書館(大岡山本館)カウンター                                         | 修士1年         | 1名  |
| 11月14日    | 人間行動システム研究法 第二                              | 学術文献データベース / 電子ジャーナル / オンラインリクエストサービス / Web上の学<br>術情報資源 |              |     |
|           |                                             | 学術国際情報センター 第一演習室                                        | 修士1年         | 12名 |
| 11月28日    | 「ScienceDirect & Engineering<br>Village」講習会 | ScienceDirect と Engineering Village の便利な機能              |              |     |
|           |                                             | 演習棟第一演習室                                                | 東工科大学内者      | 24名 |

出典：附属図書館ホームページ

(資料 74-4) コンピュータリテラシ受講者アンケート



出典：附属図書館作成資料



## (資料 74-5) 附属図書館自己点検評価報告書目次

平成 19 年度  
東京工業大学附属図書館自己点検評価報告書  
目次

|                                   |    |                                                            |    |
|-----------------------------------|----|------------------------------------------------------------|----|
| 1 附属図書館の目的及び使命 -----              | 1  |                                                            |    |
| 2 附属図書館の概要、組織運営、施設・設備 -----       | 2  |                                                            |    |
| 2. 1 概要 -----                     | 2  |                                                            |    |
| 2. 2 組織運営 -----                   | 4  |                                                            |    |
| 2. 2. 1 組織の編成と管理運営 -----          | 4  |                                                            |    |
| 2. 2. 1. 1 館長・分館長 -----           | 4  |                                                            |    |
| 2. 2. 1. 2 運営委員会等 -----           | 5  |                                                            |    |
| 2. 2. 1. 3 事務組織 -----             | 6  |                                                            |    |
| 2. 2. 1. 4 自己評価と対策 -----          | 6  |                                                            |    |
| 2. 2. 2 財務 -----                  | 8  |                                                            |    |
| 2. 2. 2. 1 予算 -----               | 8  |                                                            |    |
| 2. 2. 2. 2 自己評価と対策 -----          | 8  |                                                            |    |
| 2. 3 施設・設備 -----                  | 10 |                                                            |    |
| 2. 3. 1 施設・設備等の整備状況 -----         | 10 |                                                            |    |
| 2. 3. 1. 1 建物 -----               | 10 |                                                            |    |
| 2. 3. 1. 2 書架・書庫 -----            | 10 |                                                            |    |
| 2. 3. 1. 3 学習支援施設・設備 -----        | 10 |                                                            |    |
| 2. 3. 1. 4 アンケート調査による利用者の声 -----  | 11 |                                                            |    |
| 2. 3. 1. 5 自己評価と対策 -----          | 12 |                                                            |    |
| 3 領域別評価 -----                     | 14 |                                                            |    |
| 3. 1 資料の収集・整備について -----           | 14 |                                                            |    |
| 3. 1. 1 整備状況と収集体制 -----           | 14 |                                                            |    |
| 3. 1. 1. 1 整備状況 -----             | 14 |                                                            |    |
| 3. 1. 1. 2 収集の体制 -----            | 16 |                                                            |    |
| 3. 1. 1. 3 アンケート調査による利用者の声 -----  | 17 |                                                            |    |
| 3. 1. 1. 4 自己評価と対策 -----          | 18 |                                                            |    |
| 3. 1. 2 電子ジャーナル及び学術文献データベース ----- | 20 |                                                            |    |
| 3. 1. 2. 1 整備状況 -----             | 20 |                                                            |    |
| 3. 1. 2. 2 利用状況 -----             | 20 |                                                            |    |
| 3. 1. 2. 3 アンケート調査による利用者の声 -----  | 21 |                                                            |    |
| 3. 1. 2. 4 自己評価と対策 -----          | 22 |                                                            |    |
| 3. 2 利用者支援など「サービス状況」について -----    | 23 |                                                            |    |
|                                   |    | 3. 2. 1 開館の状況、利活用状況 -----                                  | 23 |
|                                   |    | 3. 2. 1. 1 開館の状況 -----                                     | 23 |
|                                   |    | 3. 2. 1. 2 利用の状況 -----                                     | 23 |
|                                   |    | 3. 2. 1. 3 アンケート調査による利用者の声 -----                           | 25 |
|                                   |    | 3. 2. 1. 4 自己評価と対策 -----                                   | 27 |
|                                   |    | 3. 2. 2 情報リテラシー支援 -----                                    | 28 |
|                                   |    | 3. 2. 2. 1 図書館利用指導・利用者支援・利用講習会 -----                       | 28 |
|                                   |    | 3. 2. 2. 2 アンケート調査による利用者の声 -----                           | 29 |
|                                   |    | 3. 2. 2. 3 自己評価と対策 -----                                   | 29 |
|                                   |    | 3. 2. 3 図書館間相互協力 -----                                     | 30 |
|                                   |    | 3. 2. 3. 1 文献複写・現物貸借 (ILL: Interlibrary Loan) -----        | 30 |
|                                   |    | 3. 2. 3. 2 アンケート調査による利用者の声 -----                           | 31 |
|                                   |    | 3. 2. 3. 3 自己評価と対策 -----                                   | 32 |
|                                   |    | 3. 2. 4 社会貢献、図書館公開 -----                                   | 33 |
|                                   |    | 3. 2. 4. 1 一般市民へのサービス -----                                | 33 |
|                                   |    | 3. 2. 4. 2 地域 (近隣) 図書館等との連携 -----                          | 34 |
|                                   |    | 3. 3 電子図書館サービスと Tokyo Tech STAR 構想による情報発信について -----        | 35 |
|                                   |    | 3. 3. 1 電子図書館システム (Tokyo Tech Digital Library (TDL)) ----- | 35 |
|                                   |    | 3. 3. 2 利用者の声と自己評価・対策 -----                                | 36 |
|                                   |    | 3. 3. 3 Tokyo Tech STAR 構想による情報発信と学術機関リポジトリ -----          | 38 |

出典：附属図書館自己点検評価報告書

(資料 74-6) 外部評価委員会議事次第

**東京工業大学附属図書館 外部評価委員会 議事次第**

日 時 平成20年 3月5日(水) 13:20~17:00

場 所 附属図書館4階 会議室

1. 開会

(1) 館長挨拶

(2) 委員及び職員紹介

2. 委員長選出

3. 附属図書館の現況報告(プレゼンテーション)

(1) 附属図書館の概要, 組織運営, 施設・設備について

(2) 資料の収集・整備について

(3) 利用者支援など「サービス状況」について

(4) 電子図書館サービスと Tokyo Tech STAR 構想による情報発信について

4. 質疑応答

5. 委員による意見交換・意見調整

6. 講評

7. 閉会

配布資料

1. 東京工業大学附属図書館 自己点検評価報告書

2. 東京工業大学附属図書館自己点検評価報告書・資料編

3. 図書館利用者アンケート集計結果報告

4. 附属図書館利用者アンケート・ご協力のお願い

5. 図書館利用案内

6. 東京工業大学 2007-08 PROFILE (大学概要)

7. 東京工業大学附属図書館外部評価委員会委員名簿

\* 閉会后, 懇親会(於: 館長室)を開催いたします。

出典: 附属図書館作成資料

(資料 74-7) 図書館利用者アンケート集計結果 (平成 19 年度実施, 回答数 518)

## 図書館利用者アンケート集計結果報告

東京工業大学附属図書館

Q15 貸出冊数・日数についてはどう思われますか？

|              | 学部生 | 修士生 | 博士生 | 研究生他 | 教員  | 研究員 | 職員 | 無回答 | 計   | 率    |
|--------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|-----|------|
| 現状に満足している    | 90  | 131 | 42  | 8    | 129 | 5   | 16 | 1   | 422 | 78%  |
| 貸出冊数を増やして欲しい | 21  | 5   | 2   | 0    | 1   | 1   | 3  | 1   | 34  | 6%   |
| 貸出日数を延ばして欲しい | 24  | 13  | 3   | 1    | 2   | 1   | 1  | 0   | 45  | 8%   |
| 無回答          | 6   | 6   | 1   | 4    | 16  | 2   | 1  | 2   | 38  | 7%   |
| 計            | 141 | 155 | 48  | 13   | 148 | 9   | 21 | 4   | 539 | 100% |

※学部生でもっとも希望の多かったもの 貸出冊数:10冊 貸出日数:3週間  
 ※院生でもっとも希望の多かったもの 貸出冊数:20冊 貸出日数:2ヶ月

Q16 図書館のオンライン蔵書目録 (OPAC) は利用されますか？

|           | 学部生 | 修士生 | 博士生 | 研究生他 | 教員  | 研究員 | 職員 | 無回答 | 計   | 率    |
|-----------|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|-----|------|
| よく利用している  | 49  | 55  | 20  | 2    | 45  | 3   | 6  | 0   | 180 | 35%  |
| 時々利用する    | 53  | 71  | 19  | 7    | 68  | 2   | 5  | 2   | 227 | 44%  |
| あまり利用しない  | 14  | 9   | 6   | 0    | 19  | 1   | 3  | 0   | 52  | 10%  |
| 利用したことはない | 3   | 4   | 2   | 1    | 6   | 1   | 3  | 0   | 20  | 4%   |
| 使い方が分からない | 4   | 5   | 0   | 1    | 2   | 0   | 2  | 1   | 15  | 3%   |
| 無回答       | 5   | 6   | 0   | 2    | 8   | 1   | 1  | 5   | 28  | 5%   |
| 計         | 128 | 150 | 47  | 13   | 148 | 8   | 20 | 4   | 518 | 100% |

Q17 電子ジャーナルを利用されたことはありますか？

|                       | 学部生 | 修士生 | 博士生 | 研究生他 | 教員  | 研究員 | 職員 | 無回答 | 計   | 率    |
|-----------------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|-----|------|
| ある                    | 46  | 118 | 44  | 5    | 130 | 6   | 7  | 0   | 356 | 69%  |
| ない                    | 65  | 20  | 1   | 3    | 8   | 1   | 9  | 2   | 109 | 21%  |
| そんなサービスをしていることを知らなかった | 12  | 7   | 2   | 3    | 3   | 0   | 3  | 1   | 31  | 6%   |
| 無回答                   | 5   | 5   | 0   | 2    | 7   | 1   | 1  | 5   | 26  | 5%   |
| 計                     | 128 | 150 | 47  | 13   | 148 | 8   | 20 | 4   | 518 | 100% |

(略)

## 図書館利用者アンケート集計結果報告

東京工業大学附属図書館

Q21 図書館では、オーダーメイド講習会、ライブラリ・ツアー、授業での講義・実習などさまざまなサービスをご提供していますが、これについてご意見はありますか？

「様々の企画をよくやられていると思います。」(教員)

「よい企画なので、より参加者を増やすように広報に努めて欲しい。」(教員)

「一度だけ利用させてもらいました。参加してよかったと思います。」(教員)

「たいへん良い企画と思っています。」(教員)

「文献の探し方や利用上の注意(オンライン論文とか)などをまとめたリーフレットのようなものがあると嬉しいです」(学部生)

「定期的な開催・開催の広い周知」(博士生)

「講習会を開催してもらったことがあるが、継続して行ってほしい。」(職員)

「図書館のサービスは学生の学習に役立つことが多いので、具体的に何をやっているかが学生達によく伝わるように、これからも努力していただきたいと思います。」(修士生)

「春にライブラリツアー(案内)をしていただきました。図書館が利用しやすくなり、役に立ちました。ありがとうございました。」(学部生)

「sciFinderの講習会は非常に良かった。このような機会があればまた利用する。」(修士生)

「電子ジャーナルや電子ブックの使い方は授業で知り、とても役立っています。」(学部生)

「宣伝はまだ足りないと思う。上に書いてあるサービスのうち、ライブラリ・ツアーしか知りませんでした。」(学部生)

最後に、図書館をよりよくするために、図書館に対するご意見、ご要望があればお書きください。

主なご意見・ご要望項目

- ・開館時間延長
- ・適度な空調
- ・トイレの整備
- ・電子ジャーナルの充実
- ・新刊書の購入

(以下略)

出典：附属図書館作成資料

計画4-2 「【75】授業に必要な理工系資料及び人格形成に必要な人文科学系・社会科学系資料の収集整備を図る。」に係る状況

附属図書館が収集する資料については、「附属図書館資料選定方針」(資料75-1)に基づき、蔵書整備委員会において、本学の授業用教科書に指定されている図書やシラバスに記載された授業用参考図書、年2回実施する全教員に対する推薦依頼結果(資料75-2)、常時受け付けている教員からの推薦や学生等からのリクエスト並びに委員会委員による新刊和書を中心とした推薦候補について、理工系分野と人文・社会科学系分野のバランスを考慮して選定している(資料75-3)。

理工学系以外の分野についても幅広い知識や教養を深めることを目的として、すずかけ台分館に「ペリパトス文庫」を開設し、小説・新書等を中心とした1,700冊あまりの図書を備え、貸出も4,000冊を超えている(資料75-4)。

また、ホームページ上での図書の予約のほか、予約可能時のメール通知サービス(資料75-5)、学習用図書のより詳細な検索のための約3,500冊の著書目次情報等のデータベース化(資料75-6)、期末試験期間に配慮した開館時間の延長(資料37-4)、等、自学自習効果を高めるための環境面について整備している。

「全学共通認証・認可システム」と連携を図り、学外からもOPAC(蔵書検索)やオリジナルデータベースサービス、電子ジャーナルサービス、オンラインリクエストサービス等といった電子図書館サービスを、安全性・安定性が確保された環境で利用することが可能となった。

「Tokyo Tech STAR」構想にある、ホームページ上で講義資料を提供する「Tokyo Tech OCW」は、平成19年度末293科目公開しており(資料28-8 P123)、情報アクセス環境を格段に向上している。館内にキャンパス公衆無線LANアクセスポイントを設置し、情報アクセス環境の整備及び利用者の自学自習効果の向上が実現されている。

(資料75-1) 東京工業大学附属図書館資料選定方針

(趣旨)

第1条 この方針は、図書館における利用者サービスに適合する資料の選定について必要な事項を定める。

(目標)

第2条 図書館における資料は、学生の教育内容及びカリキュラム等との関連を考慮して次の目標のもとに選定を行う。

- 一 本学の授業科目がある学問分野については、授業との連携をとりつつ、教育効果を最大に高めることを目標として、その分野の基礎的及び専門的知識を修得するために必要な資料を備える。
- 二 本学に授業科目がない学問分野については、基礎的資料を精選して提供する。
- 三 一般教養の修得及び人格形成に必要な基礎的資料を精選して提供する。

(以下省略)

出典：附属図書館文書

## (資料 75-2) 図書館学生用図書の推薦について

平成19年6月20日

教 授  
准 教 授 各位  
講 師附属図書館長  
高 橋 幸 雄

## 図書館学生用図書の推薦について(依頼)

日頃より、附属図書館の運営にご協力をいただき感謝しております。  
附属図書館では、例年、先生方のご推薦により学部生・大学院生の自学・自習用の学生用図書を選定し、利用に供しています。

また、あわせて授業内容に関して参考となる授業関連図書についても推薦いただき、購入してきました。  
つきましては、今年度についても、上記目的にふさわしい図書を収集し学生に提供したいと思っておりますので、下記のとおりにて担当係宛にご推薦下さるようお願いいたします。

## 記

## 1. 推薦していただく図書

## 1) 学生用図書

学部生・大学院生が利用する一般図書(学習用、教養)及び専門分野の入門書としてふさわしいものをご推薦ください。

## 2) 授業関連図書(2007 年度後期授業用)

シラバスに記載されている教科書、参考図書及びそれに準ずる図書をご推薦ください。

(以下省略)

出典：附属図書館文書

## (資料 75-3) 分類別図書一覧 (平成19年度)(単位：冊)

| 区 分  | 和 書     | 洋 書     | 計       | 割 合     |
|------|---------|---------|---------|---------|
| 総 記  | 10,271  | 12,966  | 23,237  | 3.00%   |
| 哲 学  | 15,882  | 8,129   | 24,011  | 3.10%   |
| 歴 史  | 19,650  | 5,910   | 25,560  | 3.30%   |
| 社会科学 | 50,434  | 31,669  | 82,103  | 10.60%  |
| 自然科学 | 83,004  | 212,100 | 295,104 | 38.10%  |
| 工 学  | 97,355  | 140,432 | 237,787 | 30.70%  |
| 産 業  | 12,951  | 6,413   | 19,364  | 2.50%   |
| 芸 術  | 7,968   | 8,298   | 16,266  | 2.10%   |
| 語 学  | 7,281   | 7,435   | 14,716  | 1.90%   |
| 文 学  | 21,345  | 15,059  | 36,404  | 4.70%   |
| 合 計  | 326,141 | 448,411 | 774,552 | 100.00% |

出典：附属図書館作成資料

## (資料 75-4) ペリパトス文庫



---

**お知らせ**

2007年に貸出数の多かった図書を、ランキング形式で紹介いたします。本を選ぶ際の参考にしてください。(2008.2.15)  
⇒[2007年貸出ランキング](#)

2008年1月、すずかけ台地区5部局のご支援により、皆様からリクエストいただいた図書をはじめ、話題の新刊、文庫等400冊あまりが、「憩いの空間ペリパトス文庫」に新たに加わりました。(2008.2.8)  
⇒[新着図書リスト](#)

---

**ペリパトス文庫とは**

2007年3月、附属図書館すずかけ台分館内に、「ペリパトス文庫」がオープンしました。小説、新書、ガイドブック等の新刊書を中心とした図書1000冊余りを備え、できるだけくつろいだ雰囲気読書に親しむことのできる空間を目指しています。開設にあたっては、大学院総合理工学研究科から経費のご支援を頂き、総理工と附属図書館の協力のもと開設の準備を行いました。

この文庫が、主にすずかけ台キャンパスで研究・学習生活を過ごす学生および教職員の皆さんにとって、理工学系以外の分野についても知識や教養を深める一助となり、合わせてこのスペースが研究・学習活動の合間に憩える空間のひとつとなることを願っています。

---

**利用の方法**

学生、教職員を問わず、どなたでもご自由に利用いただけます。貸出を希望される方は、図書と東工大ICカードを持ってカウンターにいらしてください(自動貸出機はご利用いただけません)。一般利用者の方も図書館利用証を作成されている方であれば、貸出することができます。通常の図書とは別に、2冊まで貸出可能です。皆さまのご利用をお待ちしています。

出典：附属図書館ホームページ

## (資料 75-5) オンラインリクエストサービス (図書貸出予約の概要)

**I. 図書貸出予約の概要**

- 借りたい図書が貸出中の場合、[東工大蔵書検索\(OPAC\)](#)の所蔵情報画面からその図書に対して予約をすることができます。
- ※ただし、**貸出可能な同じ図書(複本)が学内にいる場合は予約できません。**
- 予約した図書が貸出可能になると、附属図書館に登録されている電子メールアドレス宛に連絡されます。
- 利用にあたっては、利用者IDと電子メールアドレスが必要です。
  - 利用者登録手続きについての御確認は、[附属図書館Askサービス](#)へお願いします。
  - 電子メールアドレスの確認・変更・登録は附属図書館カウンターで手続きされるか、TDLオンラインリクエスト・サービスメニューの[利用者情報変更](#) (東工大ICカードを発行されている方が対象)から行ってください。
- 初めて利用する場合は、使用するブラウザの設定を御確認ください。
 

→ [TDLオンラインリクエストサービスのブラウザ設定について](#)
- お問い合わせは[附属図書館Askサービス](#)へお願いします。

---

**II. 貸出中の図書を予約する**

1. [東工大蔵書検索\(OPAC\)](#)で資料を検索し、所蔵情報画面を表示させます。
2. OPACで検索した資料が貸出中の場合、所蔵情報の予約・取寄の欄に **予約・取寄** が表示されています。
3. **予約・取寄** をクリックすると、
  - 予めTDLオンラインリクエストにログインした後に、サービスメニューページから蔵書検索(OPAC)を検索した場合は、「予約確認」画面が開きます。
  - TDLオンラインリクエストのサービスメニューページ以外からOPACを検索した場合は、図書予約・取寄せ用の「ユーザ認証画面」が開き、ログインすると「予約確認」画面が開きます。
4. 予約図書が貸出可能になった際に、受け取る図書館を選択します。
5. 予約内容を確認し、**依頼を行う** をクリックします。予約しない場合は **ウィンドウを閉じる** をクリックします。
6. 「予約完了画面」へ遷移し、完了した予約の受付番号が表示されます。なお、附属図書館カウンターに問合せをする際には、受付番号をお伝えください。

出典：附属図書館ホームページ

(資料 75-6) 学術図書目次データベース (Tokyo Tech Book Review データベース)

### 学術図書目次データベース 1

Step.3

目次データに「温暖化」と入力

目次に「温暖化」を含むものがヒット

©2007東京工業大学附属図書館

32

### 学術図書目次データベース2

Step.3

このマークがあれば 目次情報を見られます

詳細画面中のタイトルをクリック

目次一覧を表示

©2007東京工業大学附属図書館

33

出典：平成 19 年度コンピュータリテラシ講義資料

## b) 「小項目 4」の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

附属図書館の利用方法や情報探索の方法等について、利用経験・目的に応じた講習会・講義の実施等の支援を行っている。図書の整備は、「蔵書整備委員会」において、教員の推薦を受けるなど、授業との連携をとりつつ、自然科学系分野と人文・社会科学系分野のバランスを考慮して選書している。また、情報アクセス環境についても学術図書目次データベースの導入を図るなど整備を進め、学外からのアクセスを可能とするなど図書館サービスを拡大強化し、効果的に自学自習が行えるような環境を整備している。



## ○小項目5「クリエイティブ空間としての次世代図書館構想を策定する。」の分析

## a) 関連する中期計画の分析

計画5-1「【76】図書館、学術国際情報センター、フロンティア創造共同研究センター、地球史資料館、博物館（現百年記念館展示部門）を統合し、各組織の機能向上、各組織が連携した研究・学習・社会貢献のための新たな情報提供及びサービスの拡大を目指した複合型施設の設置を検討し、具体的方策を策定する。」に係る状況

図書館、学術国際情報センター、フロンティア創造共同研究センター、地球史資料館、百年記念館展示部門を統合した複合型施設の設置を目的に、平成16年度に各組織の代表者による懇談会及び「次世代情報関連施設の機能の在り方に関する検討WG」を設置し、各施設の現状分析を行い、各組織の機能向上・組織連携によるサービス拡大の具体的内容を検討し、中間報告書を取りまとめている（資料76-1）。これにより、これまでの物理的な新施設の設置構想から、施設の枠を超えたバーチャルな組織運営を基本とする全学的な情報コンテンツの収集・発信体制の構築を基本方針として、「次世代情報関連施設の機能の在り方に関する検討WG」に代わる「Tokyo Tech STAR 検討WG」を設置して、平成17年度には、①研究論文（「研究情報」）の蓄積・発信を行うオープンリサーチリポジトリ（Open Research Repository: ORR）、②Tokyo Tech OpenCourseWare (Tokyo Tech OCW)を中心とする講義コンテンツ（「教育」）の蓄積・発信、③図書館・百年記念館・地球史資料館等に代表される研究成果物(Non-Digitized Repository)の提供・展示及びその電子的発信（Open Digital Museum: ODM）を柱としたTokyo Tech STAR (Science and Technology Academic Repository)構想を策定した（資料48-2-2 P203）。

各柱の具体的機能については、検討を重ね、Tokyo Tech OCW（資料28-8 P123）、Tokyo Tech ORR（資料71-1 P279）などを、次々に実現している。

（資料76-1）次世代情報関連施設の機能の在り方に関する検討WG中間報告書（抜粋）

**6. 情報蓄積・発信機能の充実**

学内で生産・蓄積された、有形・無形の知的財産を、本学としての合意形成を行った上で、事業・業務として一定の方針のもとに収集・整理・保存し、世界に向けて情報発信することは、社会に対する本学の研究・教育活動の説明責任を履行すると同時に、大学としての知名度を向上させ、延いては共同研究や外部資金等を獲得することに繋がるものと考えられる。

具体的な知的財産には、学術論文はもとより、プレプリント、ワーキングペーパー、テクニカルペーパー、修士論文、博士論文、教材情報等々の研究成果、それらのデジタル情報、画像情報が先ず挙げられる。また、百年記念館やフロンティア創造共同研究センターが所有する発明機器、製作作品、試作機器、最新技術で作られた機器、模型、復元物等の学術標本とそれらに関する画像情報、地球史資料館が所有する化石、鉱物及び岩石等の標本とその高精細画像情報、及びそれらの資料に係る解説情報も含まれる。デジタル情報、画像情報をデータベース化し、収集・発信すれば、バーチャルなミュージアムとしての機能を持たせることができる。

本学では、附属図書館が業務として情報を蓄積・発信している学位論文情報、東工大先生の本の目次情報及び研究者情報等を除き、研究室又は個人で、自ら生産した学術論文（書誌情報又は全文情報）等をデータベース又はホームページ上で管理している、あるいは全く管理していない両パターン<sup>（注）</sup>の教員がいるものと思われる。

他方、本学内では、MITのOCWに呼応した、教育に関するコンテンツ情報をインターネット上に構築する事業が、大学の事業として本格的に稼働し始めている。また、学術国際情報センターの教員等による「教育・研究コンテンツの蓄積と活用」をテーマに、講義資料、講義ビデオ及び学術論文等を蓄積し、高度情報検索機能による情報提供を可能とするシステム構築の研究・開発が行われている。

このような状況の中で、これまで紙媒体や電子媒体上に記録した学術情報を収集・組織化・利用提供、そして保存を行ってきた附属図書館が、その図書館機能の延長上で、知的財産の電子的蓄積及び情報発信を推進する中心的役割を担うことが考えられる。もちろん、学術国際情報センターをはじめ、21世紀COEプログラム「大規模知識資源の体系化と活用基盤構築」関係教員等とも密接に連携し、かつ支援を受け、知的財産の蓄積・発信に必要な、すべての要素・システムの研究・開発、システム構築及び情報のデータベース化を推進する必要がある。

ついては、21世紀個性輝く東京工業大学検討委員会情報基盤部会のもとに、例えば「機関リポジトリ<sup>（注）</sup>構築WG」あるいは「情報蓄積・活用検討WG」といった名称のワーキンググループを設置することを提案する。【資料2】参照。

（注）大学で生産された電子的な知的生産物を補足し、保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫

## 資料2

## 機関リポジトリ(Institutional Repository)構築検討WG(仮称)の設置について(案)

## 1. 目的

学内で生産された電子的な知的生産物(知的財産)を、大学の合意形成を受けた上で、事業として一定の方針のもとに収集・整理・保存し、インターネットを介して社会に情報発信するシステムを構築することを目的とする。

## 2. 当面の課題

- ・どのような種類のデジタルコンテンツ(例えば、学術論文、博物資料等)を優先して登録するのか。
- ・附属図書館TDLシステムと他のシステムとの連携
- ・研究者情報システム(データの流用を含め)と他のシステムとの連携
- ・機関リポジトリ(Institutional Repository)構築の必要性について、学内教職員に認知してもらう啓蒙活動

## 3. 検討WGの位置付け

21世紀個性輝く東京工業大学検討委員会情報基盤部会のもとに、検討WGを設置。

## 4. 構成メンバー

- ・情報蓄積・活用専門委員会委員 名
- ・学術情報部情報図書館課職員 名
- ・学術情報部情報基盤課職員 名
- ・部局等から数名(関心のある方) 名
- ・その他

## 5. 設置期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日

## 6. 庶務

学術情報部情報図書館課

## 7. 電子的コンテンツの種類

1. 学術雑誌や学会誌等に投稿された論文のうち、オープンアクセスの許諾が得られた論文(全文)
2. 博士論文及び修士論文(著作権の許諾が必要)
3. プレプリント、ワーキングペーパー、テクニカルペーパー(著作権の許諾が必要)
4. 講義に使用する教材(教材、映像資料 著作権の許諾が必要)
5. シラバス、OCW(現在、別システムで構築中)
6. 博物資料(発明機器、模型、陶芸品、東工大歴史資料等の高精細画像やテキスト)
7. ソフトウェア、データベース(著作権の許諾が必要)

## 参考資料

1. 東工大における情報蓄積・活用の中期目標・中期計画に関するメモ(H14.8.1)
2. 東京工業大学デジタル科学・技術アーカイブ(ポータルサイト)の構築(全学的な視野に立った提案書)

出典：次世代情報関連施設の機能の在り方に関する検討WG中間報告書

## b)「小項目5」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が良好である。

(判断理由)

社会及び学内から次世代情報関連施設に求められている機能について検討を行い、Tokyo Tech STAR構想を策定している。この構想の下、T2R2、OCWといった全学的な情報コンテンツの収集・発信を次々に開始し、教育・研究・社会貢献のための新たな情報提供及びサービスの拡大を図っている。

## ②中項目 1 の達成状況

(達成状況の判断)

目的の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

附属図書館の有する学術情報については、本学のみならず、拠点図書館として、全国的な教育・研究の基盤であるとの認識のもと、学長の戦略的マネジメント組織の一つである「情報基盤統括室」を中心に戦略的に整備を推進している。

蔵書検索システム (OPAC) を中心とした電子図書館システムを充実させるとともに、主要な電子ジャーナル・学術文献データベースを整備し、電子媒体と紙媒体資料を組み合わせ、効果的に運用している。また、外国雑誌センター館として、国内の網羅的な収集が可能となるよう国内未収集の外国雑誌を中心に収集を進め、国内外の研究者の学術研究を支援している。

学生の自学自習効果を高めることを配慮した図書・資料の収集及び利便性とセキュリティを考慮した情報アクセス環境の充実等を図っている。

学内関係組織の連携により Tokyo Tech STAR 構想を策定し、T2R2, OCW といった全学的な情報コンテンツの収集・発信を次々に開始しており、附属図書館を中心とした学術情報基盤が、本学の教育・研究活動の重要な基盤となっている。

## ③優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 本学における学術研究活動の成果を、一元的かつ恒久的に、効率的に収集・蓄積・保存するため、T2R2 システムを開発し運用を開始している。また、本システムは、体系的情報発信を可能とするポータル機能を有しており、広く国内外に無償で発信・提供している。運用後 6 ヶ月強の期間に、登録サイトアクセス数が 104,112 件、業績詳細画面閲覧数が 1,265,222 件となっている。(計画 1-1, 5-1)
2. 理工学系雑誌の収集数において国内最大規模を誇る図書館であり、また分野別に 9 大学に配置された外国雑誌センター館の一つとして、国内未収集の外国学術雑誌等を体系的に収集・整理し、国内外の研究者等を対象にサービスを提供している。また、大学図書館間の文献複写物提供サービスに力を入れ、その提供実績数は全国の大学で 2 位となっている。(計画 2-1)
3. 新電子図書館システムの導入により、電子ジャーナルサービス等と本学 OPAC (蔵書検索) との連携をさらに強化し利便性を高めたことなどから、利用実績の増加に繋がっている。(計画 3-1)

(改善を要する点)

該当なし。

(特色ある点)

1. 本学教員等の著書約 3,500 冊の目次情報等を独自にデータベース化することにより、学習用図書により詳細な検索を可能としており、利用数も年々増加している。(計画 1-1, 4-2)
2. 「東京工業大学キャンパス共通認証・認可システム」を利用することで、全世界どこからでも OPAC (蔵書検索) やオリジナルデータベースサービス、電子ジャーナルサービス、オンラインリクエストサービス等を利用することが可能となり、自学自習の環境整備が進んでいる。(計画 1-1, 4-2)
3. 専門的な知識を有する図書館職員が、学部 1 年次全員が対象の授業「コンピュータリテラシ」を毎年実施しているほか、一部の学科・専攻の授業において行っている電子ジャーナルの利用方法を中心とした講義は、授業依頼の増加により平成 20 年度は年間 7 講義の開講を予定している。(計画 4-1)